

都市計画マスタープラン地域別構想 (地域別の状況と課題) について

令和5年11月

目次

1. 地域別構想の考え方 P 1

- (1) 地域別構想の役割 P 1
- (2) 地域区分の設定 P 2

2. 地域別の状況について P 3

- (1) 中央地域
 - 地域の現状 P 3
 - 住民ニーズの方向性 P 10
 - 現行計画の進捗状況 P 12
- (2) 東部地域
 - 地域の現状 P 15
 - 住民ニーズの方向性 P 22
 - 現行計画の進捗状況 P 24
- (3) 南部地域
 - 地域の現状 P 26
 - 住民ニーズの方向性 P 33
 - 現行計画の進捗状況 P 35
- (4) 西部地域
 - 地域の現状 P 37
 - 住民ニーズの方向性 P 44
 - 現行計画の進捗状況 P 46

- (5) 北部地域
 - 地域の現状 P 48
 - 住民ニーズの方向性 P 55
 - 現行計画の進捗状況 P 57

3. 地域別の課題について P 59

- (1) 中央地域 P 59
- (2) 東部地域 P 61
- (3) 南部地域 P 63
- (4) 西部地域 P 65
- (5) 北部地域 P 67

(1) 地域別構想の役割

- 都市計画マスタープランの「地域別構想」は、全体構想で描いた将来像を実現するために、市全域という広域的な視点を持ちつつも、地域ごとの特性や課題、求められている役割に応じて、各地域の目標やその実現に向けたまちづくりの方針を示すもの。

【都市計画マスタープランの構成】

※令和4年度に検討済

全体構想

- ◆ まちづくりの基本理念
- ◆ まちづくりの目標
- ◆ 将来都市構造



- ◆ 分野別まちづくり方針

基本的項目		横断的項目	
1	土地利用	7	景観
2	道路・交通施設	8	環境
3	公園・緑地	9	暮らし
4	上水道・下水道		
5	河川・海辺		
6	市街地・集落地整備		



地域別構想

- ◆ 地域別まちづくり構想の考え方



- ◆ 地域別のまちづくり構想

地域区分	
1	中央地域（唐津、浜玉、北波多）
2	東部地域（七山）
3	南部地域（厳木、相知）
4	西部地域（肥前）
5	北部地域（鎮西、呼子）

※ 地域ごとに以下の項目を定める

- 地域の概況と課題 → 第5回会議(今回)で提示
- まちづくりの目標 } 第6回会議(次回)で提示予定
- まちづくりの重点方針 }

(2) 地域区分の設定

- 地域区分は、①自然的要素、②歴史・文化的要素、③将来都市構造図のゾーン、④市内における通勤通学状況、⑤都市性格分類を踏まえ、5つの地域に区分している。

北部地域（鎮西、呼子）
玄海の食や大陸との交流の歴史・文化資源の活用による国際観光・交流の地域づくり

中央地域（唐津、浜玉、北波多）
唐津市の要として情熱ある市民活動とともに市全体の活力をけん引する地域づくり

東部地域（七山）
清流、温泉、檜原湿原などの資源を活かした都市・農山村交流の山里づくり

西部地域（肥前）
いろは島、大浦の棚田、鷹島肥前大橋などの海と里の資源を活かした都市・農漁村交流の郷づくり

南部地域（厳木、相知）
松浦川・厳木川を中心とした多彩な地域資源と高速交通体系を活かした産業と調和による水と緑の郷づくり

地域区分に関する補足

それぞれの地域区分は明確に線引きされるものではなく、特に他の地域と隣接するエリアについては、隣接する地域の特色も併せ持つエリアとして、一体感のあるまちづくりを進めていく。

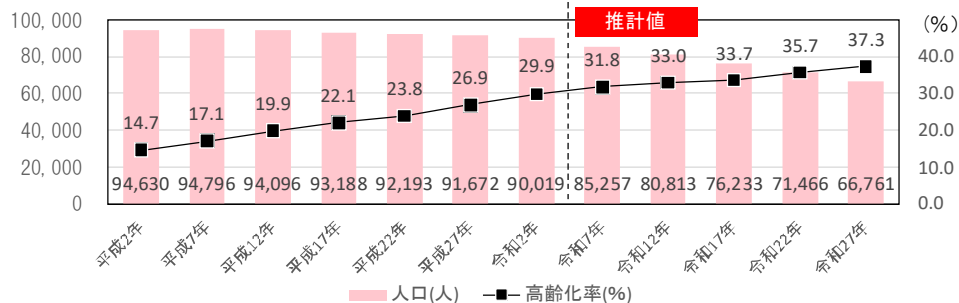
中央地域のうち、湊、屋形石地区については、北部地域における観光・交流の地域づくり、浜玉の玉島地区については、玉島川の流域として、東部地域における自然環境を活かした地域づくりとの連携 など

(1) 中央地域 ～地域の現状～

人口推移・高齢化率

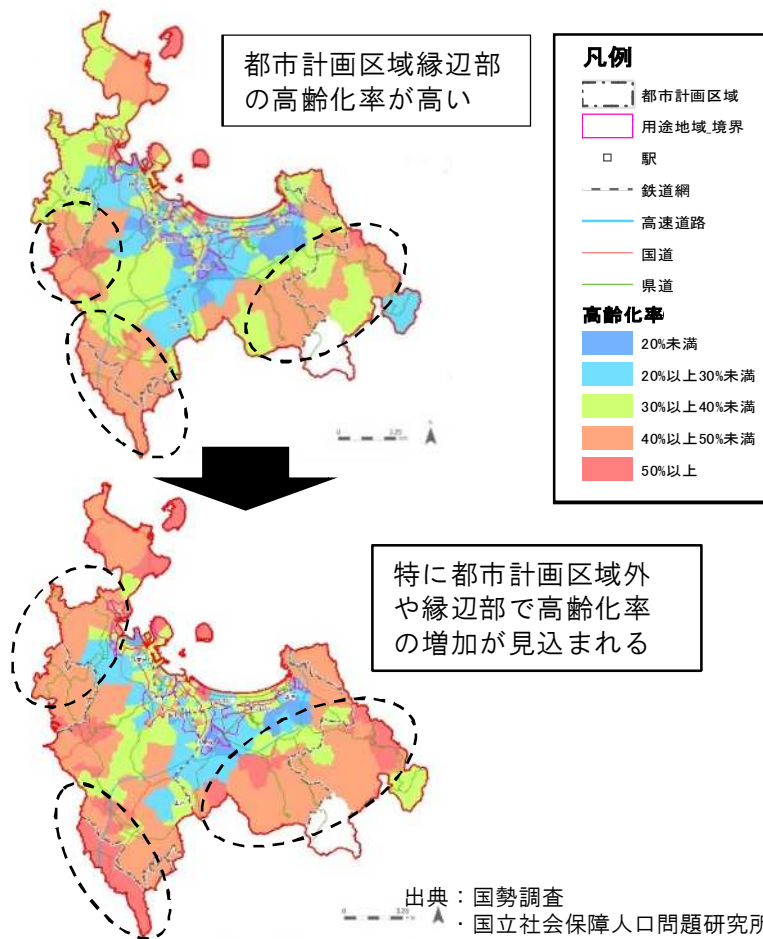
- 令和2年の人口は90,019人（平成22年比で97.6%）であり、今後も人口減少が見込まれている。一方、高齢化率は29.9%（平成22年比で6.1ポイント増）であり、今後も高齢化率の増加が見込まれている。
- 人口分布をみると、用途地域周辺やJR沿線に人口が集中しており、令和12年も同様の分布がみられる。
- 高齢化率の分布では、都市計画区域外で高齢化率40%以上の町丁目が多く、令和12年にはさらに増加する。

【地域別の人口及び高齢化率の推移】

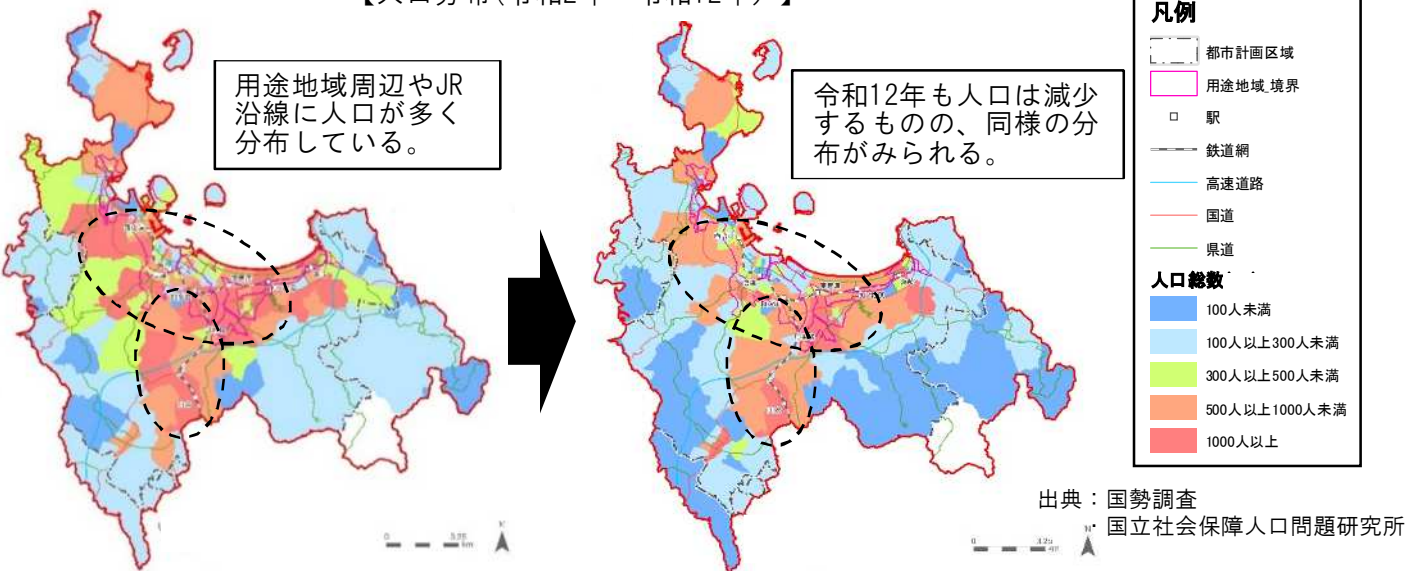


出典：国勢調査・国立社会保障人口問題研究所

【町丁目別の高齢化率の分布（平成27年・令和12年）】



【人口分布(令和2年・令和12年)】

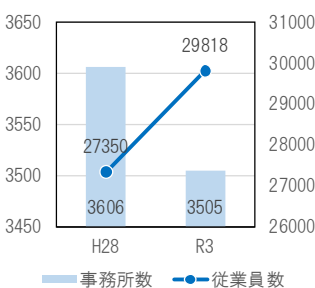
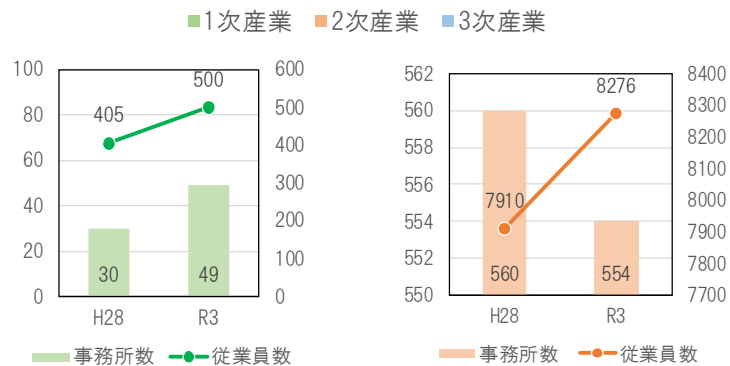
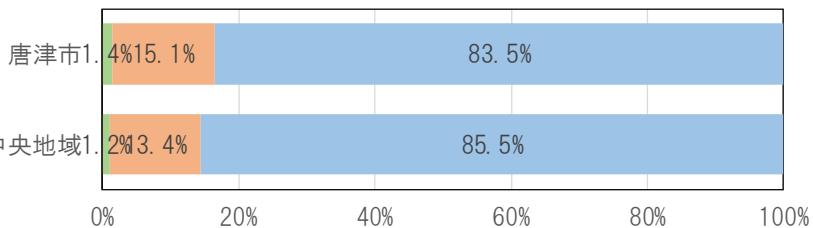


出典：国勢調査
国立社会保障人口問題研究所

産業・商業

- 事業所の産業別割合をみると、第3次産業が85.5%と市全体の割合よりもわずかに高い。
- 小売店舗は67店舗あり、人口カバー率は82.8%と市平均よりも高く、比較的日常的な買い物がしやすい環境となっている。
- 他地域からの集客のある大規模小売店舗の多くが用途地域内に立地しているが、近年では国道202号唐津バイパスの沿道などにも立地するようになった。

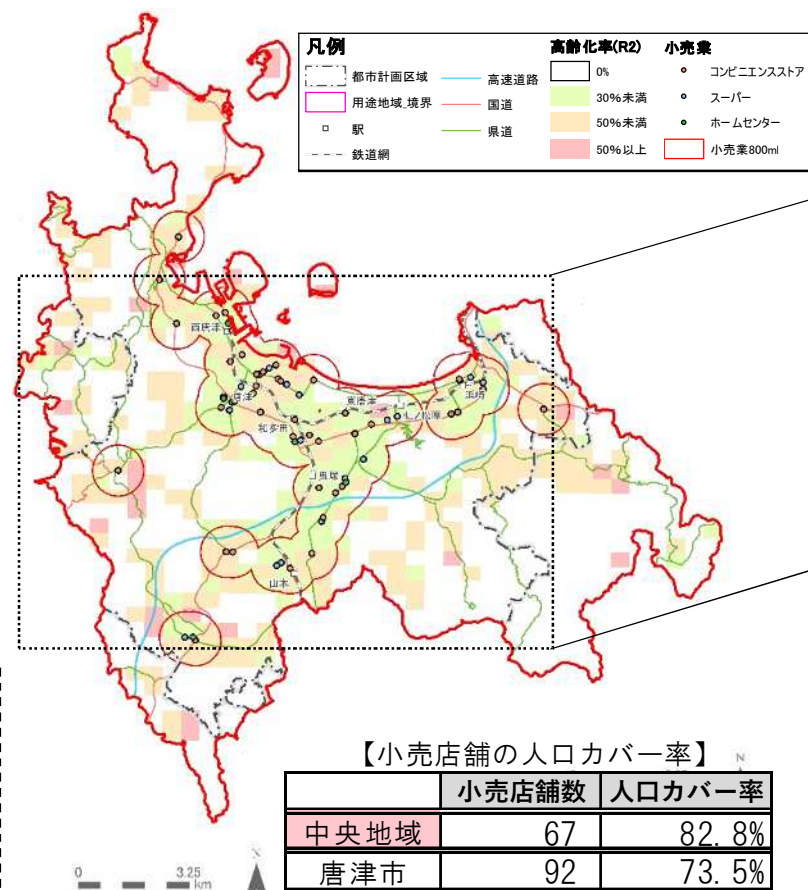
【事業所の産業別割合】



H28と比較すると、事業所数では第1次産業のみ増加しており、従業員数では、どの産業も増加傾向にある。また、中央地域では、食品加工業などの進出がみられる。

出典：経済センサス(H28・R3) 進出(立地)協定締結企業一覧(唐津市HP)

【小売店舗の立地状況と高齢化率(R2)】

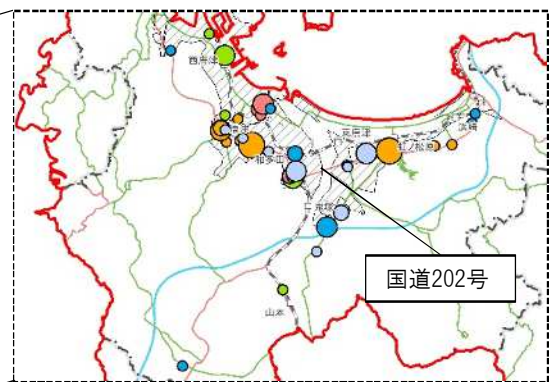


【小売店舗の人口カバー率】

	小売店舗数	人口カバー率
中央地域	67	82.8%
唐津市	92	73.5%

出典：基礎調査データ (H29年度)

【大規模小売店舗立地状況】

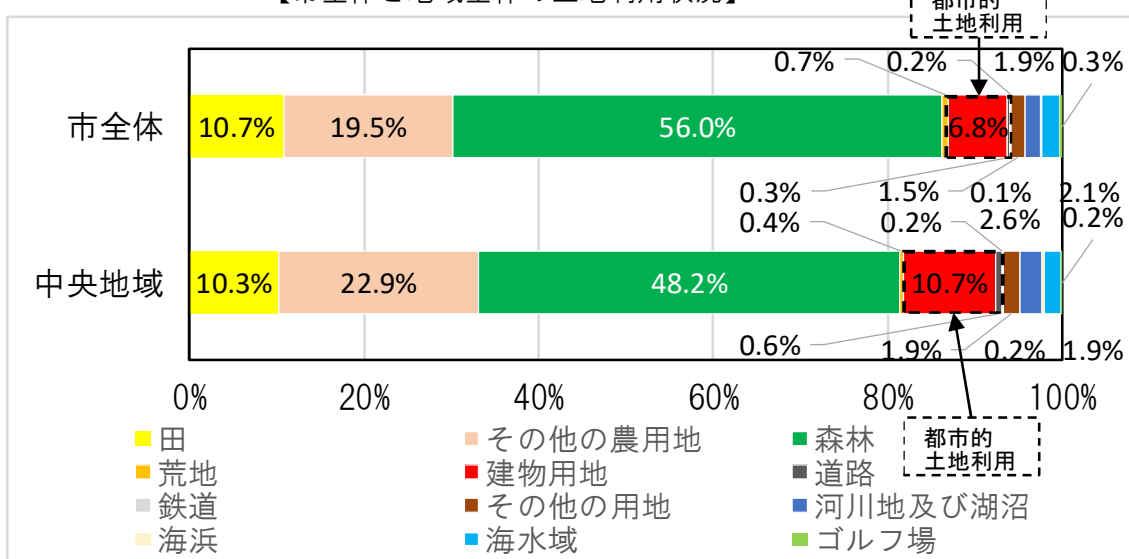


出典：大規模小売店舗要覧

土地利用動向

- 中央地域の土地利用をみると、建物用地の割合が10.7%となっており、道路や鉄道を含む「都市的土地利用」の占める割合をみると、市全体と比較して高い。
- 建物用地は、用途地域内を中心に広く分布しているが、郊外での開発や農地転用により、用途地域外縁部にも広がりがみられる。

【市全体と地域全体の土地利用状況】



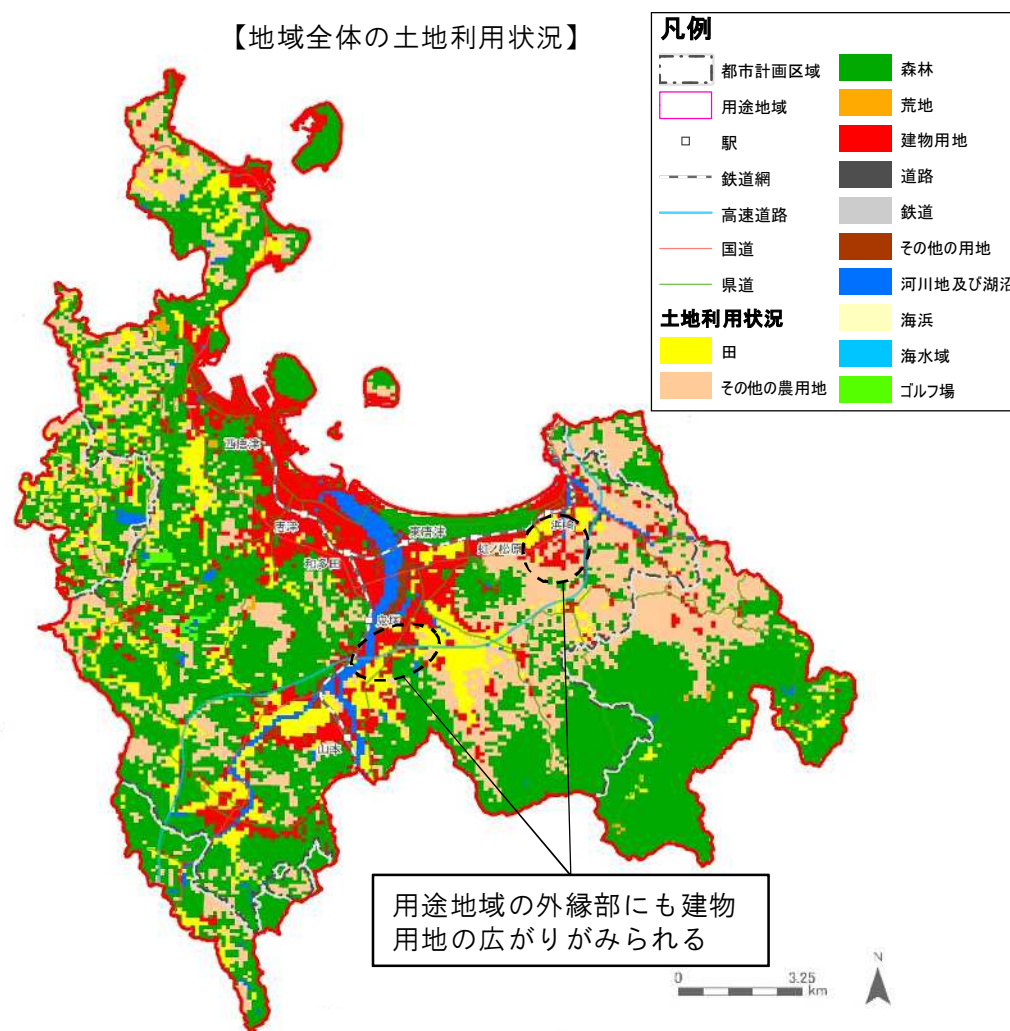
出典：国土数値情報データ

【都市計画区域内における土地利用状況】

中央地域	平成18年		平成29年	
	平成18年	平成29年	平成18年	平成29年
農地	26.6%	26.3%	農林漁業施設用地	0.0%
山林	42.6%	42.6%	公益施設用地	1.9%
水面	2.7%	2.7%	道路用地	5.5%
その他の自然地	8.7%	8.6%	交通施設用地	0.4%
住宅用地	7.6%	7.5%	公共空地	0.4%
商業用地	1.1%	0.8%	その他の自然地公的施設用地	0.0%
工業用地	1.0%	1.0%	その他の空地	1.5%

出典：都市計画基礎調査(H29)

【地域全体の土地利用状況】

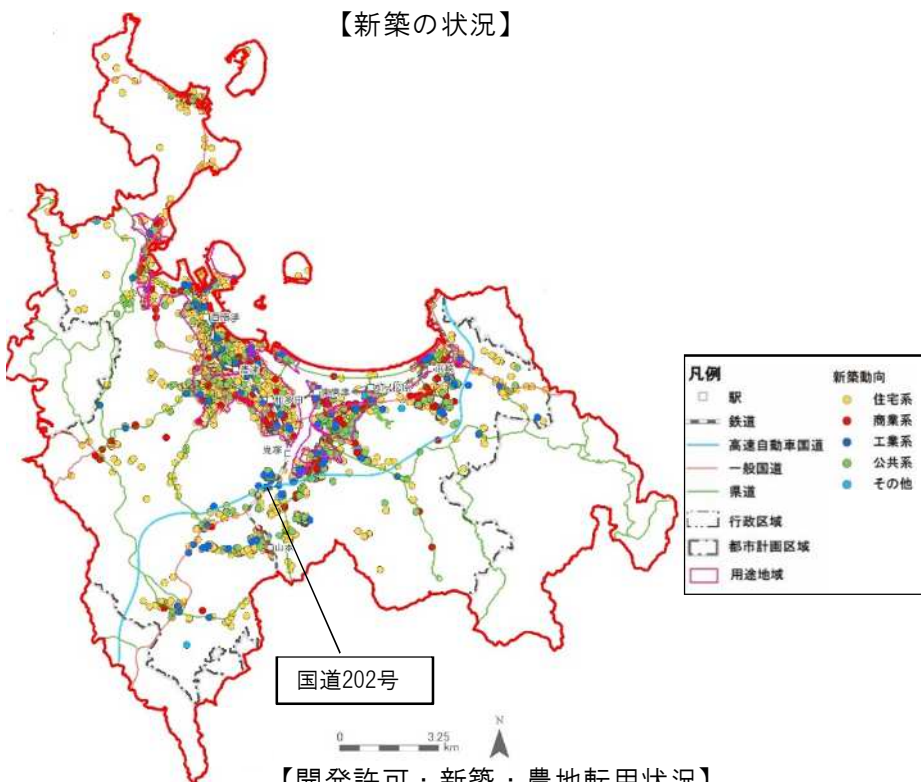


出典：国土数値情報データ

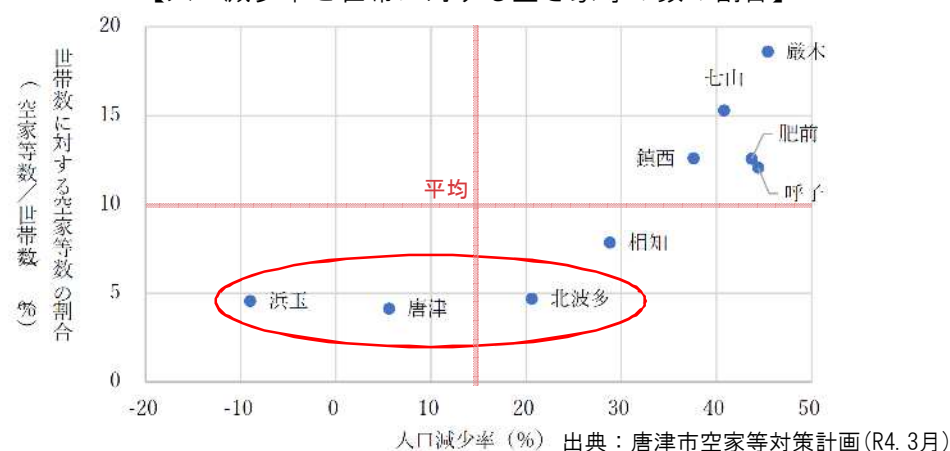
開発状況・空き家の状況

- 新築の状況をみると、主に住居系が多く、用途地域内を中心に分布している。
- 世帯数に対する空き家数は、他地域と比較して低いが、**空き家件数は1,654件と市全体の約半数を占めている。**
- 空き家等の不良度ランクにおいてC・Dランクの空き家は17.6%と市平均（21.0%）より下回っている。

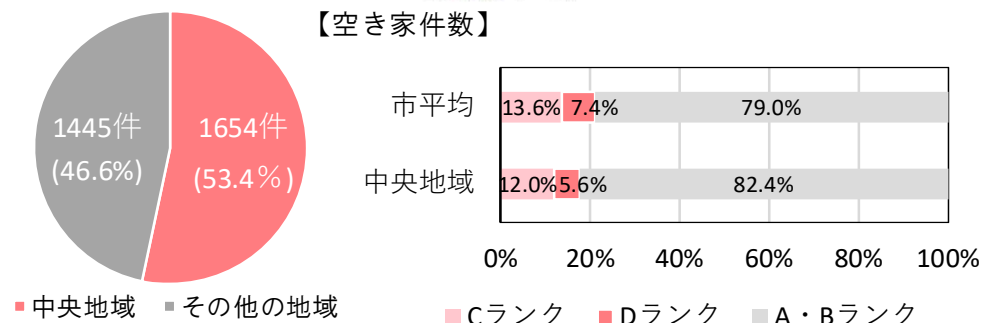
【新築の状況】



【人口減少率と世帯に対する空き家等の数の割合】



【空き家件数】



【空き家等の不良度ランクの判定内容】

ランク	判定内容
A	管理に特段問題がなく、現状のまま利用可能
B	管理が行き届いていないが、当面の保安上の危険は少ない
C	管理が行き届いておらず、損傷が激しいため保安上危険となるおそれがある
D	倒壊の危険性があり、修繕や解体などの緊急度が高い

【開発許可・新築・農地転用状況】

		住居系	商業系	工業系	公共系	その他	計
開発許可	件数	31	18	1	0	5	55
	面積 (ha)	16.00	18.63	0.32	0.00	7.09	42.04
農地転用	件数	288	53	25	32	110	508
	面積 (ha)	24.49	6.57	5.83	5.39	22.45	64.73
新築建物	件数	2889	235	116	242	30	3512
	面積 (ha)	44.534	6.1758	3.6215	8.3217	0.5971	63.25

出典：都市計画基礎調査(H29)

出典：唐津市空き家等対策計画(R4. 3月)

公共公益施設・都市公園

- 公共公益施設をみると、行政施設、学校、文化・交流施設などが、市街地を中心に多く分布しており、中央地域だけでなく本市全体をけん引していく役割を担っている。
- 子育て支援施設（42箇所）の0～4歳の人口カバー率が76.4%と市平均より高い。また、病院・診療所（84箇所）の高齢者のカバー率も53.3%と市平均より高い。
- 都市公園は35箇所あり、公園圏域内の人口カバー率は17.3%と市平均より高い。
- 公園・緑地整備に関するニーズでは、豊かな自然・史跡などの地域特性を活かした公園整備が求められている。

【公共公益施設・都市公園の立地数】

【カバー圏域】

件数	行政施設	学校	学校		子育て支援施設			文化・交流施設	病院・診療所	都市公園
			小学校	中学校	保育園	幼稚園	子育て支援施設			
3	30	19	11	42	31	8	3	4	84	35

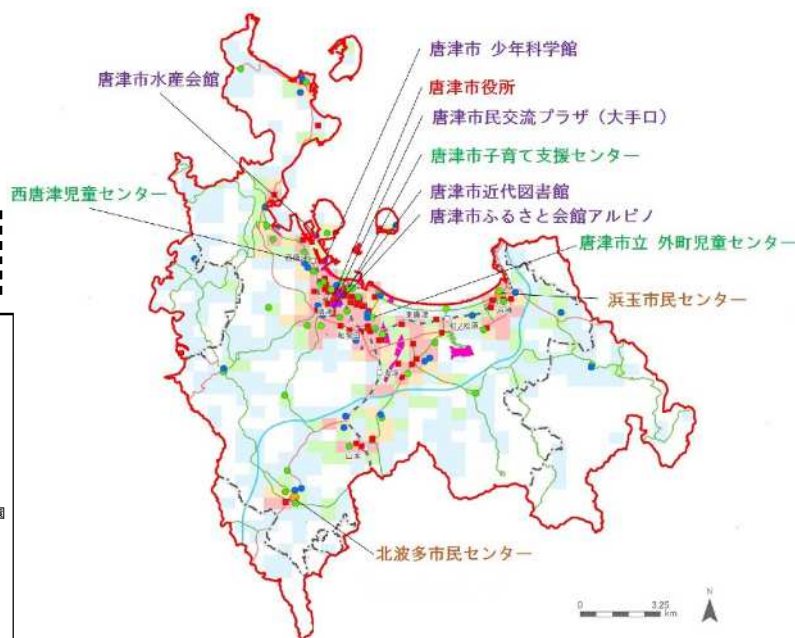
	子育て支援施設(800m圏内)	病院・診療所(500m圏内)	公園(住区基幹公園)
	0～4歳の人口カバー率	高齢者カバー率	公園圏域内の人口カバー率
中央地域	76.4%	53.3%	17.3%
唐津市	67.7%	45.0%	14.9%

児童数の増減

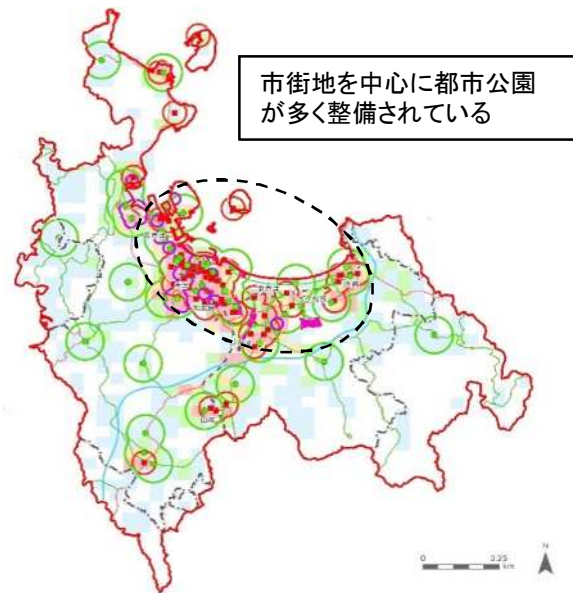
H29	5570人
R05	5589人
H29-R05の増減率	1.00

平成29年～令和5年にかけて微増している。

【公共公益施設・都市公園の分布図】



出典：国土数値情報データ



出典：国土数値情報データ

【公園ニーズ（アンケートより）】

公園・緑地整備に対するニーズでは、「豊かな自然・史跡などの地域特性を活かした公園の整備(38.6%/市平均:39.2%)」が最も高かった。

観光・地域資源

- 虹の松原や鏡山など観光・地域資源が広く分布しており、特に沿岸部や市街地、北波多地区に多くみられる。

【観光・地域資源の分布図】



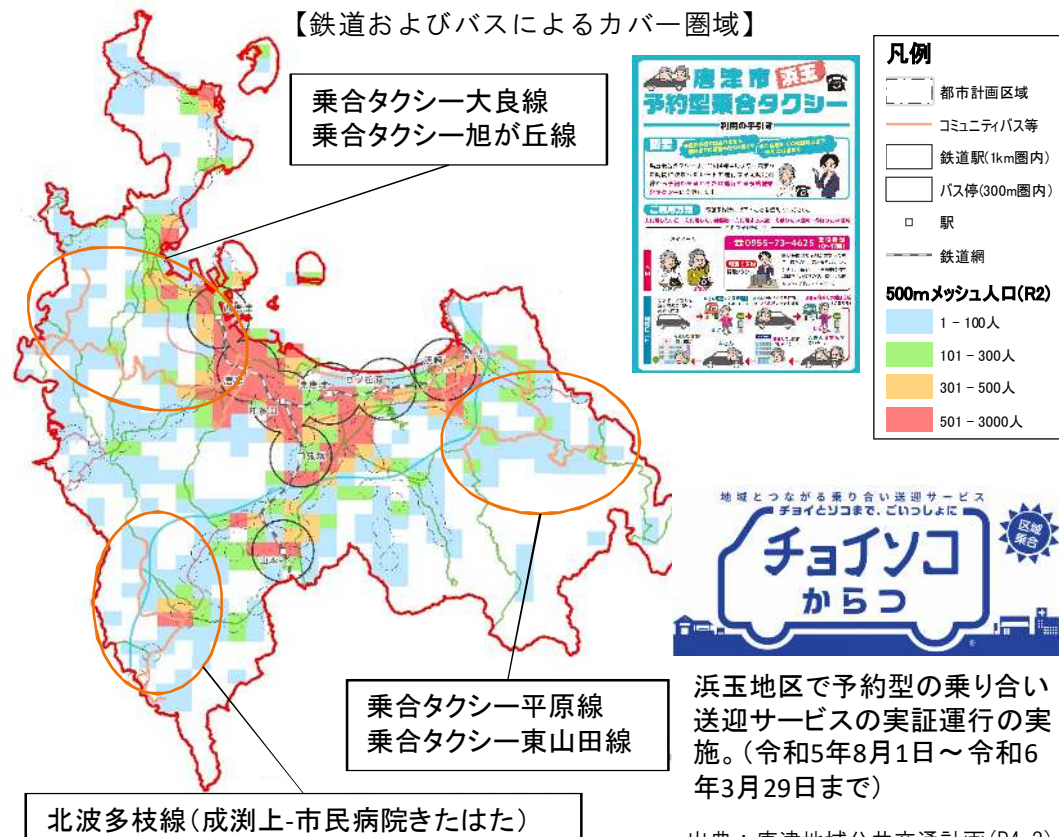
交通状況

- 公共交通はバス路線・JR線などのほか、5つの乗り合いタクシーの運行を実施しており、カバー人口率が75.2%と市平均より高い。

【鉄道およびバスによるカバー人口率】

	カバー人口	カバー人口率	カバー人口率(バス)	カバー人口率(鉄道)
中央	67,448	75.2%	68.2%	51.1%
唐津市	84,798	73.0%	65.7%	44.9%

【鉄道およびバスによるカバー圏域】

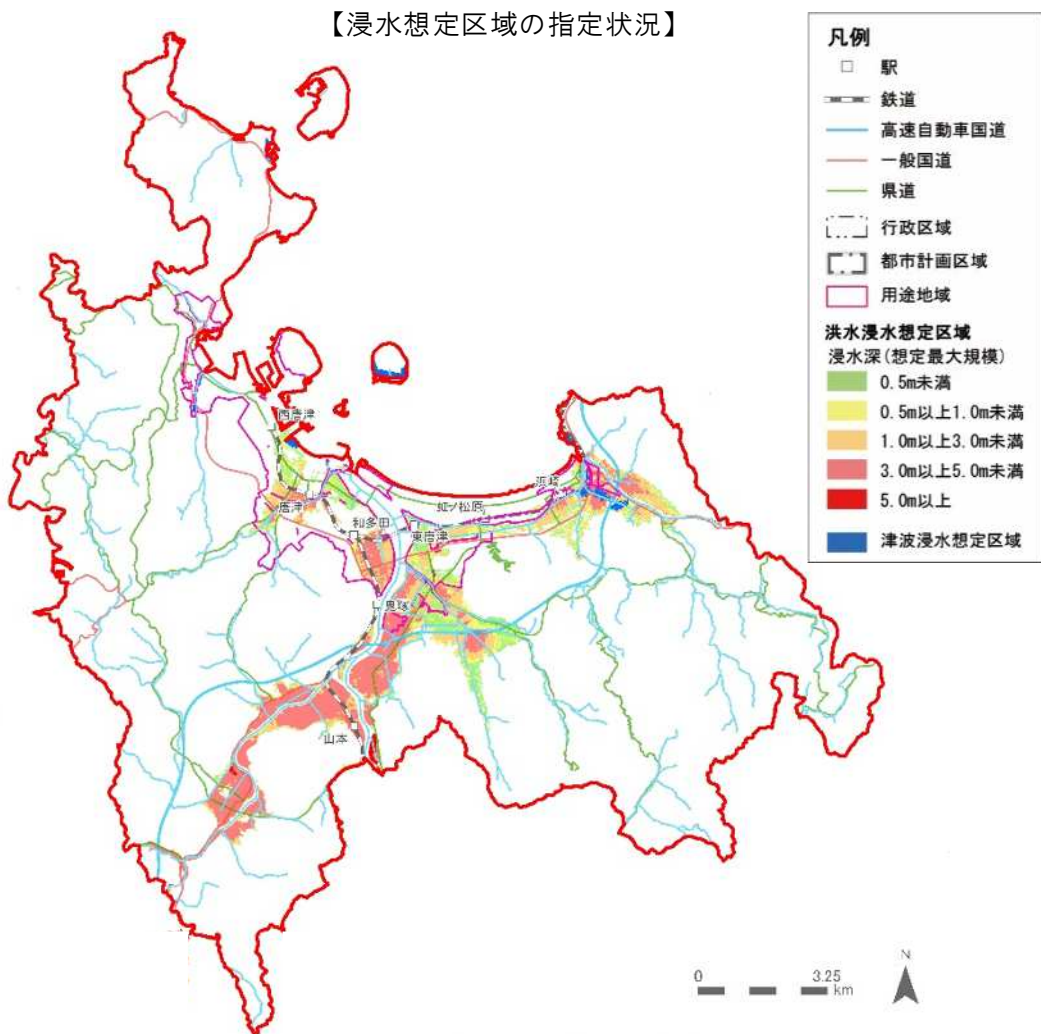


アンケートでは、乗り合いタクシーなどの地域の実情に応じた交通手段の確保・強化(26.8%/市平均:29.7%)や通学路等の歩行空間の安全の確保(23.8%/市平均:23.0%)が求められている。

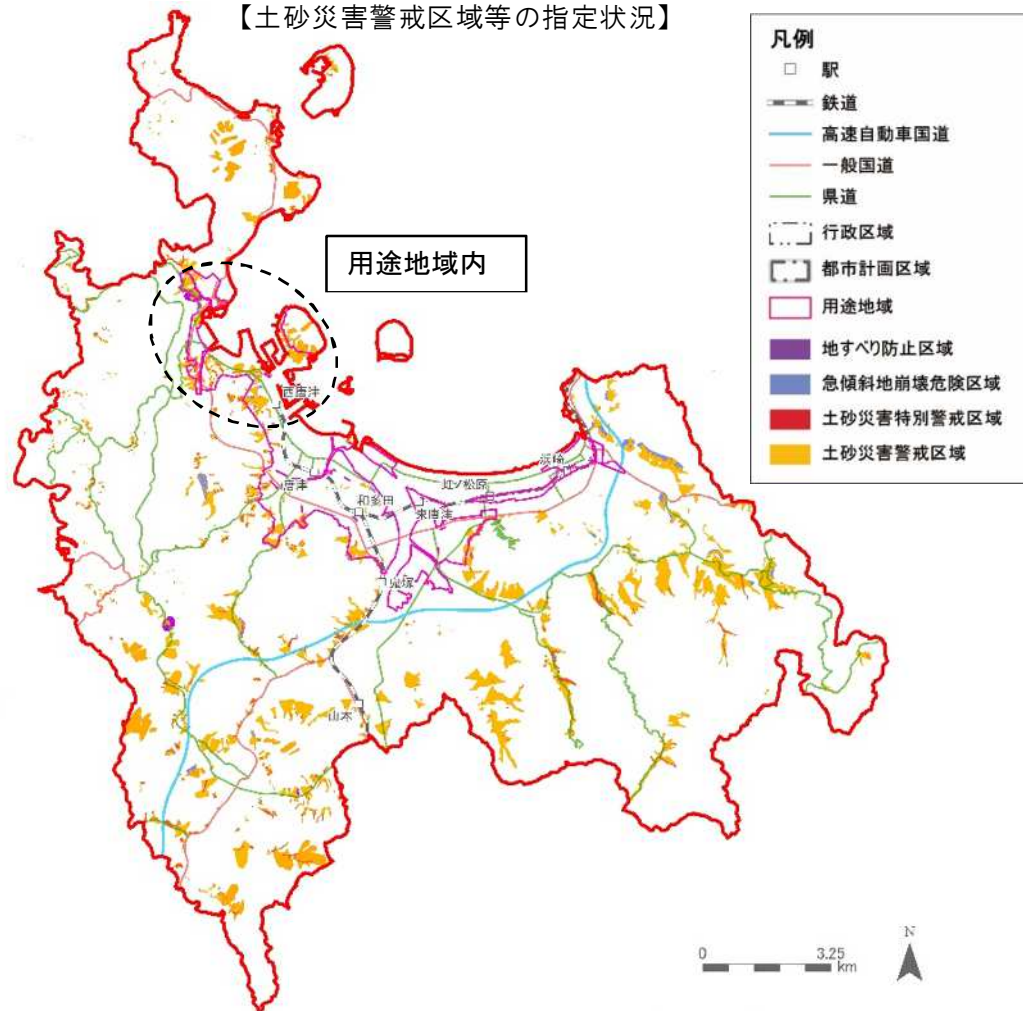
都市防災

- 松浦川の流域に位置するエリアであるため、浸水想定区域が広がっており、浸水深が3~5m未満または5m以上となるエリアも存在している。
- 土砂災害特別警戒区域や急傾斜地崩壊危険区域、地すべり防止区域など、土砂災害の恐れのある区域が多数存在しており、用途地域内にもみられる。

【浸水想定区域の指定状況】



【土砂災害警戒区域等の指定状況】



(1) 中央地域 ～住民ニーズの方向性～

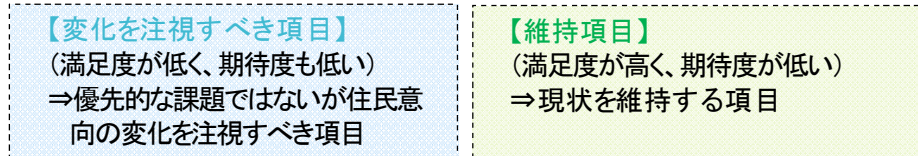
住環境への満足度・要望

- 住環境にかかる項目（18項目）のうち、9項目が「重点的な改善が必要な項目」となった。特に「⑧鉄道・バスなどの公共交通の利便性」「⑨駅や公共施設のバリアフリー」「⑩子供の遊び場や公園の充実度」については、重点的な改善が求められている。

【住環境の現況への満足度・要望度】

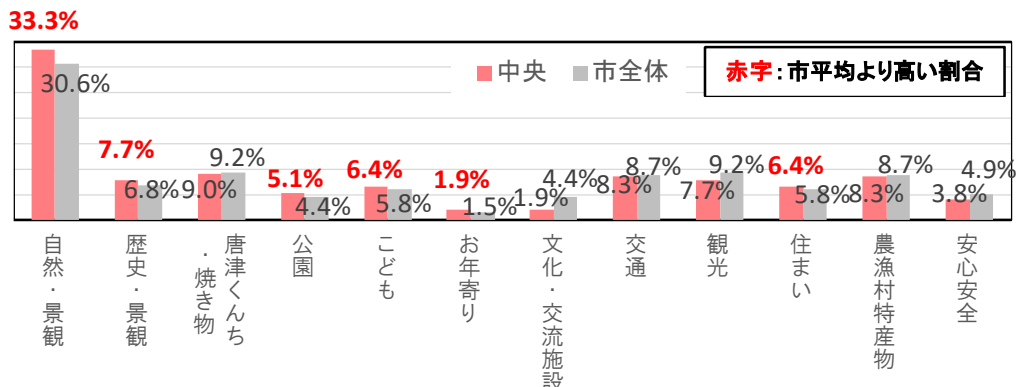


- ① 日常の買い物の利便性について
- ② 働く場、就業機会の充実について
- ③ 住宅地としての静けさ、雰囲気について
- ④ 自然・緑の豊かさ、美しさについて
- ⑤ 国道・県道などの地域間を結ぶ道路の走りやすさについて
- ⑥ 市街地・集落内の道路の走りやすさについて
- ⑦ 歩道の有無やバリアフリーなど、歩行環境の充実度について
- ⑧ 鉄道・バスなどの公共交通の利便性について
- ⑨ 暮らしを支える駅や公共施設のバリアフリーについて
- ⑩ 子どもの遊び場や公園の充実度について
- ⑪ 生活排水対策について（公共下水道・浄化槽等）
- ⑫ 河川・海岸の安全性や親しみやすさについて
- ⑬ コミュニティ施設、文化施設、官公庁施設など暮らしを支える公共施設の充実度について
- ⑭ 地震・津波や豪雨などの自然災害に対する安全性について
- ⑮ 火災・延焼などの社会災害に対する安全性について
- ⑯ 街路灯の数・夜道の安全性について
- ⑰ 騒音や悪臭などの公害の無さについて
- ⑱ 総合的な暮らしやすさについて



重点的に活用すべき資源

- 重点的に活用すべき資源として、鏡山や松浦川、虹の松原などの「自然・景観」や、唐津くんち、唐津焼などの「伝統」に関する回答の割合が高かった。
- 働く場の確保や移住者対策に関する回答もあった。

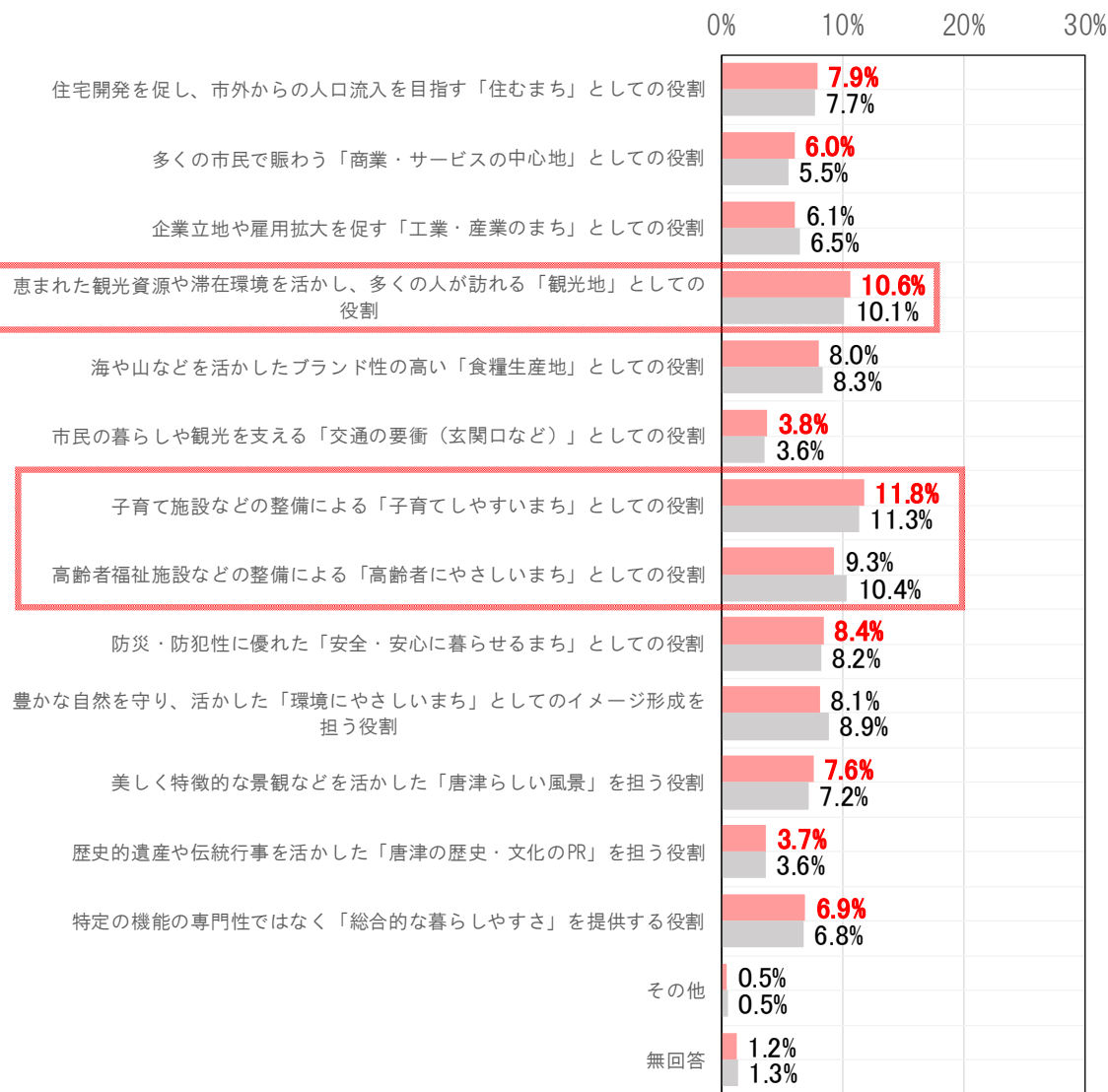


キーワード	内容 (抜粋)
自然・景観	○鏡山 ○松浦川 ○海 ○虹の松原 ○美しい海岸 ○佐用姫岩 など
歴史	○歴史ある風景、街並み (神社仏閣) ○久里双水古墳 ○城下町としての景観 ○末盧館 ○城下町コンパクトにまとまった町並み など
伝統	○伝統行事・焼き物産業 ○城下町、焼き物等をつなぐウォーキングルート ○唐津くんち・浜崎祇園・呼子大綱引き など
公園	○子ども達が安全に遊べる公園 ○河畔公園 など
子ども	○子育てしやすい環境 ○子ども
お年寄り	○高齢者 ○高齢の農家
文化・交流	○体育館 ○コミュニティーセンター ○近代図書館 など
交通	○唐津港 ○唐津駅周辺 など
観光	○高級旅館 (綿屋、洋々閣) など
住まい	○空き家、古民家再生 など
農業・漁業	○荒地化している畑 ○特産物 ○果樹園 など
安心・安全	○避難場所 ○消防団 ○安心・安全に住める地域 など
その他	○大手口周辺 ○空地 ○小学校 ○商店街 ○後川内ダム周辺 など

地域の役割

赤字: 市平均より高い割合

- 中央地域で求められる役割は、「子育てしやすいまちとしての役割」が最も高く、次いで「観光地としての役割」「高齢者にやさしいまちとしての役割」となった。



(1) 中央地域 ～現行計画の進捗状況～

現行計画の進捗状況

●完了 ●実施中

➤ 現行の都市計画マスタープランの策定以降、地域別構想に示された「重点方針」や「土地利用、都市施設等の方針」に基づき、関係各課では以下の取り組みを実施しています。

※一部市の事業でないものも含む

現行計画の既往項目		具体的な取組内容（抜粋）
重点方針	①「唐津の顔」となる賑わいあふれる魅力ある中心市街地の再生の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●大手口センタービル建設 ●唐津市民交流プラザ整備 ●複合商業施設KARAE開業 ●唐津城の石垣再築整備 ●あさひ通り「向こう三軒両隣り」景観協定 ●西唐津地区建築協定
	②みなとを核とした、人や物が交流し賑わう「唐津みなとまち」の再生の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●唐津港沿岸物市場の整備 ●唐津港まき網市場の整備 ●佐賀県とともにボラテック西日本(株)を誘致し、工業団地として活用 ●大島市民の森の整備 ●唐津みなとまちづくり懇話会に「海辺アクセス・サイン検討会」を設置 ●唐津市海辺アクセス・サイン改善ガイドライン(案)を作成し、市に提案 ●城内地区・曳山通り公共施設景観ガイドライン策定(景観重要公共施設に妙見満島線を指定)
	③広域交通体系の整備による観光交流や産業振興に寄与する地域づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ●国道204号(湊工区)の整備 ●国史跡「肥前陶器窯跡」のうち、「飯洞甕上窯跡」及び「飯洞甕下窯跡」の保存整備事業を実施中
	④地域固有の自然環境や景観と調和した地域づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ●虹の松原再生・保全実行計画の策定 ●松浦河畔緑地の整備(水辺の回廊整備)
	⑤貴重な歴史・文化資源を活かした観光交流による地域づくりを推進	<ul style="list-style-type: none"> ●旅館・ホテルとのコラボ社会実験(宿泊客のまちなかへの誘導、まちなか観光ガイドによる案内)の実施 ●唐津市景観計画(城内地区・曳山通り景観重点区域)の運用 ●景観まちづくり推進事業補助金の交付

(1) 中央地域 ～現行計画の進捗状況～

●完了 ●実施中

現行計画の既往項目		具体的な取り組み内容
土地利用、都市施設等の方針	土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ●北波多地区を都市計画区域に編入 ●呉服町商店街ファサード整備 ●市道東城内町田線開通による用途地域の指定 ●旧村上歯科リノベーション ●唐津港沿岸物市場の整備、唐津港まき網市場の整備 ●石志工業団地への誘致を中心に、企業誘致活動を実施 ●港湾の整備推進に関する国、県への要望活動
	都市施設 (道路・公園等)	<ul style="list-style-type: none"> ●セメン川、牟田川の整備 ●鏡山公園の整備 ●玉島川、横田川の整備 ●松浦川水系流域治水プロジェクトや二級水系流域治水プロジェクトの計画の実施
	市街地・集落地整備	<ul style="list-style-type: none"> ●浜崎駅周辺整備（自由通路開通、バリアフリー化） ●持続可能で利用しやすい公共交通の実現に向けた「地域公共交通計画」の策定 ●路線バス及び乗合タクシーの運行事業者に対する補助 ●公共交通の見直しによる浜玉循環線及びデマンドタクシーの整備 ●北波多地区社協による交通弱者を対象とした交通支援実施 ●航路事業者への補助
	景観・環境・その他	<ul style="list-style-type: none"> ●公共建築物の耐震診断、補強計画の策定、耐震改修工事の実施 ●国定公園の指定、届出制度など自然公園法の運用 ●風致地区届出制度の運用 ●浜崎祇園山笠振興会が浜崎祇園山囃子保存会館を活動拠点とし、浜崎祇園祭の伝統を継承 ●北波多市民センター空き会議室の貸し出し（唐津市社会福祉協議会、北波多広域協定運営委員会）

主な事業の位置図

➤ 中央地域で実施されている主な事業の位置は下記のとおりである。

主な事業の位置図（中央地域）



大手ロセンタービル

バスセンターや行政、商業、交流などの機能を複合した施設として、平成23年に完成・営業開始。3階の唐津市民交流プラザでは、多目的ホールや各種会議室等の利用により、市民の交流活動の場となっている。



出典：唐津市HP

複合商業施設KARAE

まちづくり会社が運営する中心市街地の複合商業施設として、令和元年にオープン。唐津駅やバスセンターを中心とする都市中心拠点の魅力向上や賑わい創出などに寄与している。



出典：KARAE 公式HP

浜崎駅バリアフリー化、南北自由通路整備

浜崎駅の南北自由通路整備により、南北両エリアの一体的なまちづくりが可能となったほか、バリアフリー化により、利用者の利便性向上が図られている。



古窯の里整備

唐津焼発祥の地である岸岳古窯跡群や古窯の森公園を中心とする古窯の里の整備・保全により、歴史・文化の魅力を活かした観光交流の創出と地域づくりに寄与している。



出典：唐津市HP

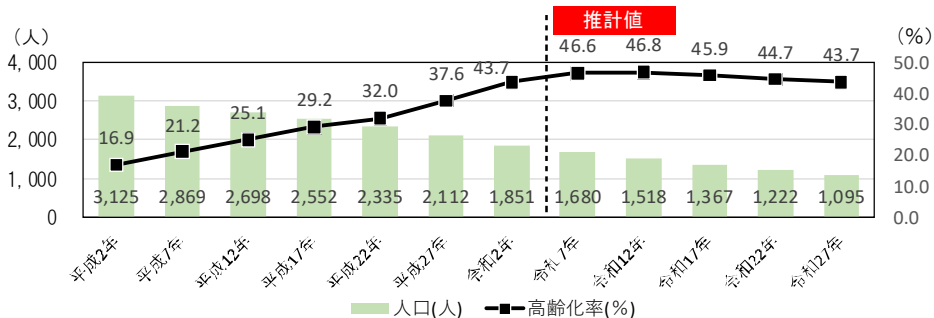
※一部市の事業でないものも含む。また、一部都市計画マスタープランの計画期間外の取り組み・事業を含む。

(2) 東部地域 ～地域の現状～

人口推移・高齢化率

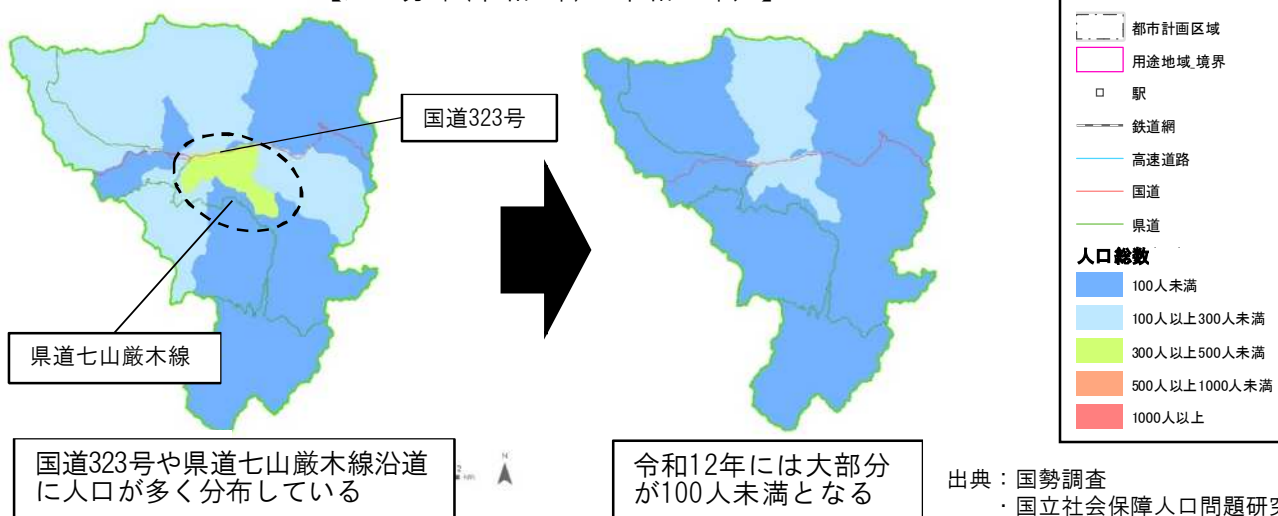
- 令和2年の人口は1,851人（平成22年比で79.3%）であり、今後も人口減少が見込まれている。また、高齢化率は43.7%（平成22年比で11.7ポイント増）であり、高齢化が進行している。
- 地域生活拠点を中心に人口が分布しているが、令和12年には地域の大部分が100人未満となる。
- 高齢化率の分布では、国道323号沿道の一部エリアを除き、ほとんどのエリアで高齢化率40%以上となっている。

【地域別の人口及び高齢化率の推移】



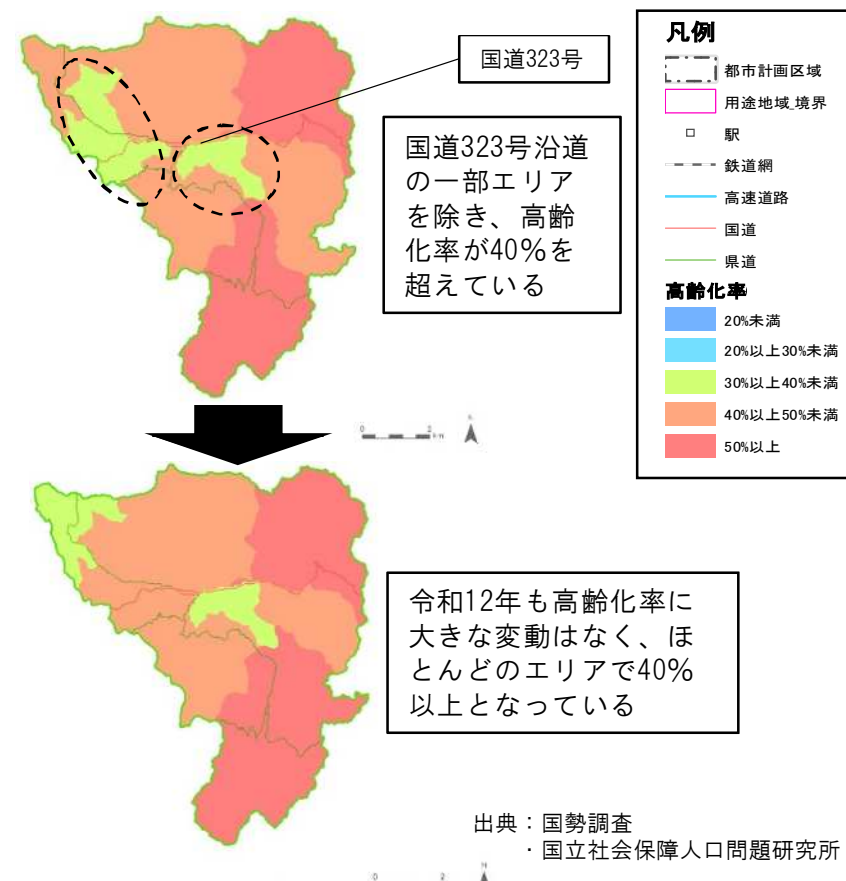
出典：国勢調査・国立社会保障人口問題研究所

【人口分布(令和2年)・令和12年】



出典：国勢調査・国立社会保障人口問題研究所

【町丁目別の高齢化率の分布(平成27年・令和12年)】

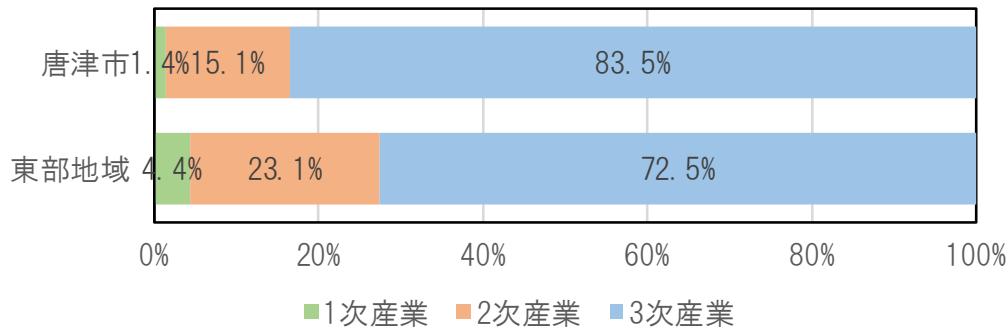


出典：国勢調査・国立社会保障人口問題研究所

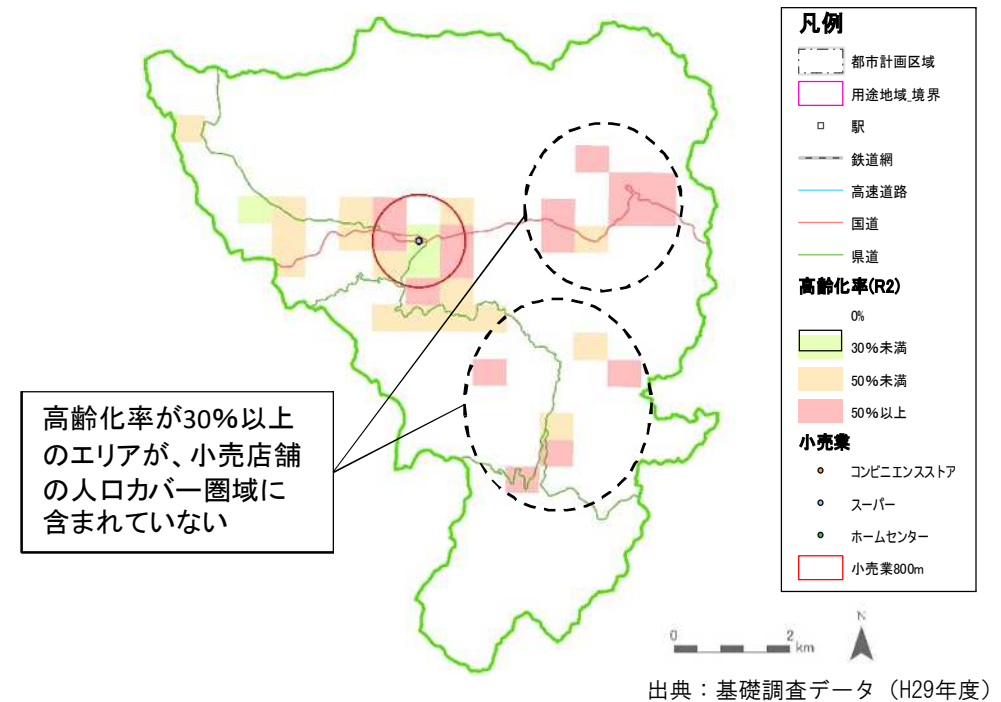
産業・商業

- 事務所の産業別割合をみると、1次産業が4.4%、2次産業が23.1%と、市全体の割合と比較して高い。
- 小売店舗は地域内に1店舗と、人口分布に対して少なく、人口カバー率も35.8%（市平均73.5%）と低い。
- 高齢化率が高いエリアの多くが小売店舗の人口カバー圏域に含まれておらず、特に高齢者の日常の買い物が不便な地域となっている。

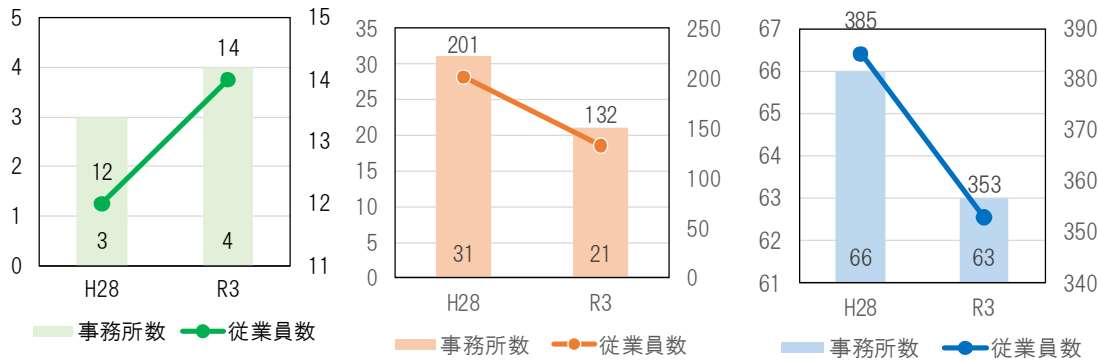
【事業所の産業別割合】



【小売店舗の立地状況】



出典：基礎調査データ（H29年度）



出典：経済センサス（H28・R3）

H28と比較すると、事業所数は第1次産業のみ増加している。
一方、従業員数については、第1次産業の従業員数のみ微増している。

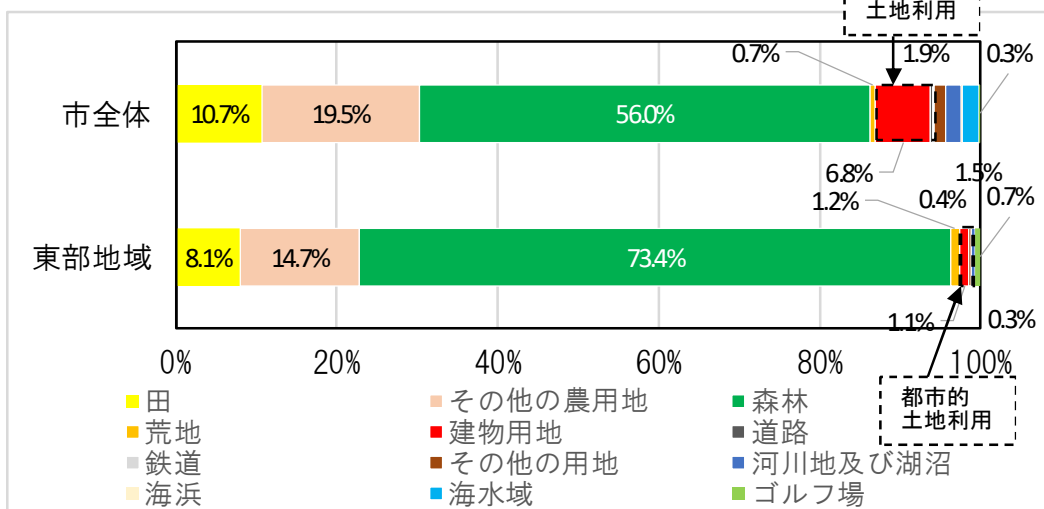
【小売店舗の人口カバー率】

	小売店舗数	人口カバー率
東部地域	1	35.8%
唐津市	92	73.5%

土地利用動向

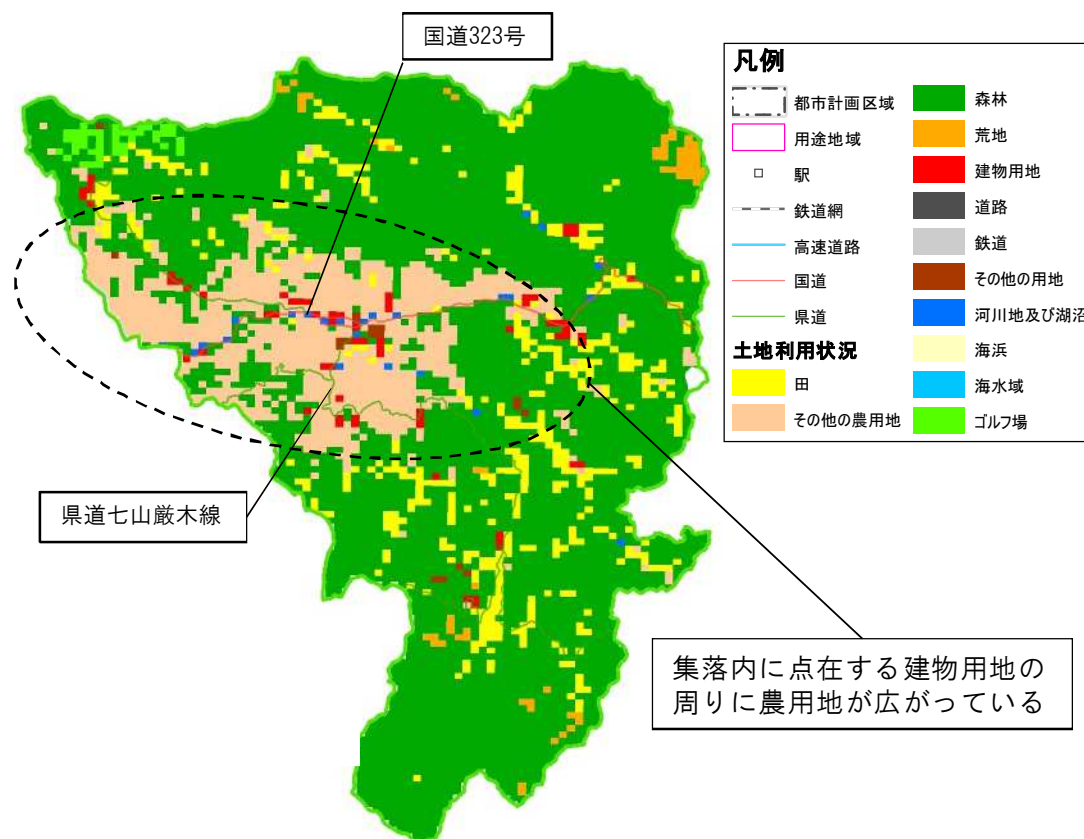
- 東部地域の土地利用をみると、建物用地の割合が1.1%となっており、都市的土地利用の占める割合をみると、市全体と比較して低い。一方、**森林の割合が73.4%となっており、地域の約4分の3の面積を占めている。**
- 集落内に建物用地が点在しているが、その周りには農用地が広がっている。

【市全体と地域全体の土地利用状況】



出典：国土数値情報データ

【地域全体の土地利用状況】



集落内に点在する建物用地の周りに農用地が広がっている

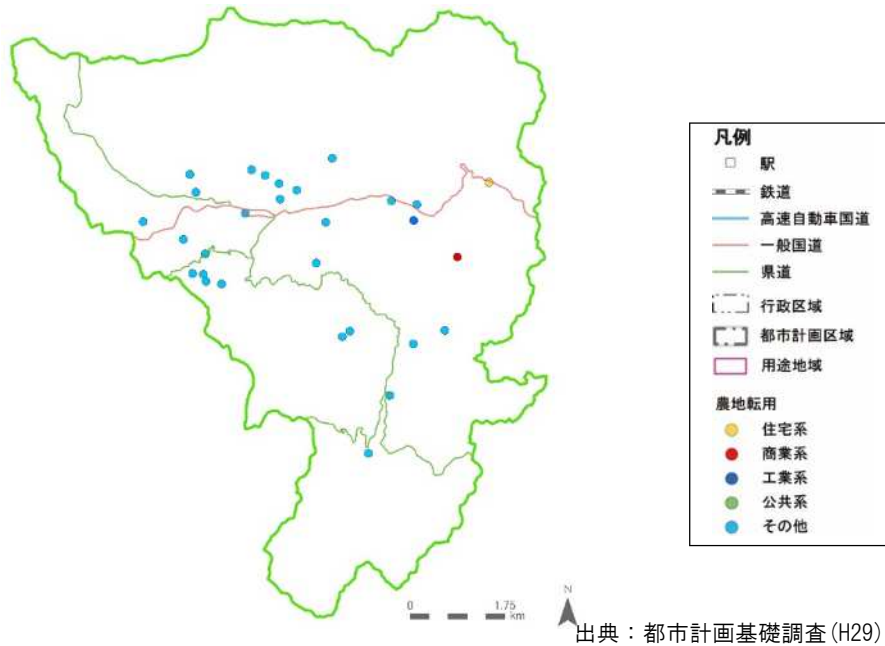


出典：国土数値情報データ

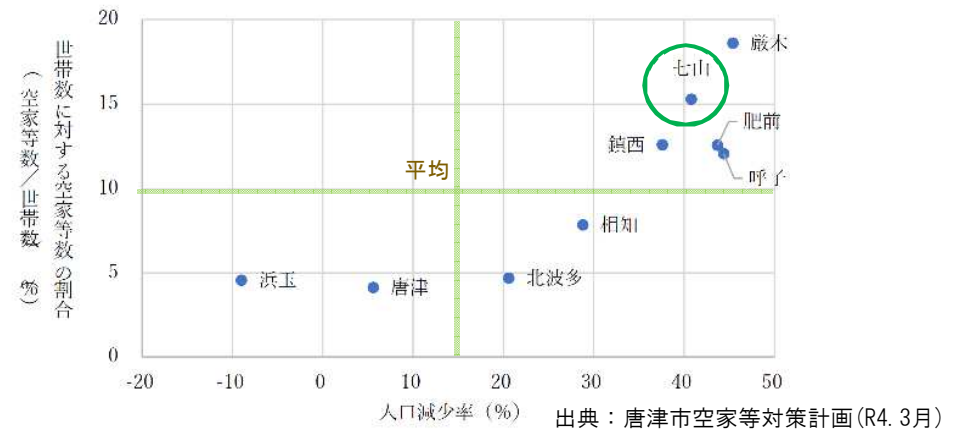
開発状況・空き家の状況

- 農地転用をみると、住居や商工業以外の用途（駐車場・太陽光発電など）への転用が最も多くみられる。
- 空き家件数は90件と市全体に対する割合が2.9%と低いが、世帯数に対する空き家等割合が約15%と高い。
- 空き家等の不良度ランクにおいてC・Dランクの空き家は25.5%と市平均（21.0%）より上回っている。

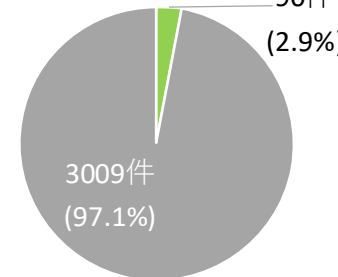
【農地転用の分布状況】



【人口減少率と世帯に対する空き家等の数の割合】



【空き家件数】



	Cランク	Dランク	A・Bランク
市平均	13.6%	7.4%	79.0%
東部地域	14.4%	11.1%	74.4%

【開発許可・新築・農地転用状況】

		住居系	商業系	工業系	公共系	その他	計
開発許可	件数	0	0	0	0	0	0
	面積 (ha)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
農地転用	件数	1	1	1	0	26	29
	面積 (ha)	0.04	0.02	0.24	0.00	8.00	8.31
新築建物	件数	0	0	0	0	0	0
	面積 (ha)	0	0	0	0	0	0

出典：都市計画基礎調査(H29)

■ 東部地域 ■ その他の地域 ■ Cランク ■ Dランク ■ A・Bランク

【空き家等の不良度ランクの判定内容】

ランク	判定内容
A	管理に特段問題がなく、現況のまま利用可能
B	管理が行き届いていないが、当面の保安上の危険は少ない
C	管理が行き届いておらず、損傷が激しいため保安上危険となるおそれがある
D	倒壊の危険性があり、修繕や解体などの緊急度が高い

出典：唐津市空家等対策計画(R4. 3月)

公共公益施設・都市公園

- 公共公益施設をみると、行政施設が1箇所、学校が2箇所立地している。
- 子育て支援施設（1箇所）の0～4歳の人口カバー率が35.6%と市平均より低い。また、病院・診療所（1箇所）の高齢者カバー率も11.0%と市平均より低い。
- 東部地域は都市計画区域外のため、都市公園は立地していないが、農村公園が4箇所整備されている。公園・緑地整備に関するニーズでは、**身近で日常的に利用できる小さな公園・広場や、河川沿いなどを活かした、ゆっくり歩ける散策道の整備が求められている。**

【公共公益施設・都市公園の立地数】

行政施設	学校			子育て支援施設	子育て支援施設			文化・交流施設	病院・診療所	都市公園
	小学校	中学校	保育園		幼稚園	子育て支援施設				
1	2	1	1	1	1	0	0	0	1	0

【カバー圏域】

	子育て支援施設(800m圏内)	病院・診療所(500m圏内)	公園(住区基幹公園)
	0～4歳の人口カバー率	高齢者カバー率	公園圏域内の人口カバー率
東部地域	35.6%	11.0%	0.0%
唐津市	67.7%	45.0%	14.9%

児童数の増減

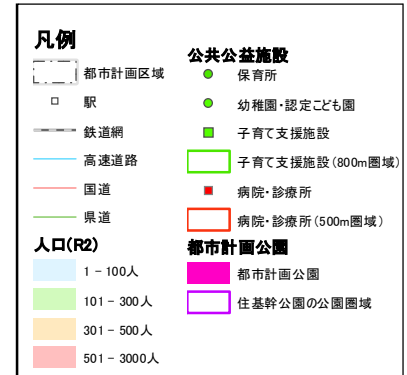
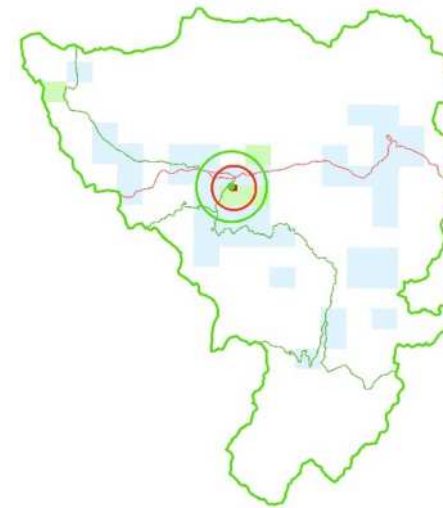
H29	97人
R05	89人
H29-R05の増減率	0.92

【公共公益施設・都市公園の分布図】

平成29年～令和5年にかけて、微減している。



出典：国土数値情報データ



出典：国土数値情報データ

【公園ニーズ（アンケートより）】

公園・緑地整備に対するニーズでは、「**身近で日常的に利用できる小さな公園・広場の整備・河川沿いなどを活かした、ゆっくり歩ける散策道の整備(40.0% /市平均:36.4%・22.8%)**」が最も高かった。

観光・地域資源

- 榎原湿原や観音の滝など、豊かな自然を感じる観光・地域資源が広く分布している。

【観光・地域資源の分布図】



出典：都市計画基礎調査(H29)・唐津観光協会HP

交通状況

- 公共交通はバス路線のみであり、カバー人口率が52.3%と市平均より低い。
- 地域の大部分は交通空白地となっているが、予約型乗り合いタクシーの運行などの対策が進められている。

【鉄道およびバスによるカバー人口率】

	カバー人口	カバー人口率	カバー人口率(バス)	カバー人口率(鉄道)
東部	975	52.3%	52.3%	0.0%
唐津市	84,798	73.0%	65.7%	44.9%

【鉄道およびバスによるカバー圏域】



東部地域全域で予約型の乗り合い送迎サービスの実証運行の実施。(令和5年8月1日～令和6年3月29日まで)



交通空白地の対策として予約型乗り合いタクシーの運行

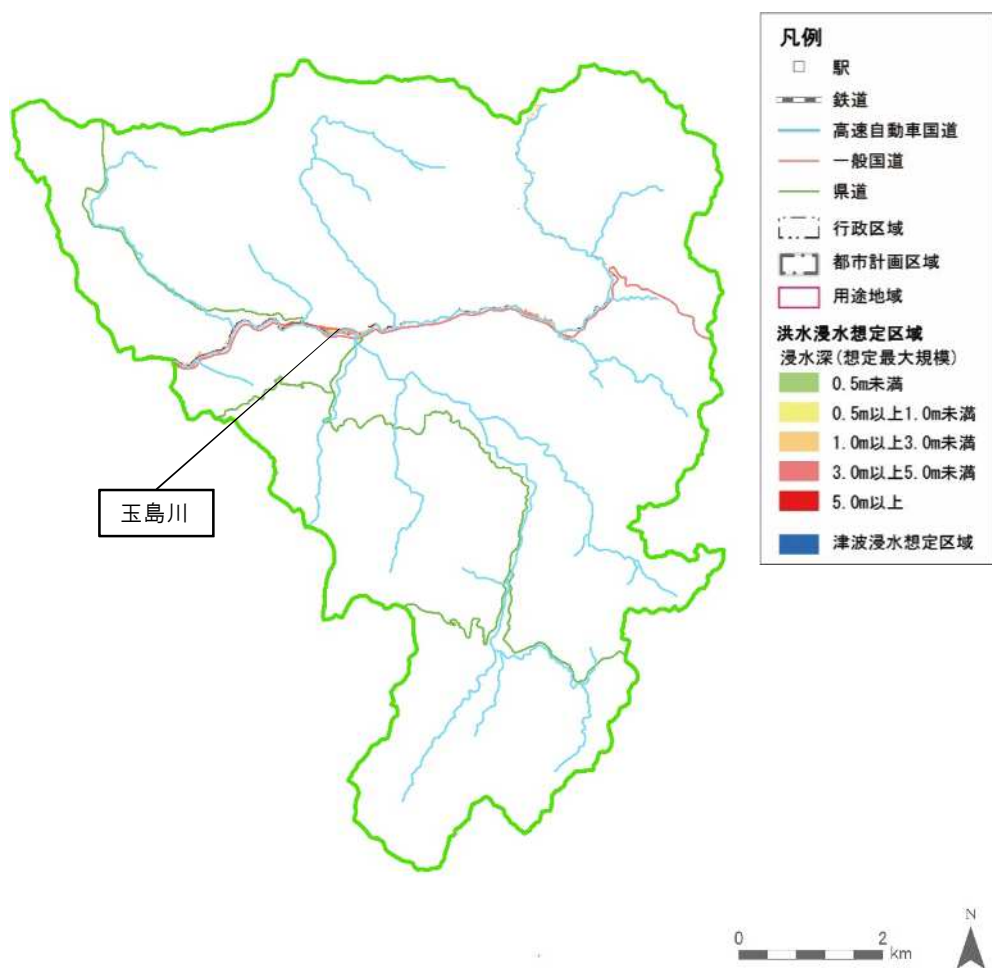
出典：唐津地域公共交通計画(R4.3)

アンケートでは乗り合いタクシーなどの地域の実情に応じた交通手段の確保・強化(50.0%/市平均:29.7%)や通学路等の歩行空間の安全の確保・市街地、集落内における狭い道路の改善(30.0%/市平均:23.0%・22.3%)が求められている。

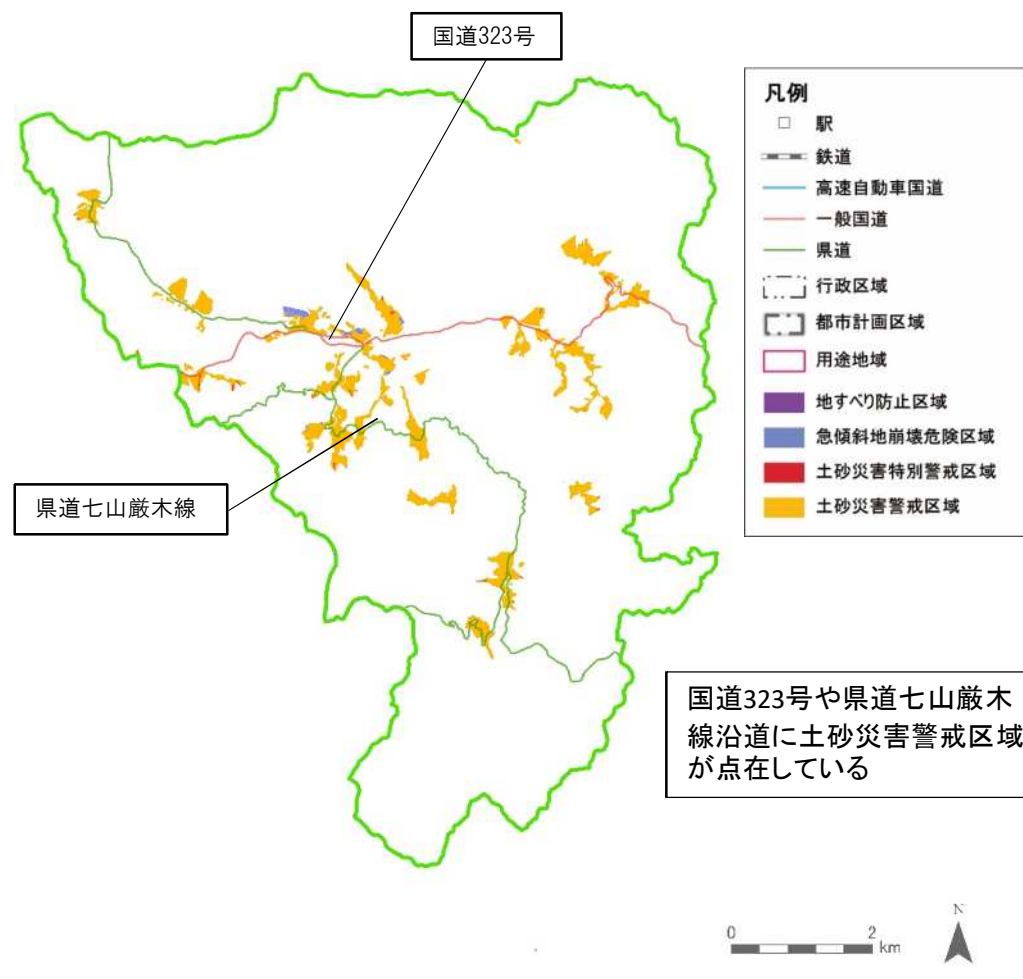
都市防災

- 玉島川の流域の一部を除いて、浸水想定区域はみられない。
- 土砂災害特別警戒区域や急傾斜地崩壊危険区域、地すべり防止区域など、土砂災害の恐れのある区域が、国道323号や県道七山巖木線沿道に点在している。

【浸水想定区域の指定状況】



【土砂災害警戒区域等の指定状況】



(2) 東部地域 ～住民ニーズの方向性～

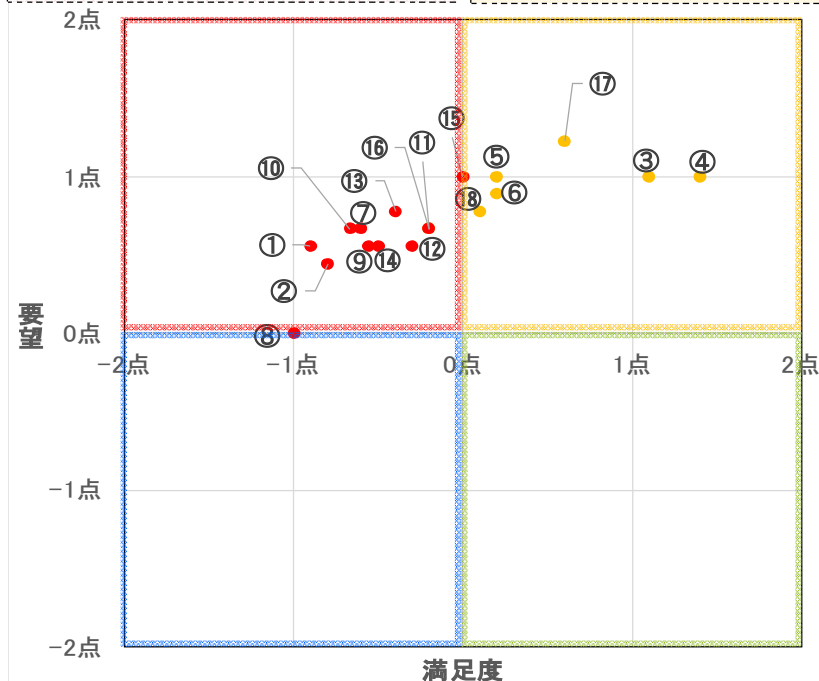
住環境への満足度・要望

- 住環境にかかる項目（18項目）のうち、12項目が「重点的な改善が必要な項目」となった。特に「①日常の買い物の利便性」「⑦歩行環境の充実度」「⑩子供の遊び場や公園の充実度」については、重点的な改善が求められている。

【住環境の現況への満足度・要望度】

【重点的な改善が必要な項目】
 (満足度が低く、期待度が高い)
 ⇒重点的に改善を図る必要がある項目

【重点的な維持が必要な項目】
 (満足度が高く、期待度も高い)
 ⇒おおむね満足が得られているが、引き続き維持・充実していく必要がある項目



【変化を注視すべき項目】
 (満足度が低く、期待度も低い)
 ⇒優先的な課題ではないが住民意向の変化を注視すべき項目

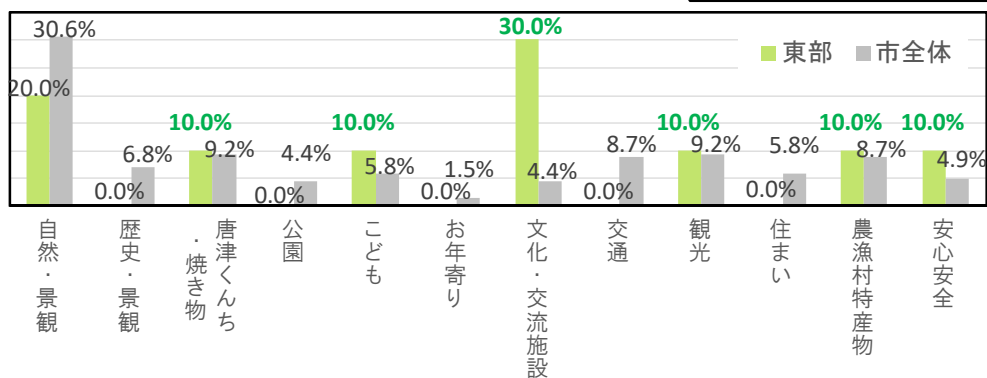
【維持項目】
 (満足度が高く、期待度が低い)
 ⇒現状を維持する項目

- ① 日常の買い物の利便性について
- ② 働く場、就業機会の充実について
- ③ 住宅地としての静けさ、雰囲気について
- ④ 自然・緑の豊かさ、美しさについて
- ⑤ 国道・県道などの地域間を結ぶ道路の走りやすさについて
- ⑥ 市街地・集落内の道路の走りやすさについて
- ⑦ 歩道の有無やバリアフリーなど、歩行環境の充実度について
- ⑧ 鉄道・バスなどの公共交通の利便性について
- ⑨ 暮らしを支える駅や公共施設のバリアフリーについて
- ⑩ 子どもの遊び場や公園の充実度について
- ⑪ 生活排水対策について（公共下水道・浄化槽等）
- ⑫ 河川・海岸の安全性や親しみやすさについて
- ⑬ コミュニティ施設、文化施設、官公庁施設など暮らしを支える公共施設の充実度について
- ⑭ 地震・津波や豪雨などの自然災害に対する安全性について
- ⑮ 火災・延焼などの社会災害に対する安全性について
- ⑯ 街路灯の数・夜道の安全性について
- ⑰ 騒音や悪臭などの公害の無さについて
- ⑱ 総合的な暮らしやすさについて

重点的に活用すべき資源

- 重点的に活用すべき資源として、地域コミュニティなどの「文化・交流」や景観に配慮した河川の災害対策といった「安心・安全」にかかる回答などの回答があった。

緑字：市平均より高い割合

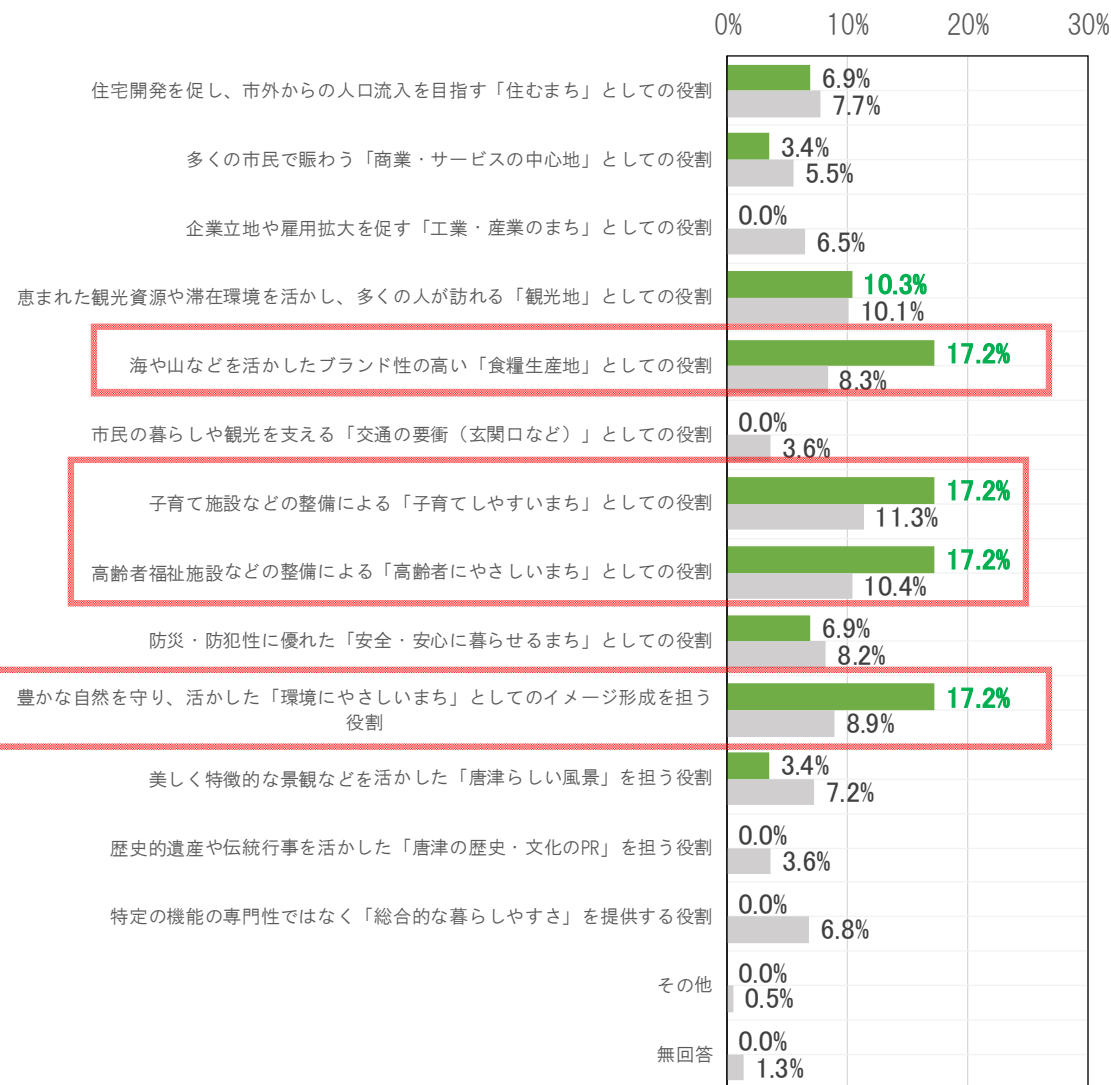


キーワード	内容 (抜粋)
自然・景観	○自然との調和 ○魚やホタルが生息できるような自然豊かな街づくり ○豊かな土壌と水源
歴史	—
伝統	—
公園	—
こども	—
お年寄り	—
文化・交流	○地域のコミュニティづくり ○人のつながりを循環させるようなしかけ
交通	—
観光	—
住まい	—
農業・漁業	○農家
安心・安全	○景観に配慮した河川の災害対策
その他	○街の統一感

地域の役割

緑字：市平均より高い割合

- 東部地域で求められる役割は、「食糧生産地としての役割」「子育てしやすいまちとしての役割」「高齢者にやさしいまちとしての役割」「環境に優しいまちとしてのイメージ形成を担う役割」となった。



(2) 東部地域 ～現行計画の進捗状況～

現行計画の進捗状況

●完了 ●実施中

➤ 現行の都市計画マスタープランの策定以降、地域別構想に示された「重点方針」や「土地利用、都市施設等の方針」に基づき、関係各課では以下の取り組みを実施しています。

※一部市の事業でないものも含む

現行計画の既往項目		具体的な取組内容（抜粋）
重点方針	① 清流・温泉などの資源や観光農園などの体験活動を活かした都市・農山村交流の推進	<ul style="list-style-type: none"> ● 年間を通じた来訪者（七山ファン）の確保に向けた「鳴神の庄」の更新 ● 「国際溪流滝登りinななやま」への支援 ● 農協や森林組合等関係機関と連携した農林業の担い手育成事業の実施 ● 「ワーキングホリデー事業」や「ななやまファーマン」（対面型軒先販売）などへの支援 ● 地域おこし協力隊による七山新聞の発行、SNSを活用した情報発信
	② 脊振・北山県立自然公園に指定された山々などの良好な森林・自然環境の保全・活用の推進	<ul style="list-style-type: none"> ● 国県の補助事業や森林環境譲与税を活用した間伐や森林作業道の整備促進 ● 鳴神温泉「ななのゆ」の情報発信と連携したSNS等での広報活動
	③ 生活の中心となる地域生活拠点の維持・再生と、既存集落での生活を持続させる道路・交通環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> ● 七山市民センターへの診療所及び歯科診療所の移転集約 ● 市道滝川桑原杉山線における幹線道路として優先的な改良 ● デマンドタクシー等の活用による地域の実情に合わせた運行
土地利用、都市施設等の方針	土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ● 空き家バンクの活用や農業委員会との連携による遊休農地の解消
	都市施設（道路・公園等）	<ul style="list-style-type: none"> ● むらづくり協議会や鳴神の庄との協働による維持管理 ● 浄化槽のPF1事業を推進による未接続世帯の解消
	市街地・集落地整備	<ul style="list-style-type: none"> ● 県の事業を活用した危険箇所の解消
	景観・環境・その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 七山市民センターの空き室を七山診療所及び歯科診療所として貸し付け ● NPO法人の設立による地域課題の解決に向けた検討の実施

主な事業の位置図

➤ 東部地域で実施されている主な事業の位置は下記のとおりである。



七山市民センターへの診療所および歯科診療所の移転集約

老朽化した七山診療所、歯科診療所の七山市民センターへの移転集約により、地域医療の確保や公共施設の有効活用が図られている。



出典：佐賀新聞（2020.05.31）

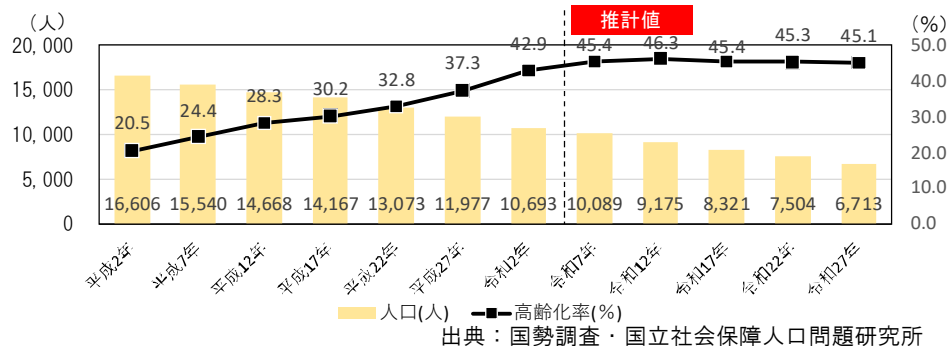
※一部の事業でないものも含む。また、一部都市計画マスタープランの計画期間外の取り組み・事業を含む。

(3) 南部地域 ～地域の現状～

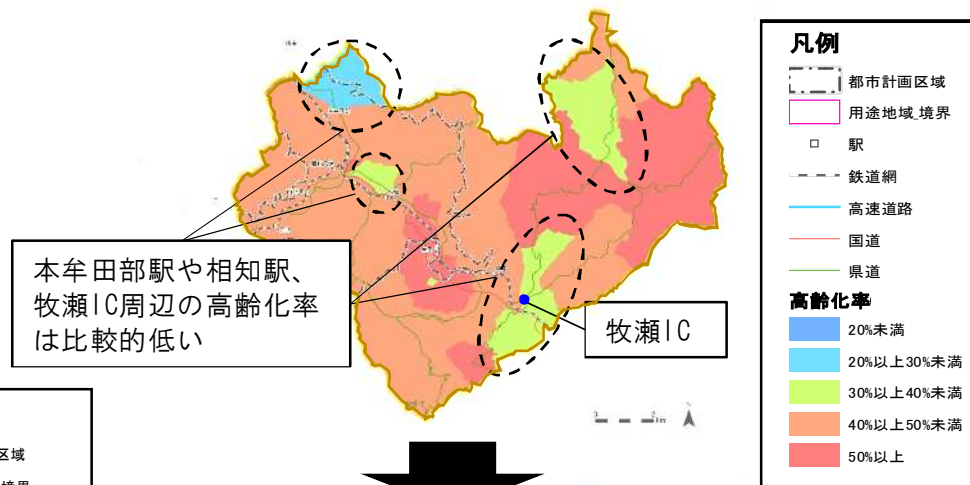
人口推移・高齢化率

- 令和2年の人口は10,693人（平成22年比で81.8%）であり、今後も人口減少が見込まれる。また、高齢化率は42.9%（平成22年比で10.1ポイント増）
- 人口分布をみると、JR沿線に人口が集中しており、令和12年も同様の分布がみられる。
- 高齢化率の分布をみると、相知、巖木の各地域生活拠点周辺を除くほとんどのエリアで高齢化率が40%以上と高く、令和12年には50%以上となるエリアが広がる。

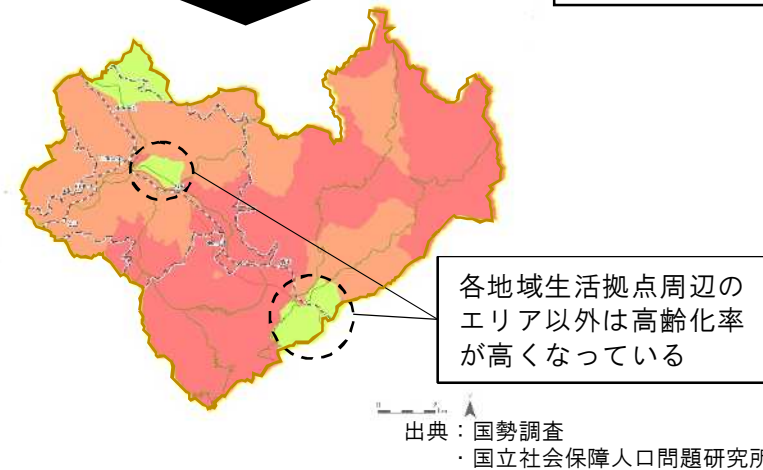
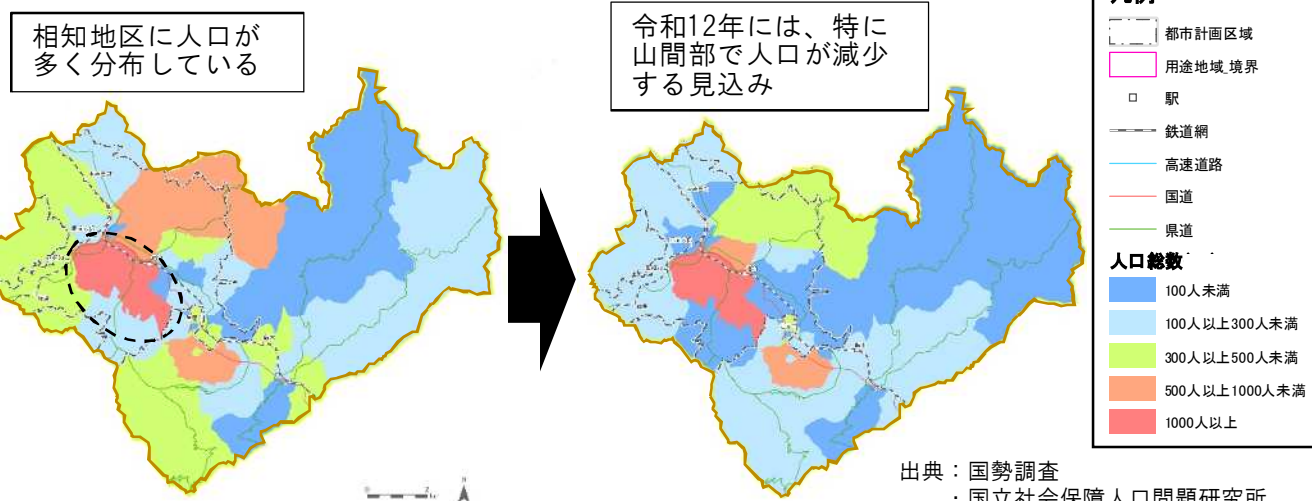
【地域別の人口及び高齢化率の推移】



【町丁目別の高齢化率の分布（平成27年・令和12年）】



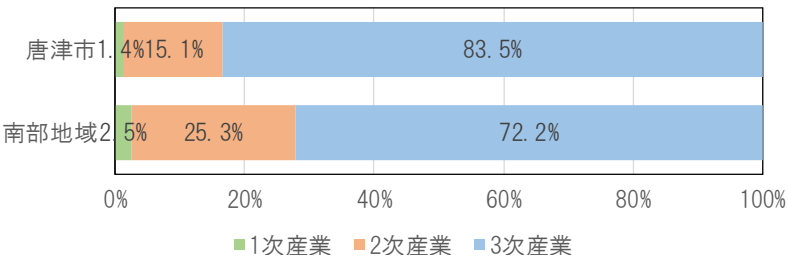
【人口分布(令和2年)・令和12年】



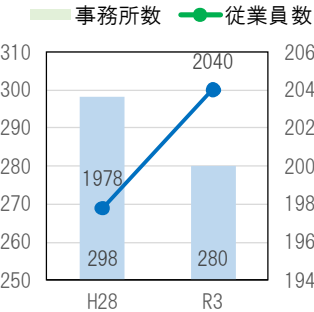
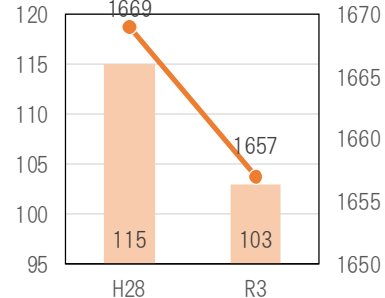
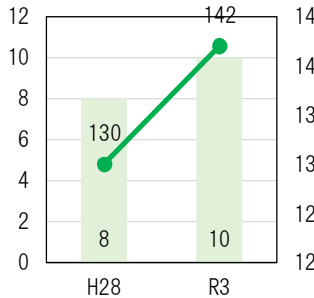
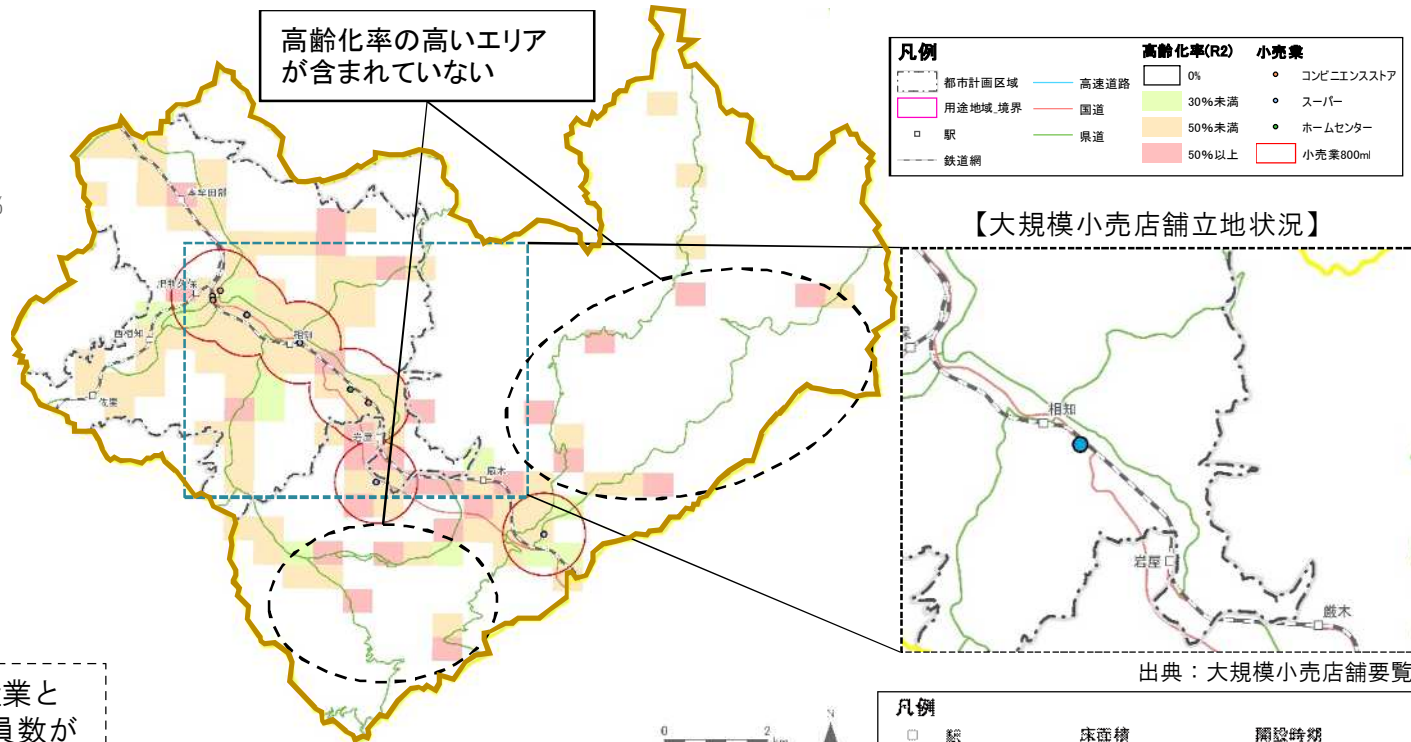
産業・商業

- 事務所の産業別割合をみると、**第2次産業の割合が25.3%と市全体の割合（15.1%）よりも高い。**
- 小売店舗は9店舗あり、人口カバー率は50.7%と市平均（73.5%）よりも低く、**高齢化率が高いエリアの多くが、小売店舗の人口カバー圏域に含まれていない。**
- 大規模小売店舗（1店舗）が都市計画区域内に立地しており、地域内からの利用がある。

【事業所の産業別割合】



【小売店舗の立地状況と高齢化率（R2）】



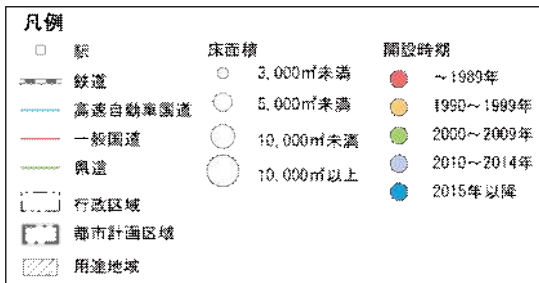
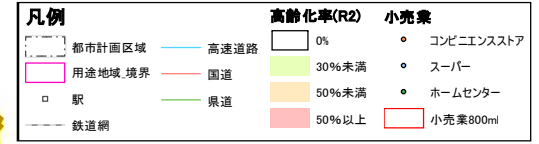
H28と比較すると、第1次産業と第3次産業については従業員数が増加している。事務所数は第2次産業、第3次産業ともに減少しているが、近年はコスメ関連企業の進出がみられる。

1典：経済センサス(H28・R3) 進出(立地)協定締結企業一覧(唐津市HP)

【小売店舗の人口カバー率】

	小売店舗数	人口カバー率
南部地域	9	50.7%
唐津市	92	73.5%

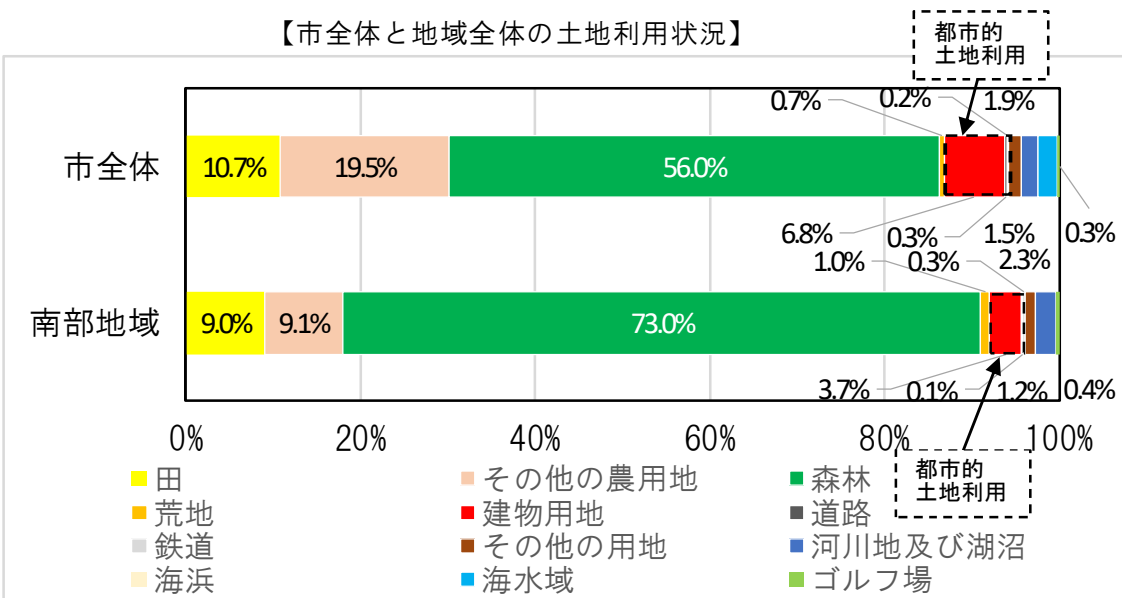
出典：基礎調査データ（H29年度）



土地利用動向

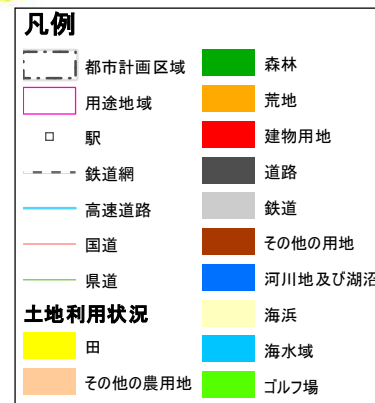
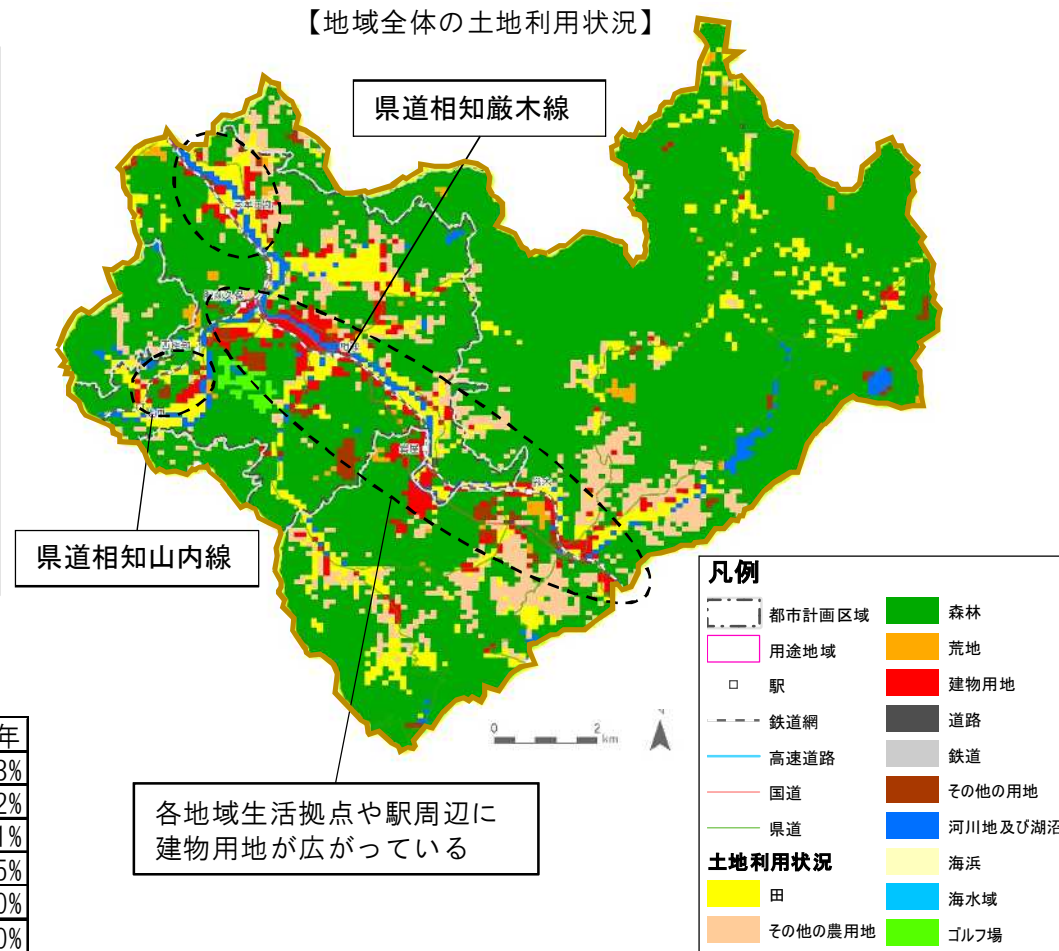
- 南部地域の土地利用をみると、建物用地の割合が3.7%となっており、都市的土地利用の占める割合をみると、市全体と比較して低い。一方、**森林の割合が73.0%となっており、地域の約4分の3の面積を占めている。**
- 住宅用地、商業用地、工業用地の割合が、わずかに増加傾向にある。
- 各地域生活拠点や駅の周辺に建物用地が広がっている。

【市全体と地域全体の土地利用状況】



出典：国土数値情報データ

【地域全体の土地利用状況】



出典：国土数値情報データ

【都市計画区域内における土地利用状況】

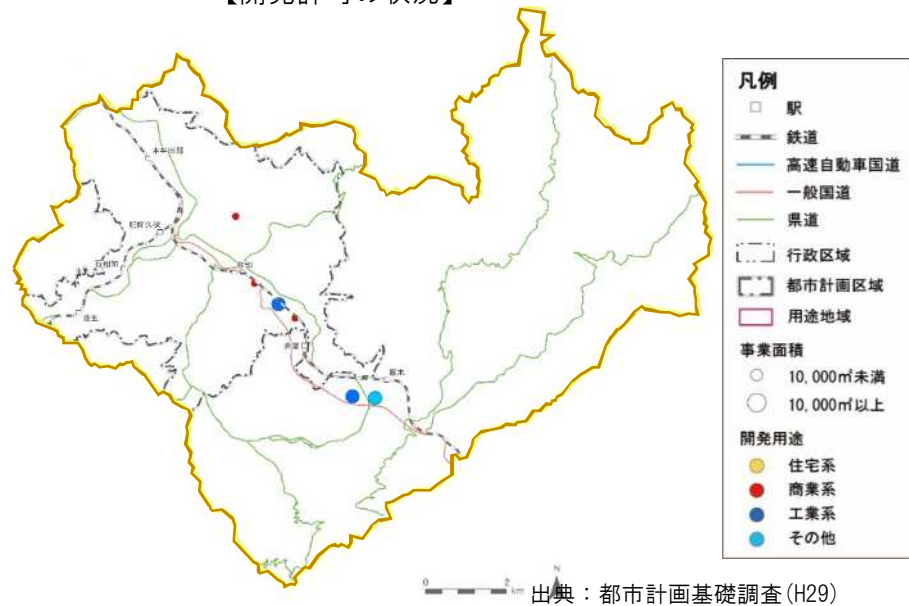
南部地域	平成18年	平成29年		平成18年	平成29年
農地	17.9%	17.6%	農林漁業施設用地	0.0%	0.3%
山林	58.0%	57.3%	公益施設用地	1.0%	1.2%
水面	2.8%	2.8%	道路用地	4.0%	4.1%
その他の自然地	8.3%	8.1%	交通施設用地	0.5%	0.5%
住宅用地	4.3%	5.0%	公共空地	0.0%	0.0%
商業用地	0.5%	0.7%	その他の自然地公的施設用地	0.0%	0.0%
工業用地	0.5%	0.7%	その他の空地	2.2%	1.8%

出典：都市計画基礎調査(H29)

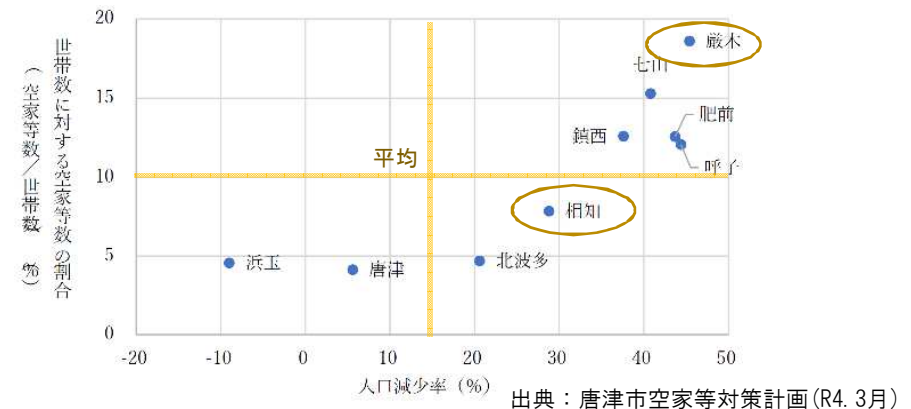
開発状況・空き家の状況

- 開発許可の状況では、商業・工業系の開発がみられる。新産業集積エリア唐津への企業誘致が課題となっている。
- 空き家件数は557件と市全体の18.0%を占めている。厳木は、市内で最も世帯数に対する空き家数の割合が高く、人口減少率も40%以上であることから、早急な対策が求められる。
- 空き家等の不良度ランクでは、C・Dランクの空き家は20.3%と、市平均（21.0%）と同水準となっている。

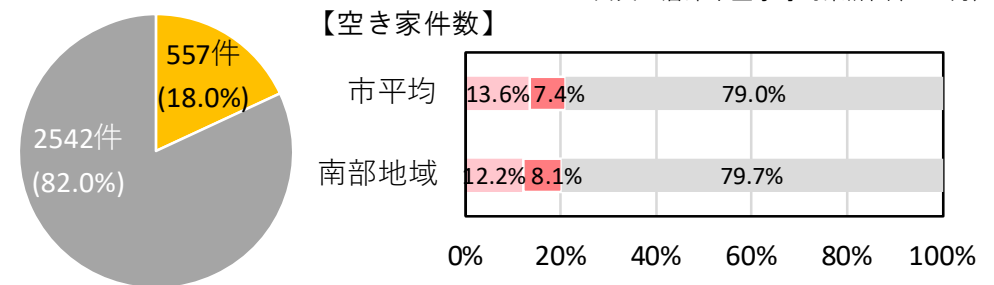
【開発許可の状況】



【人口減少率と世帯に対する空き家等の数の割合】



【空き家件数】



【開発許可・新築・農地転用状況】

		住居系	商業系	工業系	公共系	その他	計
開発許可	件数	0	3	2	0	1	6
	面積 (ha)	0.00	2.15	17.17	0.00	6.17	25.49
農地転用	件数	26	2	7	9	86	130
	面積 (ha)	0.98	0.29	0.55	1.39	14.48	17.69
新築建物	件数	126	11	4	13	3	157
	面積 (ha)	2.5112	0.1777	0.5401	0.2662	0.0215	3.5167

出典：都市計画基礎調査 (H29)

【空き家等の不良度ランクの判定内容】

ランク	判定内容
A	管理に特段問題がなく、現況のまま利用可能
B	管理が行き届いていないが、当面の保安上の危険は少ない
C	管理が行き届いておらず、損傷が激しいため保安上危険となるおそれがある
D	倒壊の危険性があり、修繕や解体などの緊急度が高い

出典：唐津市空家等対策計画 (R4. 3月)

公共公益施設・都市公園

- 公共公益施設をみると、行政施設が2箇所、学校が6箇所、文化・交流施設が1箇所立地している。
- 子育て支援施設（2箇所）の0～4歳の人口カバー率が26.9%と市平均より低い。また、子育て支援施設のカバー圏域外のエリアのうち、人口が300人以上居住するエリアが含まれる。
- 病院・診療所（5箇所）の高齢者カバー率が22.3%と市平均より低い。また、病院・診療所のカバー圏域外のエリアのうち、人口が300人以上居住するエリアが含まれる。
- 都市公園が1箇所あるほか、団地公園や農村公園が8箇所整備されている。公園・緑地整備に関するニーズでは、**豊かな自然・史跡などの地域特性を活かした公園の整備が求められている。**

【公共公益施設・都市公園の立地数】

行政施設	学校	学校		子育て支援施設	子育て支援施設			文化・交流施設	病院・診療所	都市公園
		小学校	中学校		保育園	幼稚園	子育て支援施設			
2	6	4	2	2	0	2	0	1	5	1

【カバー圏域】

	子育て支援施設(800m圏内)	病院・診療所(500m圏内)	公園(住区基幹公園)
	0～4歳の人口カバー率	高齢者カバー率	公園圏域内の人口カバー率
南部地域	26.9%	22.3%	5.2%
唐津市	67.7%	45.0%	14.9%

児童数の増減

H29	572人
R05	411人
H29-R05の増減率	0.72

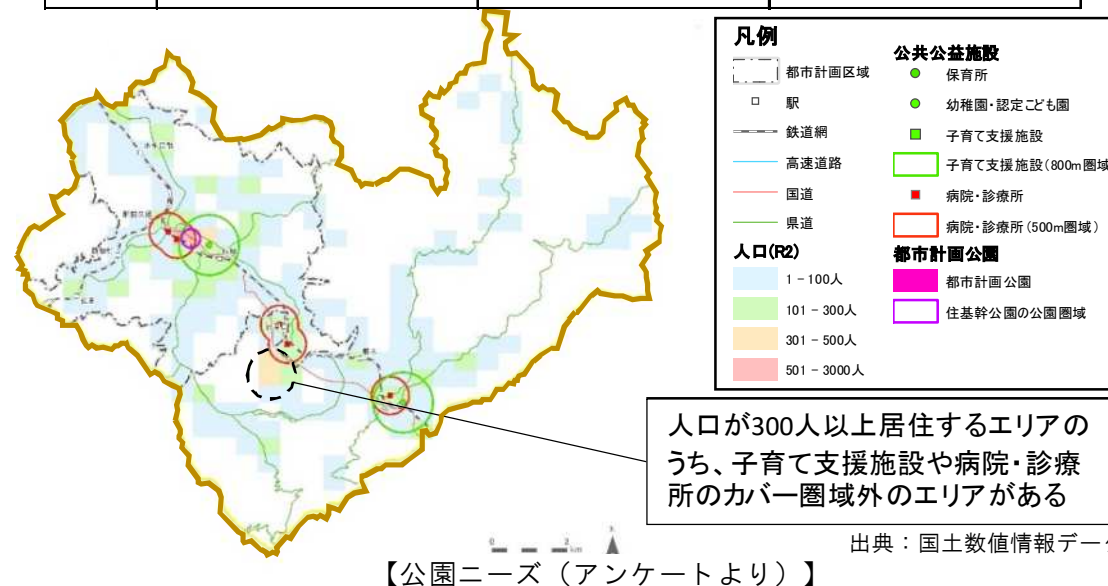
平成29年～令和5年にかけて、減少している。

【公共公益施設・都市公園の分布図】



牧瀬IC

出典：国土数値情報データ



人口が300人以上居住するエリアのうち、子育て支援施設や病院・診療所のカバー圏域外のエリアがある

出典：国土数値情報データ

【公園ニーズ（アンケートより）】

公園・緑地整備に対するニーズでは、「**豊かな自然・史跡などの地域特性を活かした公園の整備(39.1%/市平均:39.2%)**」が最も高かった。

観光・地域資源

- 蕨野の棚田や環境芸術の森などの自然や文化を活かした観光・地域資源が、南部地域全体的に分布している。

【観光・地域資源の分布図】



蕨野の棚田



天山ダム



見帰りの滝



環境芸術の森



出典：都市計画基礎調査(H29)・唐津観光協会HP

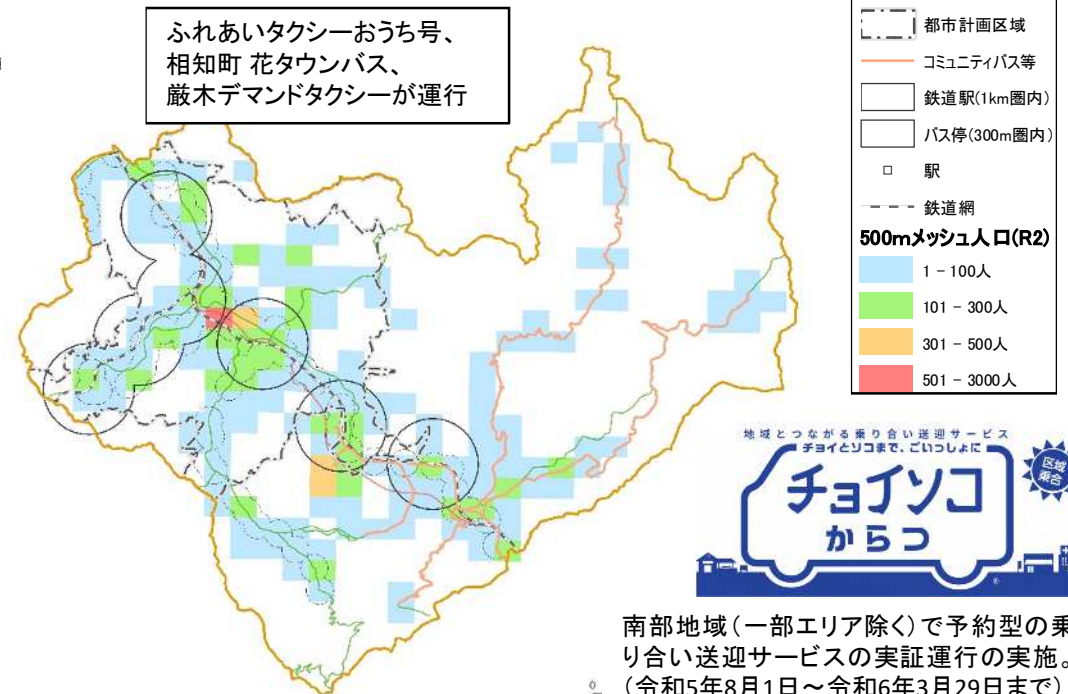
交通状況

- 公共交通はバス路線・JR線などのほか、デマンドタクシーの運行を実施しており、カバー人口率が73.2%と市平均より高い。

【鉄道およびバスによるカバー人口率】

	カバー人口	カバー人口率	カバー人口率(バス)	カバー人口率(鉄道)
南部	7,863	73.2%	53.1%	59.0%
唐津市	84,798	73.0%	65.7%	44.9%

【鉄道およびバスによるカバー圏域】



南部地域(一部エリア除く)で予約型の乗り合い送迎サービスの実証運行の実施。
 (令和5年8月1日～令和6年3月29日まで)

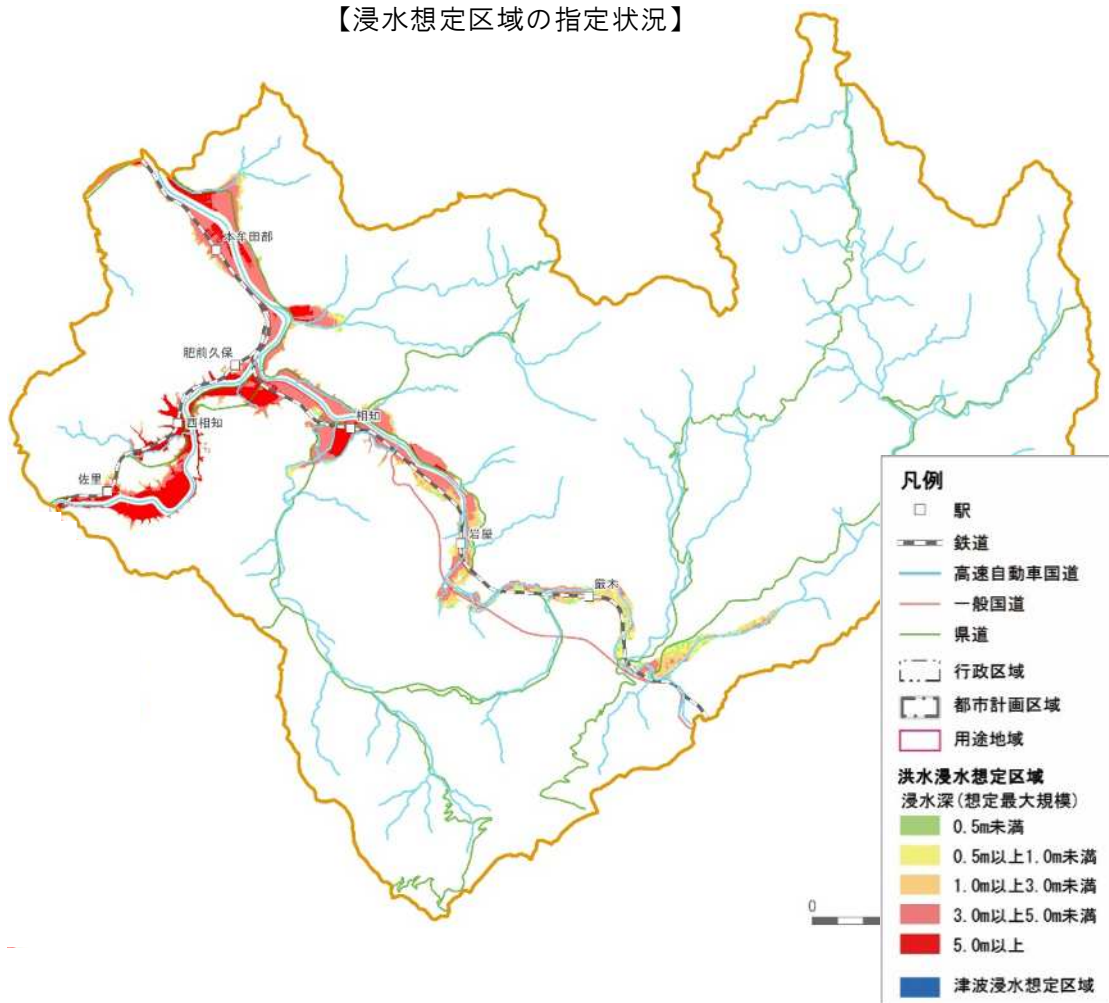
出典：唐津地域公共交通計画(R4.3)

アンケートでは、乗り合いタクシーなどの地域の実情に応じた交通手段の確保・強化(41.4%/市平均:29.7%)や佐賀唐津道路などの高速幹線道路の整備(29.9%/市平均:21.5%)が求められている。

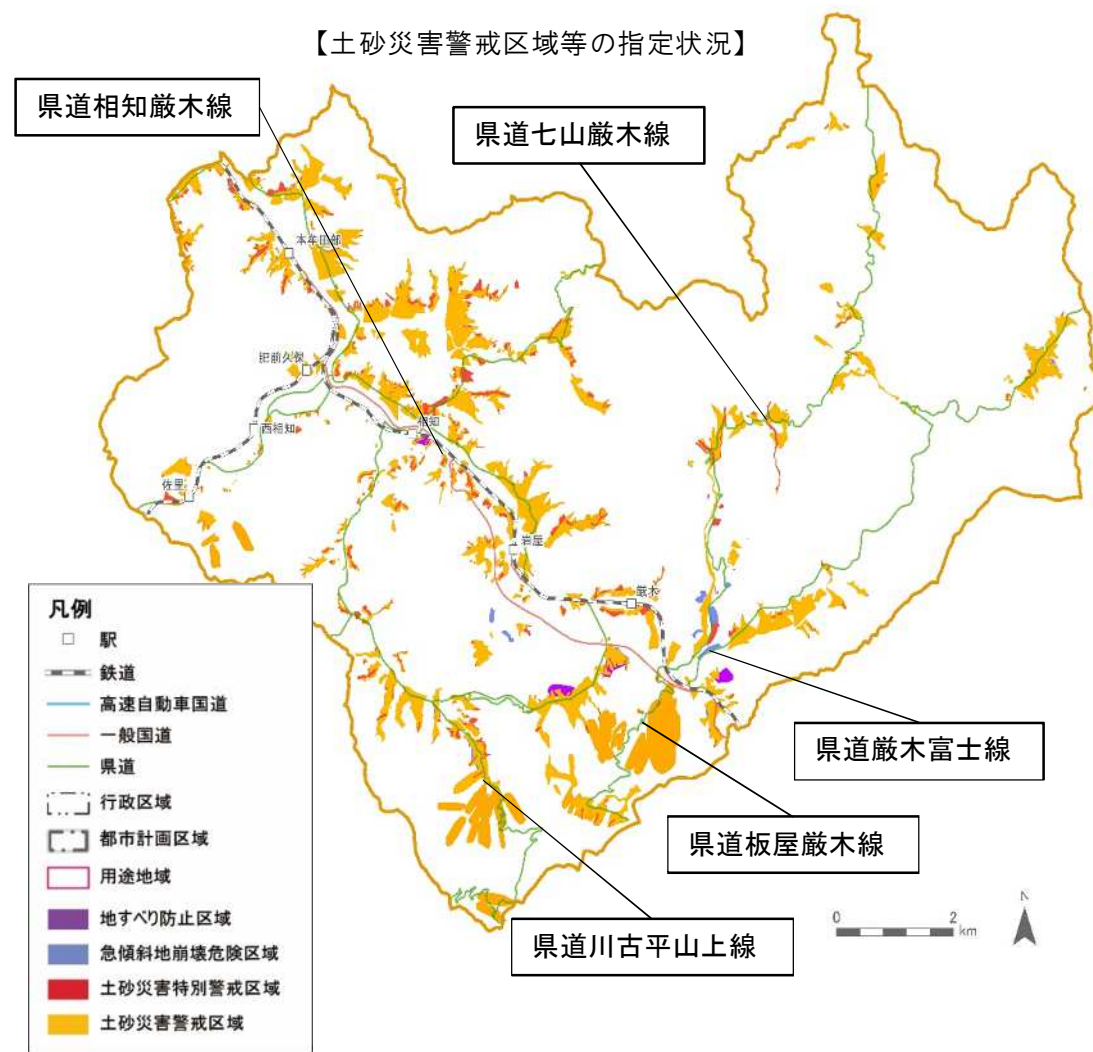
都市防災

- 松浦川の流域に位置するエリアであるため、浸水想定区域が広がっており、浸水深が3～5m未満または5m以上となるエリアも存在している。
- 土砂災害特別警戒区域や急傾斜地崩壊危険区域、地すべり防止区域など、土砂災害の恐れのある区域が地域内の山沿いに広く分布している。

【浸水想定区域の指定状況】



【土砂災害警戒区域等の指定状況】

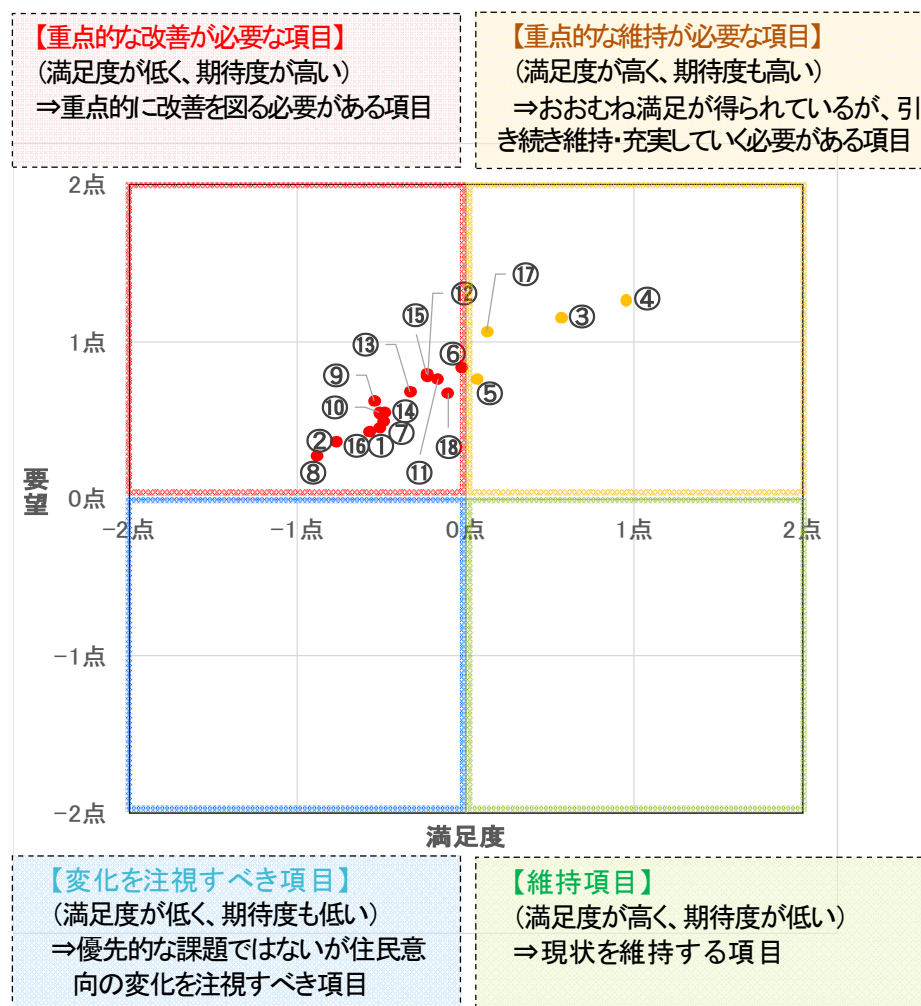


(3) 南部地域 ～住民ニーズの方向性～

住環境への満足度・要望

- 住環境にかかる項目（18項目）のうち、14項目が「重点的な改善が必要な項目」となった。特に「②働く場、就職機会の充実」「⑧鉄道・バスなどの公共交通の利便性」「⑩子供の遊び場や公園の充実度」については、重点的な改善が求められている。

【住環境の現況への満足度・要望度】

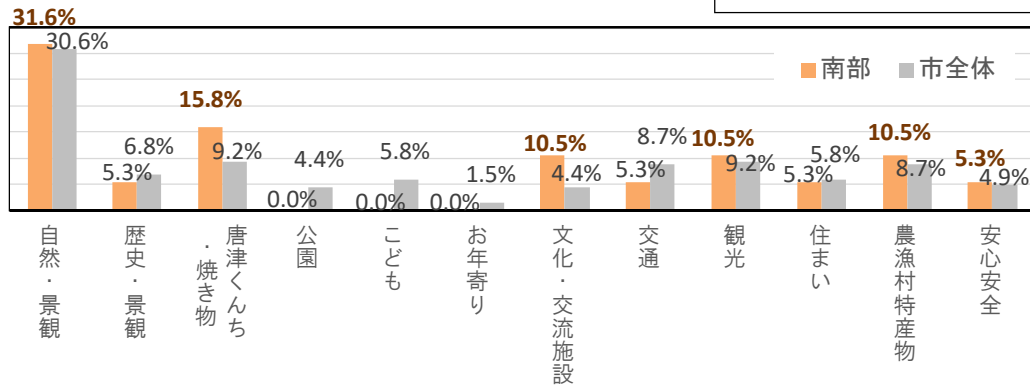


- ① 日常の買い物の利便性について
- ② 働く場、就業機会の充実について
- ③ 住宅地としての静けさ、雰囲気について
- ④ 自然・緑の豊かさ、美しさについて
- ⑤ 国道・県道などの地域間を結ぶ道路の走りやすさについて
- ⑥ 市街地・集落内の道路の走りやすさについて
- ⑦ 歩道の有無やバリアフリーなど、歩行環境の充実度について
- ⑧ 鉄道・バスなどの公共交通の利便性について
- ⑨ 暮らしを支える駅や公共施設のバリアフリーについて
- ⑩ 子どもの遊び場や公園の充実度について
- ⑪ 生活排水対策について（公共下水道・浄化槽等）
- ⑫ 河川・海岸の安全性や親しみやすさについて
- ⑬ コミュニティ施設、文化施設、官公庁施設など暮らしを支える公共施設の充実度について
- ⑭ 地震・津波や豪雨などの自然災害に対する安全性について
- ⑮ 火災・延焼などの社会災害に対する安全性について
- ⑯ 街路灯の数・夜道の安全性について
- ⑰ 騒音や悪臭などの公害の無さについて
- ⑱ 総合的な暮らしやすさについて

重点的に活用すべき資源

- 重点的に活用すべき資源として、里山やアザメの瀬などの「自然・景観」や、相知くんちや広瀬浮立などの「伝統」に関する回答が多かった。
- 「農業・漁業」や「文化・交流」に関する回答もあった。

茶色字：市平均より高い割合

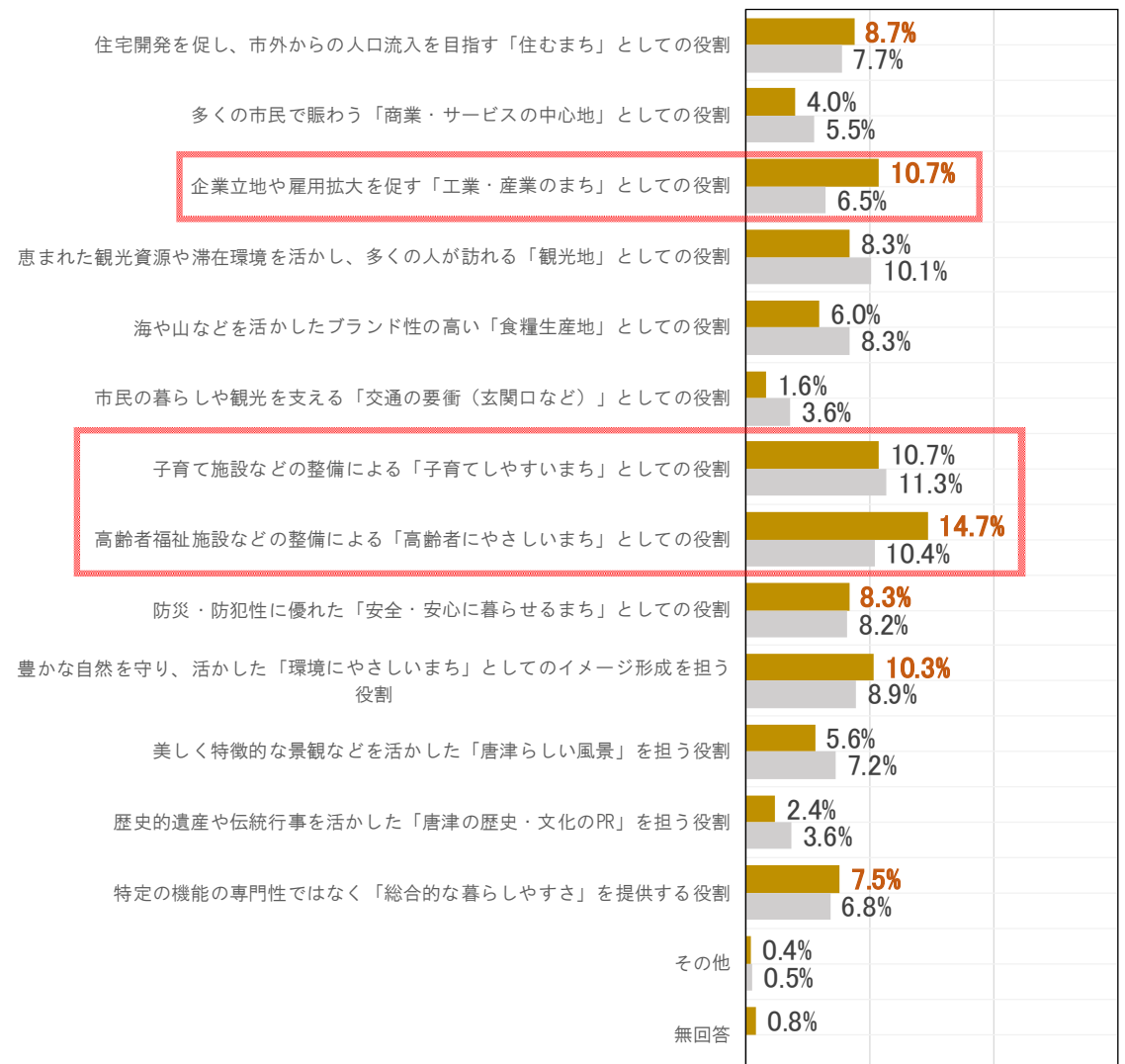


キーワード	内容（抜粋）
自然・景観	○自然 ○里山再生 ○棚田やアザメの瀬の保全
歴史	○熊野神社、石仏群
伝統	○広瀬浮立 ○相知くんち
公園	—
子ども	—
お年寄り	—
文化・交流	○スポーツ、文化施設 ○昔ながらの地域交流
交通	○道路や歩道の整備
観光	○見返りの滝、鶴殿石仏群
住まい	—
農業・漁業	○農林業や漁業などに携わる人たちの生活
安心・安全	○夜の安全性（街灯）
その他	—

地域の役割

茶色字：市平均より高い割合

- 南部地域で求められる役割は、「高齢者にやさしいまちとしての役割」が最も高く、次いで「工業・産業のまちとしての役割」「子育てしやすいまちとしての役割」となった。



(3) 南部地域 ～現行計画の進捗状況～

現行計画の進捗状況

●完了 ●実施中

➤ 現行の都市計画マスタープランの策定以降、地域別構想に示された「重点方針」や「土地利用、都市施設等の方針」に基づき、関係各課では以下の取り組みを実施しています。

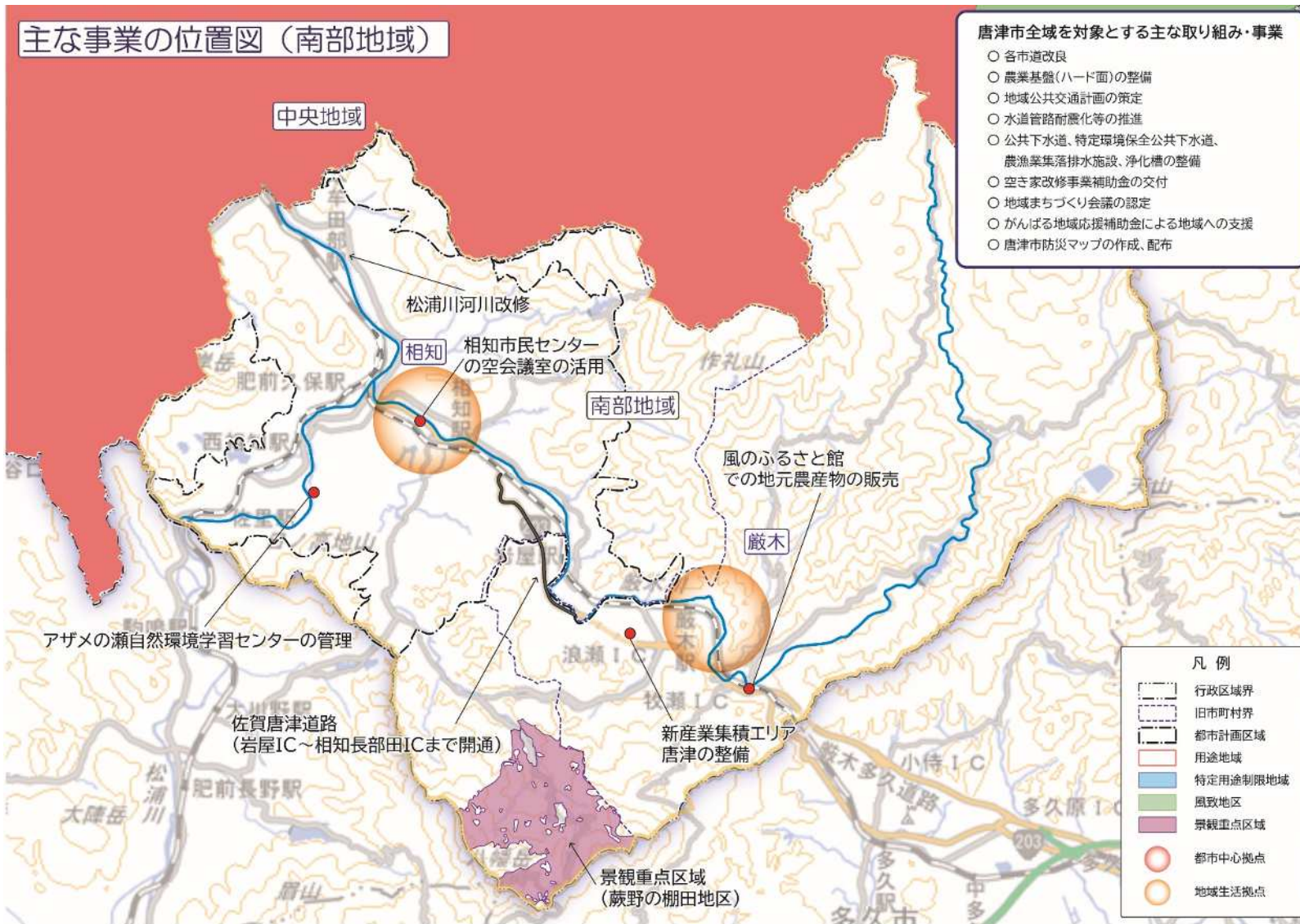
※一部市の事業でないものも含む

現行計画の既往項目		具体的な取組内容(抜粋)
重点方針	① 県立自然公園に指定された、多様な機能を持つ豊かな森林環境を守り・育てるまちづくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ●市有林の適切な施業 ●多面的機能支払交付金、中山間地域等直接支払交付金を活用した農村環境保全活動の推進 ●国・県の補助事業による私有林の整備 ●八幡岳キャンプ場の管理運営の実施
	② 松浦川・巖木川を中心とした水と緑の景観まちづくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ●重要文化的景観「巖野の棚田」の保全・管理 ●山崎地区花いっぱいまちづくり事業 ●巖木川ふれあい遊歩道・桜つつみ遊歩道、出逢いの水辺の維持・管理 ●アザメの瀬自然環境学習センターの管理
	③ 佐賀唐津道路をはじめ高速交通体系を活かした産業・観光の振興	<ul style="list-style-type: none"> ●県道伊万里畑川内巖木線などの未完了区間の整備 ●佐賀唐津道路唐津・多久間整備促進期成会による要望活動 ●新産業集積エリア唐津への企業誘致活動の実施 ●風のふるさと館での地元農産物の販売
	④ 浸水対策や生活排水対策など安全・安心・快適な住環境整備と、集落点検事業など既存集落での持続可能な地域づくりの検討・推進	<ul style="list-style-type: none"> ●唐津市及び地元区による武雄河川事務所への河川改修の早期着工要望活動 ●路線バス及び乗合タクシーの運行事業者に対する補助 ●オンデマンドタクシーシステム導入補助 ●地域の実情に合った公共交通の検討
土地利用、都市施設等の方針	土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ●唐津市空き家バンク制度等を活用したUJターン支援の実施 ●開発許可制度や農振法、森林法に基づく手続きなどの適正な事務処理の実施
	都市施設 (道路・公園等)	<ul style="list-style-type: none"> ●市道天徳の丘2号線道路改良事業 ●巖木ダム放流連絡会、巖木ダムとともに水害に強い地域づくりを考える意見交換会による情報共有 ●県下一斉美化活動での公園清掃
	市街地・集落地整備	<ul style="list-style-type: none"> ●空き店舗チャレンジ誘致事業
	景観・環境・その他	<ul style="list-style-type: none"> ●相知市民センターの空会議室の活用

主な事業の位置図

▶ 南部地域で実施されている主な事業の位置は下記のとおりである。

主な事業の位置図（南部地域）



唐津市全域を対象とする主な取り組み・事業

- 各市道改良
- 農業基盤(ハード面)の整備
- 地域公共交通計画の策定
- 水道管路耐震化等の推進
- 公共下水道、特定環境保全公共下水道、農漁業集落排水施設、浄化槽の整備
- 空き家改修事業補助金の交付
- 地域まちづくり会議の認定
- がんばる地域応援補助金による地域への支援
- 唐津市防災マップの作成、配布

景観計画重点区域（蕨野の棚田地区）の指定

背景の山林と一体となり、石垣と畦道による美しい地形を有する蕨野の棚田とその周辺を、景観計画の重点区域に指定。棚田を活用したイベント等の実施により、都市部との交流拡大に寄与している。



出典：唐津市HP

新産業集積エリア唐津の整備

西九州自動車道の浪瀬IC付近に位置し、アクセスに優れた広大な土地を、工業団地として整備。佐賀県と連携し、製造業などの企業誘致に取り組んでいる。



出典：唐津市HP

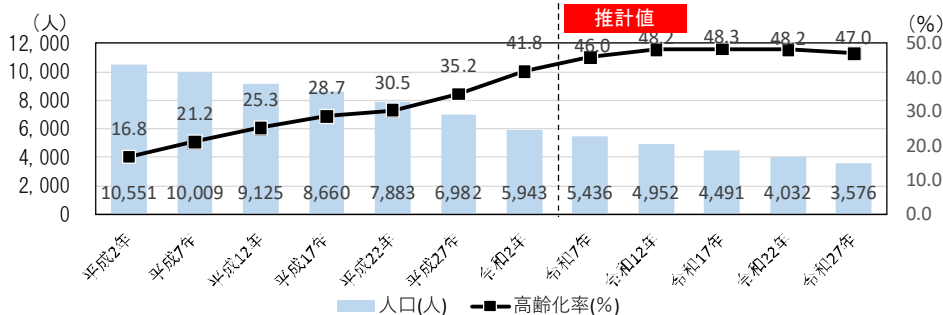
※一部市の事業でないものも含む。また、一部都市計画マスタープランの計画期間外の取り組み・事業を含む。

(4) 西部地域 ～地域の現状～

人口推移・高齢化率

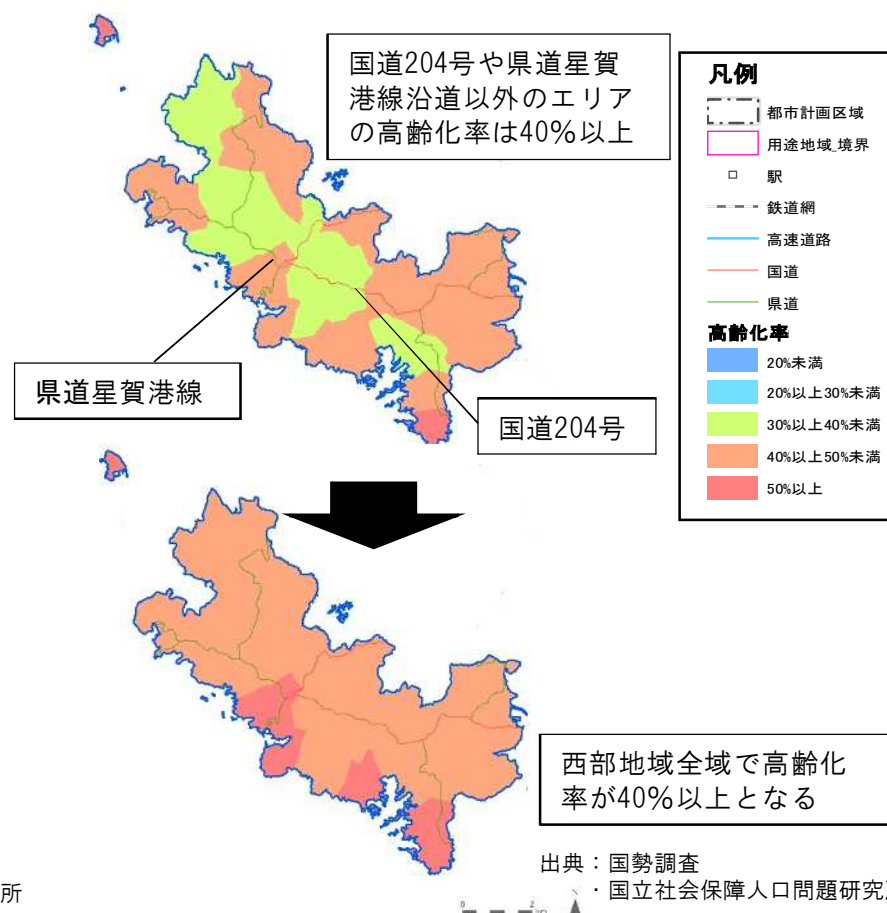
- 令和2年の人口は5,943人（平成22年比で75.3%）であり、今後も人口減少が見込まれる。また、高齢化率は41.8%（平成22年比で11.3ポイント増）であり、高齢化が進行している。
- 人口分布をみると、市民センター周辺のほか、星賀漁港などの漁港周辺に人口が多く分布している。
- 高齢化率の分布をみると、令和12年には、国道204号や県道星賀港線沿道を含め、西部地域全体が40%以上となる。

【地域別の人口及び高齢化率の推移】

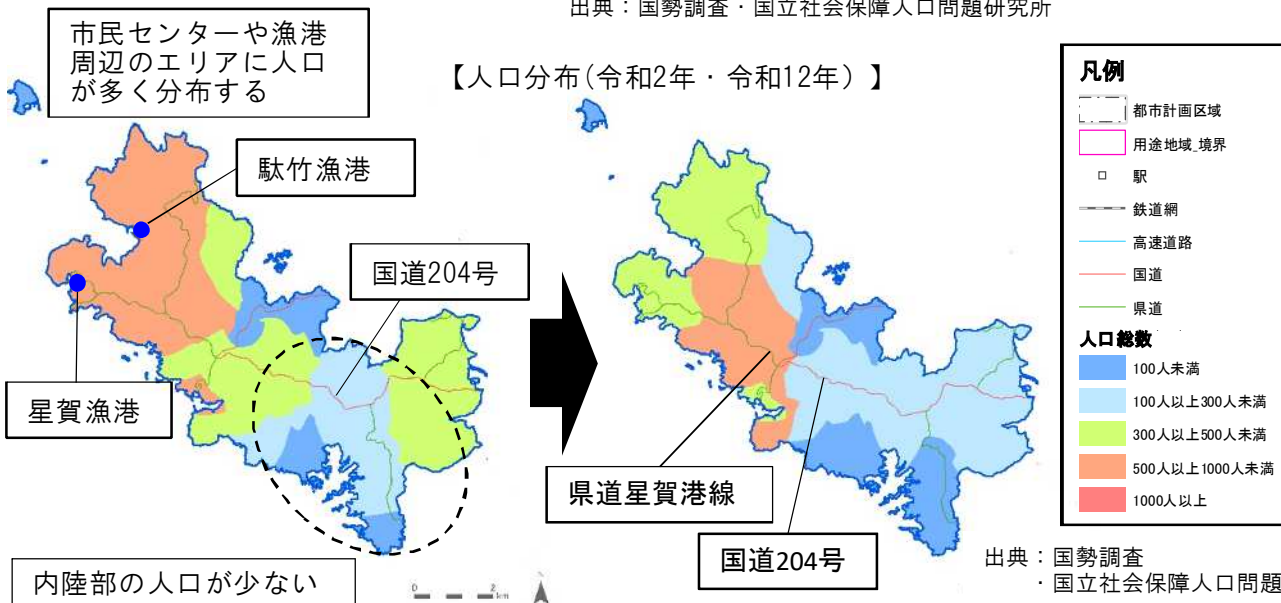


出典：国勢調査・国立社会保障人口問題研究所

【町丁目別の高齢化率の分布（平成27年・令和12年）】



【人口分布(令和2年・令和12年)】



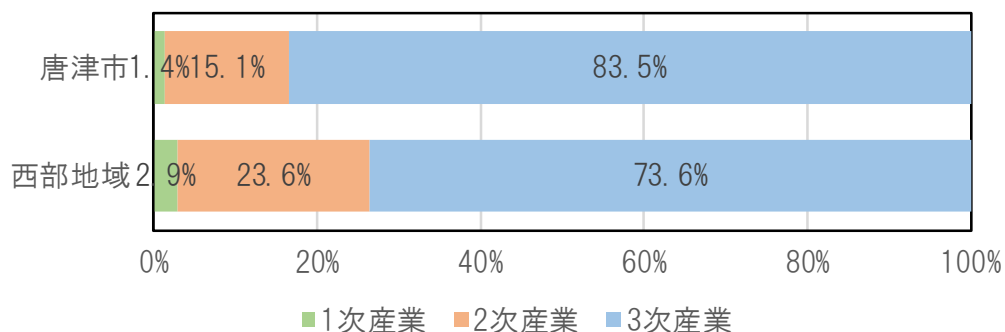
出典：国勢調査・国立社会保障人口問題研究所

出典：国勢調査・国立社会保障人口問題研究所

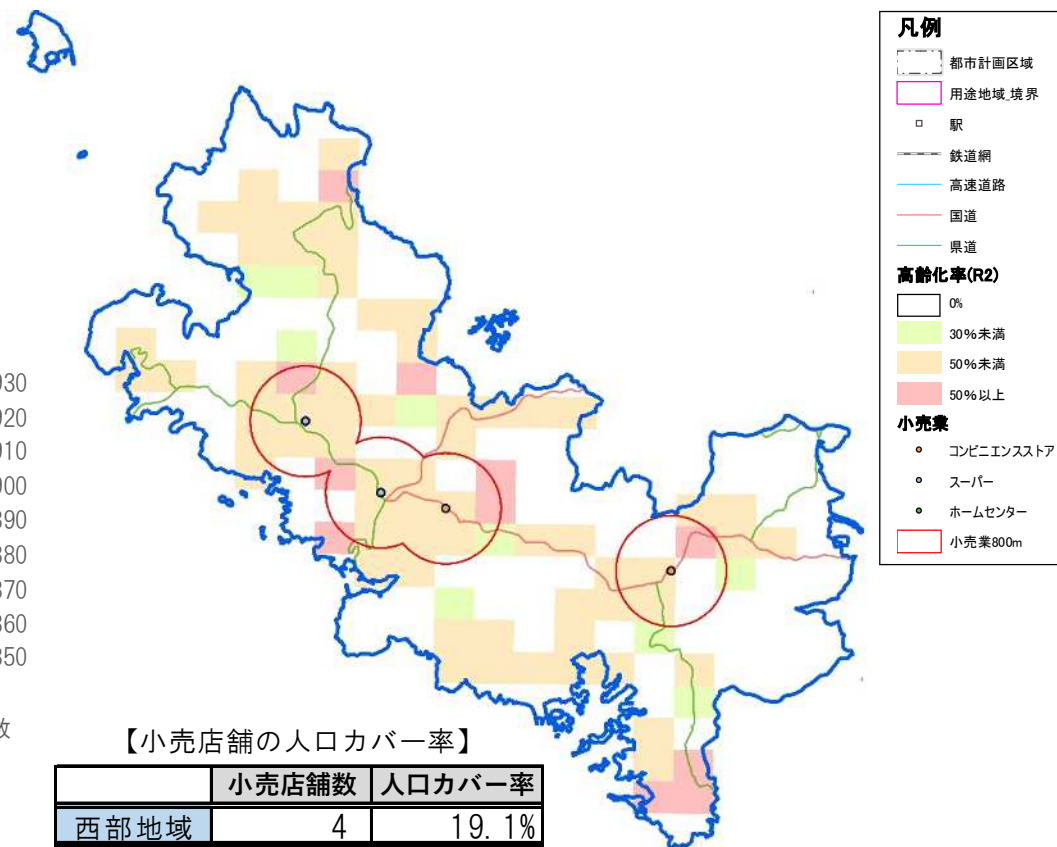
産業・商業

- 事業所の割合をみると、第1次産業が2.9%、第2次産業が23.6%と、市全体の割合と比較して高い。
- 小売店舗は4店舗と、人口分布に対して少なく、人口カバー率も19.1%と市内で最も低い。
- 西部地域は高齢化率の高いエリアが多いが、そのほとんどが小売店舗の人口カバー圏域に含まれておらず、特に高齢者の日常の買い物が不便な地域となっている。

【事業所の産業別割合】



【小売店舗の立地状況】



【小売店舗の人口カバー率】

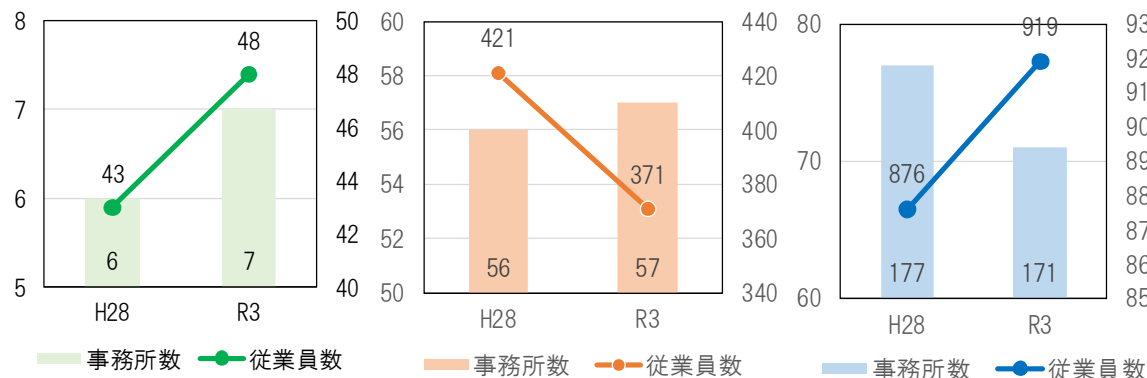
	小売店舗数	人口カバー率
西部地域	4	19.1%
唐津市	92	73.5%

出典：基礎調査データ (H29年度)

0 2 km



■ 1次産業 ■ 2次産業 ■ 3次産業



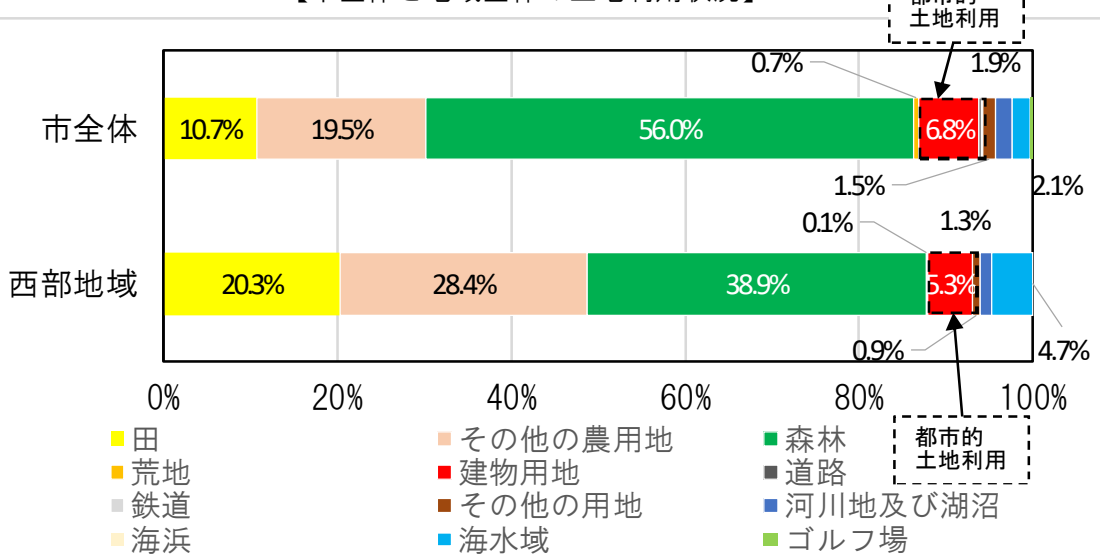
出典：経済センサス (H28・R3)

H28と比較すると、第3次産業の事務所数が微減している。また、従業員数をみると第2次産業が減少している。

土地利用動向

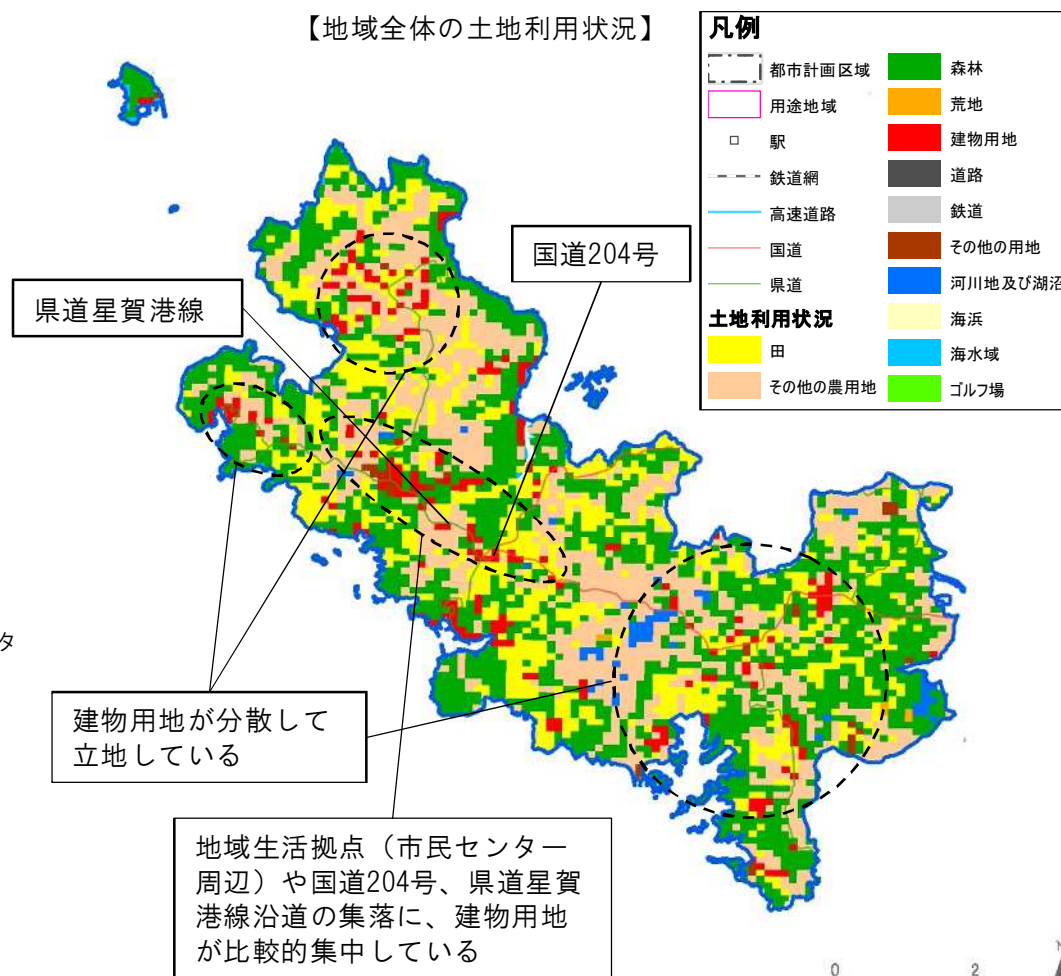
- ▶ 西部地域の土地利用をみると、建物用地の割合が5.3%となっており、都市的土地利用の占める割合をみると、市全体と比較して低い。一方、**農地が占める割合が48.7%と、市平均（30.2%）と比較して高い。**
- ▶ 地域生活拠点（市民センター周辺）に建物用地が集中しているが、その他のエリアにおいては、建物用地が分散している。

【市全体と地域全体の土地利用状況】



出典：国土数値情報データ

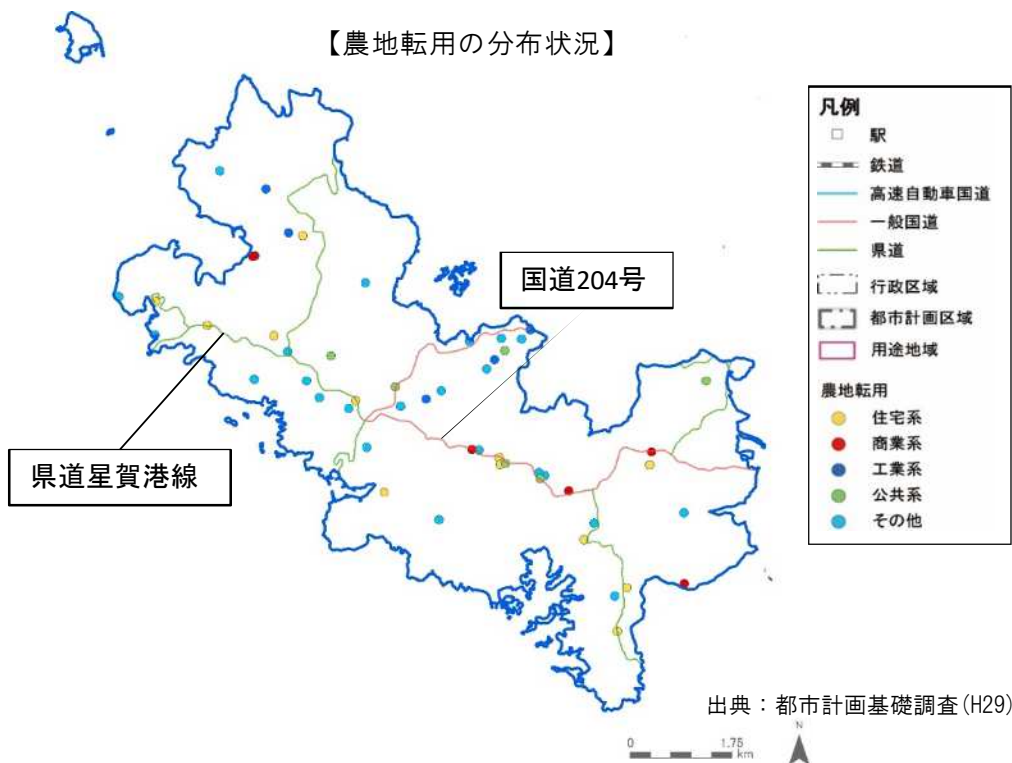
【地域全体の土地利用状況】



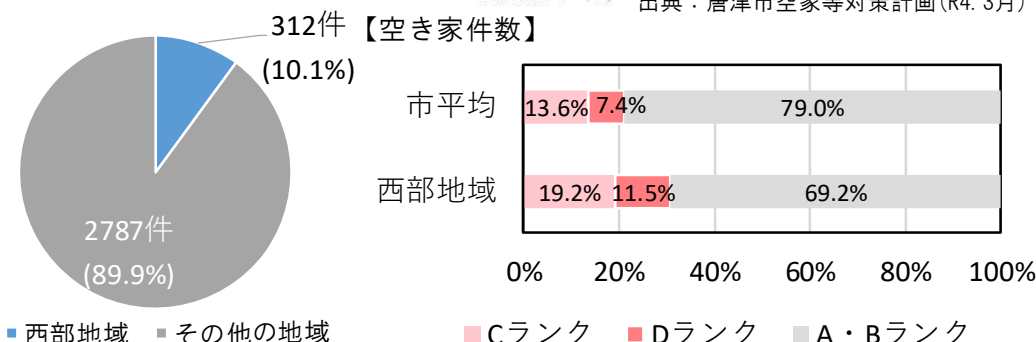
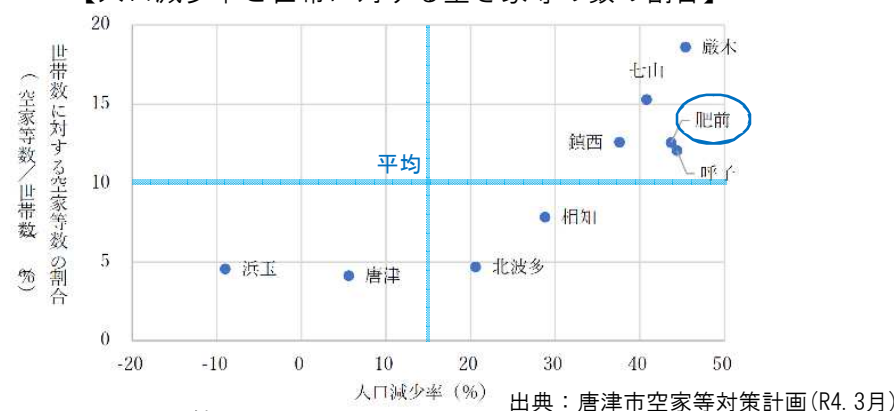
開発状況・空き家の状況

- 農地転用の状況を見ると、国道204号などの沿道に多くみられ、住居や商工業以外の用途（駐車場・太陽光発電など）への転用が最も多くみられる。
- 空き家件数は312件と市全体の約1割を占めており、世帯数に対する空き家等の割合が10%を超え、他地域と比較して高い。
- 空き家等の不良度ランクでは、C・Dランクの空き家は30.7%と、市平均（21.0%）より上回っている。

【農地転用の分布状況】



【人口減少率と世帯に対する空き家等の数の割合】



【開発許可・新築・農地転用状況】

		住居系	商業系	工業系	公共系	その他	計
開発許可	件数	0	0	0	0	0	0
	面積 (ha)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
農地転用	件数	12	7	5	6	23	53
	面積 (ha)	0.63	0.53	0.23	1.79	3.31	6.49
新築建物	件数	0	0	0	0	0	0
	面積 (ha)	0	0	0	0	0	0

出典：都市計画基礎調査(H29)

【空き家等の不良度ランクの判定内容】

ランク	判定内容
A	管理に特段問題がなく、現況のまま利用可能
B	管理が行き届いていないが、当面の保安上の危険は少ない
C	管理が行き届いておらず、損傷が激しいため保安上危険となるおそれがある
D	倒壊の危険性があり、修繕や解体などの緊急度が高い

出典：唐津市空家等対策計画(R4. 3月)

公共公益施設・都市公園

- 公共公益施設をみると、行政施設が1箇所、学校が5箇所、文化・交流施設が1箇所立地している。
- 子育て支援施設（4箇所）の0～4歳の人口カバー率が27.5%と市平均より低い。また、**人口が比較的多く分布するエリアに、公共公益施設の立地がみられない。**
- 病院・診療所（1箇所）の高齢者カバー率が17.6%と市平均より低い。
- 西部地域は都市計画区域外のため、都市公園はないが、児童遊園や農村公園などが19箇所整備されている。公園・緑地整備に関するニーズでは、**身近で日常的に利用できる小さな公園・広場の整備が求められている。**

【公共公益施設・都市公園の立地数】

行政施設	学校	子育て支援施設			文化・交流施設	病院・診療所	都市公園		
		小学校	中学校	保育園					
1	5	4	1	4	2	1	1	4	0

【カバー圏域】

	子育て支援施設(800m圏内)	病院・診療所(500m圏内)	公園(住区基幹公園)
	0～4歳の人口カバー率	高齢者カバー率	公園圏域内の人口カバー率
西部地域	27.5%	17.6%	0.0%
唐津市	67.7%	45.0%	14.9%

児童数の増減

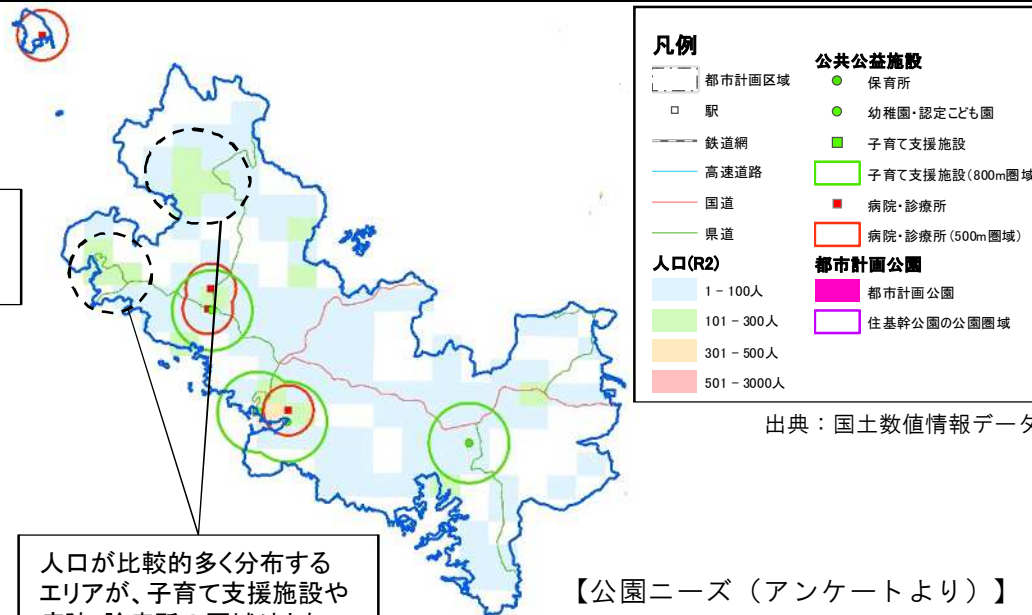
H29	287人
R05	204人
H29-R05の増減率	0.71

平成29年～令和5年にかけて、減少している。

【公共公益施設・都市公園の分布図】



出典：国土数値情報データ



人口が比較的多く分布するエリアが、子育て支援施設や病院・診療所の圏域外となっている

【公園ニーズ（アンケートより）】

公園・緑地整備に対するニーズでは、「**身近で日常的に利用できる小さな公園・広場の整備(46.7%/市平均: 36.4%)**」が最も高かった。

出典：国土数値情報データ

凡例	
都市計画区域	公共公益施設
駅	市役所
鉄道網	市民センター
高速道路	小学校
国道	中学校
県道	保育園
人口(R2)	幼稚園・認定こども園
1-100人	子育て支援施設
101-300人	文化・交流施設
301-500人	病院・診療所
501-3000人	都市計画公園
	都市計画公園

観光・地域資源

- 大浦の棚田やいろは島展望台などの豊かな自然を活かした観光・地域資源が、地域内に広く分布している。

【観光・地域資源の分布図】



出典：都市計画基礎調査(H29)・唐津観光協会HP

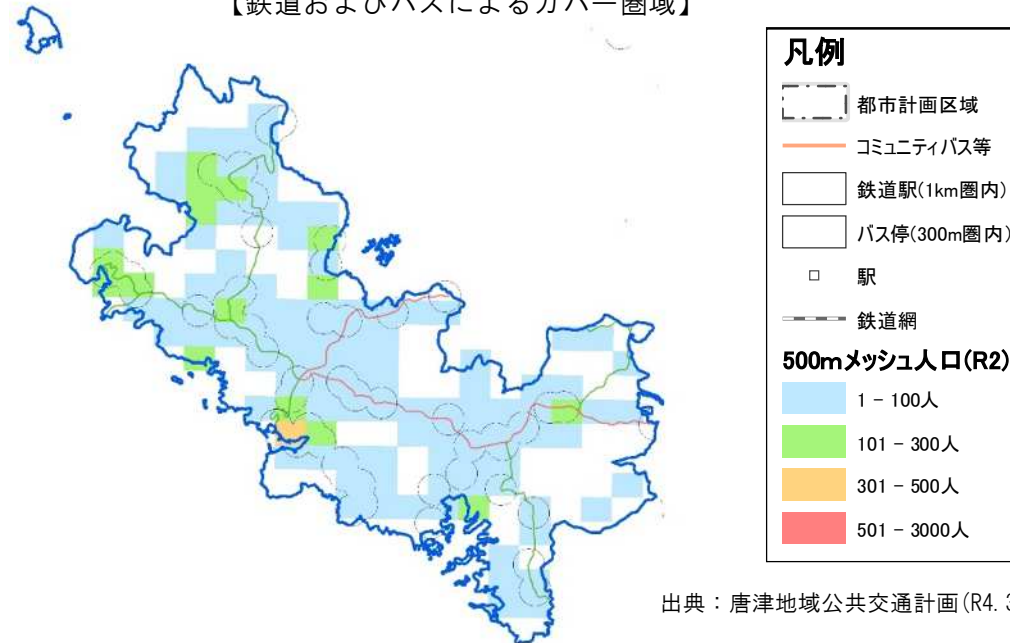
交通状況

- 公共交通はバス路線の運行を実施しており、カバー人口率が62.5%と市平均より低いが、**カバー圏域をみると概ねカバーされている。**

【鉄道およびバスによるカバー人口率】

	カバー人口	カバー人口率	カバー人口率(バス)	カバー人口率(鉄道)
西部	3,494	62.5%	62.5%	0.0%
唐津市	84,798	73.0%	65.7%	44.9%

【鉄道およびバスによるカバー圏域】



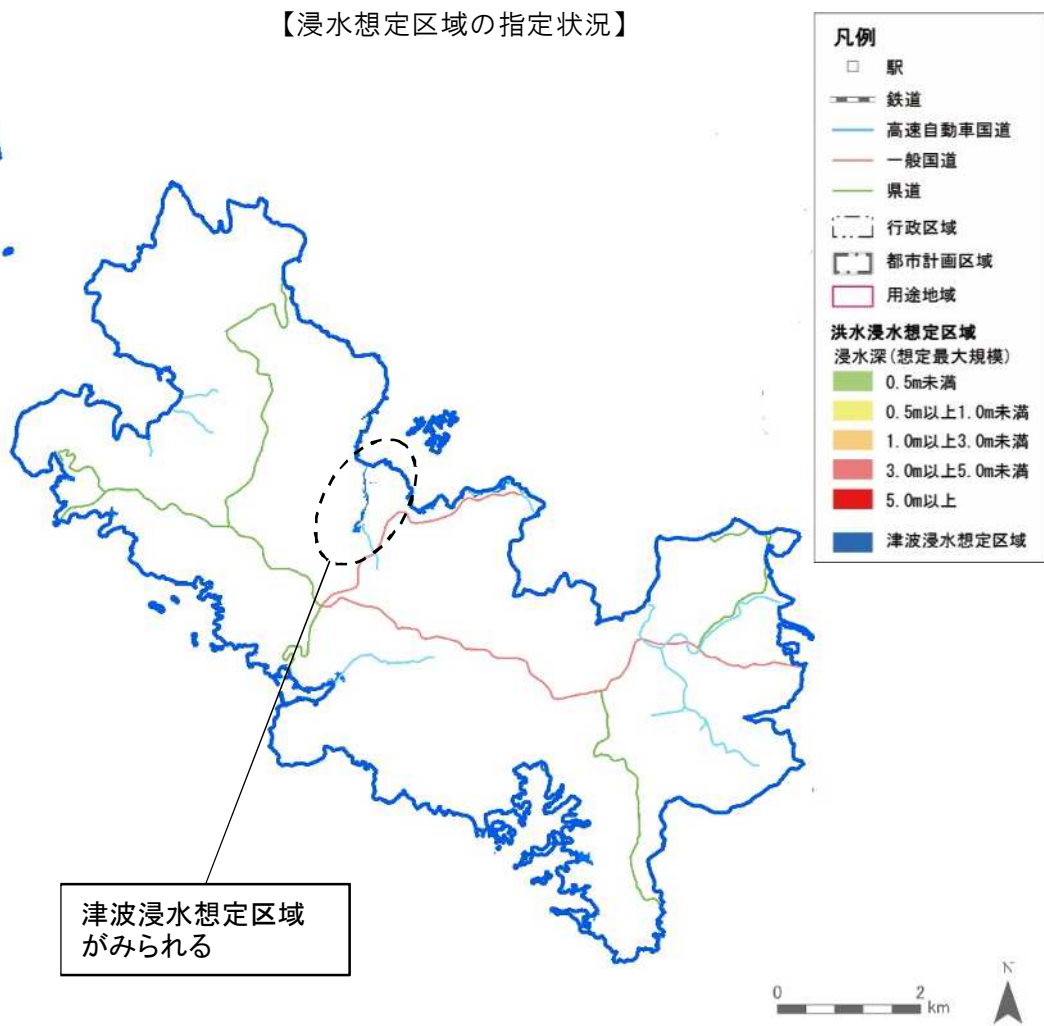
出典：唐津地域公共交通計画(R4. 3)

アンケートでは、**乗り合いタクシーなどの地域の実情に応じた交通手段の確保・強化(36.7%/市平均:29.7%)**や**佐賀唐津道路などの高速幹線道路の整備(30.0%/市平均:21.5%)**が求められている。

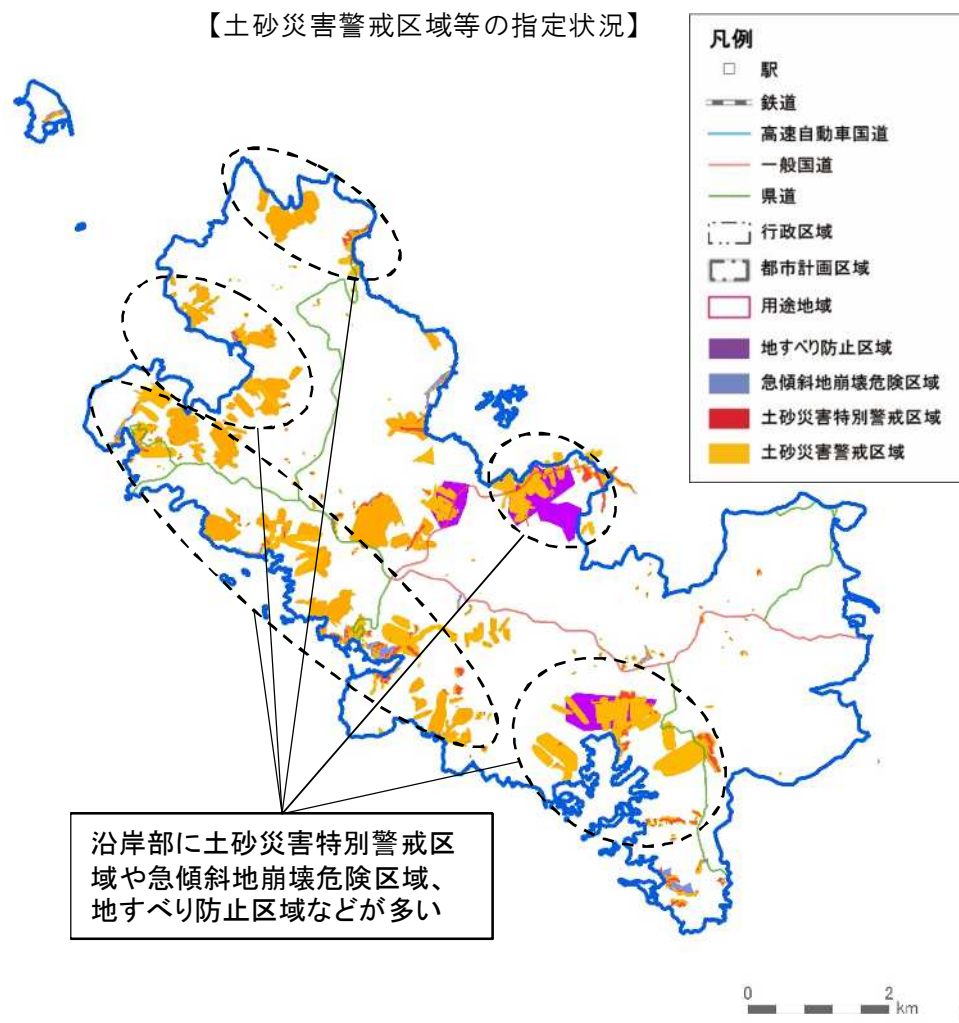
都市防災

- 津波浸水想定区域が一部エリアで見られる。
- 土砂災害特別警戒区域や急傾斜地崩壊危険区域、地すべり防止区域など、土砂災害の恐れのある区域が地域内に広く分布しており、特に沿岸部に多い。

【浸水想定区域の指定状況】



【土砂災害警戒区域等の指定状況】



(4) 西部地域 ～住民ニーズの方向性～

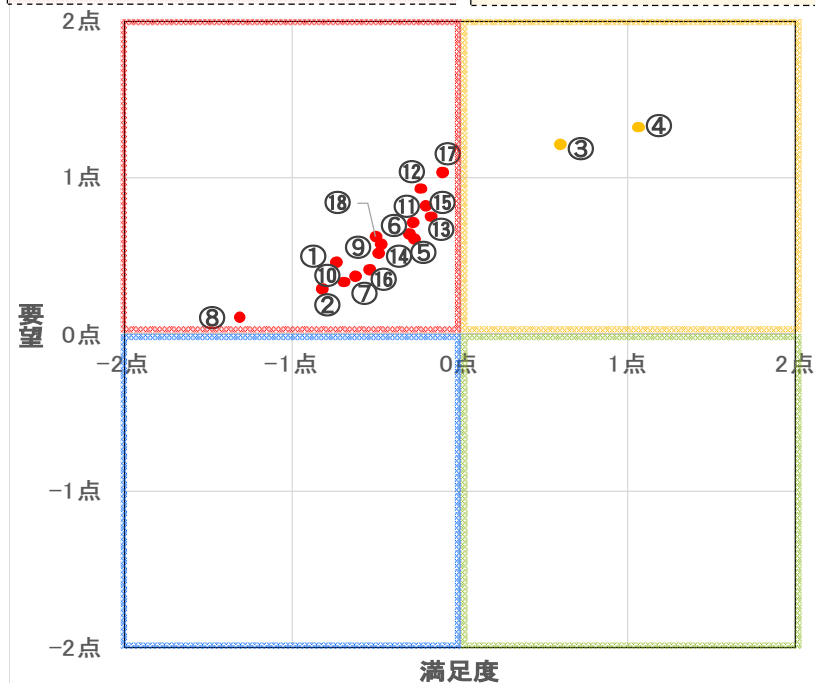
住環境への満足度・要望

- 住環境にかかる項目（18項目）のうち、16項目が「重点的な改善が必要な項目」となった。特に「⑧鉄道・バスなどの公共交通の利便性」「⑩子供の遊び場や公園の充実度」「⑫河川・海岸の安全性や親しみやすさ」については、重点的な改善が求められている。

【住環境の現況への満足度・要望度】

【重点的な改善が必要な項目】
 (満足度が低く、期待度が高い)
 ⇒重点的に改善を図る必要がある項目

【重点的な維持が必要な項目】
 (満足度が高く、期待度も高い)
 ⇒おおむね満足が得られているが、引き続き維持・充実していく必要がある項目



【変化を注視すべき項目】
 (満足度が低く、期待度も低い)
 ⇒優先的な課題ではないが住民意向の変化を注視すべき項目

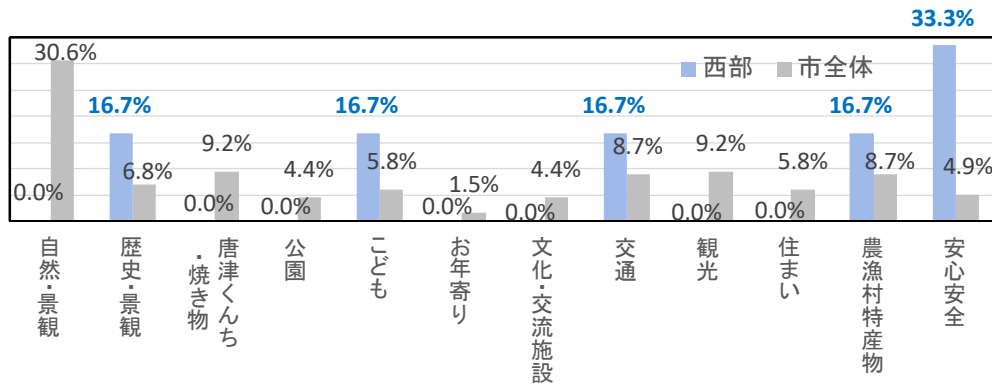
【維持項目】
 (満足度が高く、期待度が低い)
 ⇒現状を維持する項目

- ① 日常の買い物の利便性について
- ② 働く場、就業機会の充実について
- ③ 住宅地としての静けさ、雰囲気について
- ④ 自然・緑の豊かさ、美しさについて
- ⑤ 国道・県道などの地域間を結ぶ道路の走りやすさについて
- ⑥ 市街地・集落内の道路の走りやすさについて
- ⑦ 歩道の有無やバリアフリーなど、歩行環境の充実度について
- ⑧ 鉄道・バスなどの公共交通の利便性について
- ⑨ 暮らしを支える駅や公共施設のバリアフリーについて
- ⑩ 子どもの遊び場や公園の充実度について
- ⑪ 生活排水対策について（公共下水道・浄化槽等）
- ⑫ 河川・海岸の安全性や親しみやすさについて
- ⑬ コミュニティ施設、文化施設、官公庁施設など暮らしを支える公共施設の充実度について
- ⑭ 地震・津波や豪雨などの自然災害に対する安全性について
- ⑮ 火災・延焼などの社会災害に対する安全性について
- ⑯ 街路灯の数・夜道の安全性について
- ⑰ 騒音や悪臭などの公害の無さについて
- ⑱ 総合的な暮らしやすさについて

重点的に活用すべき資源

- 重点的に活用すべき資源として、増田神社が挙げられたほか、路線バスなどの「交通」に関する回答などがあつた。

青字：市平均より高い割合

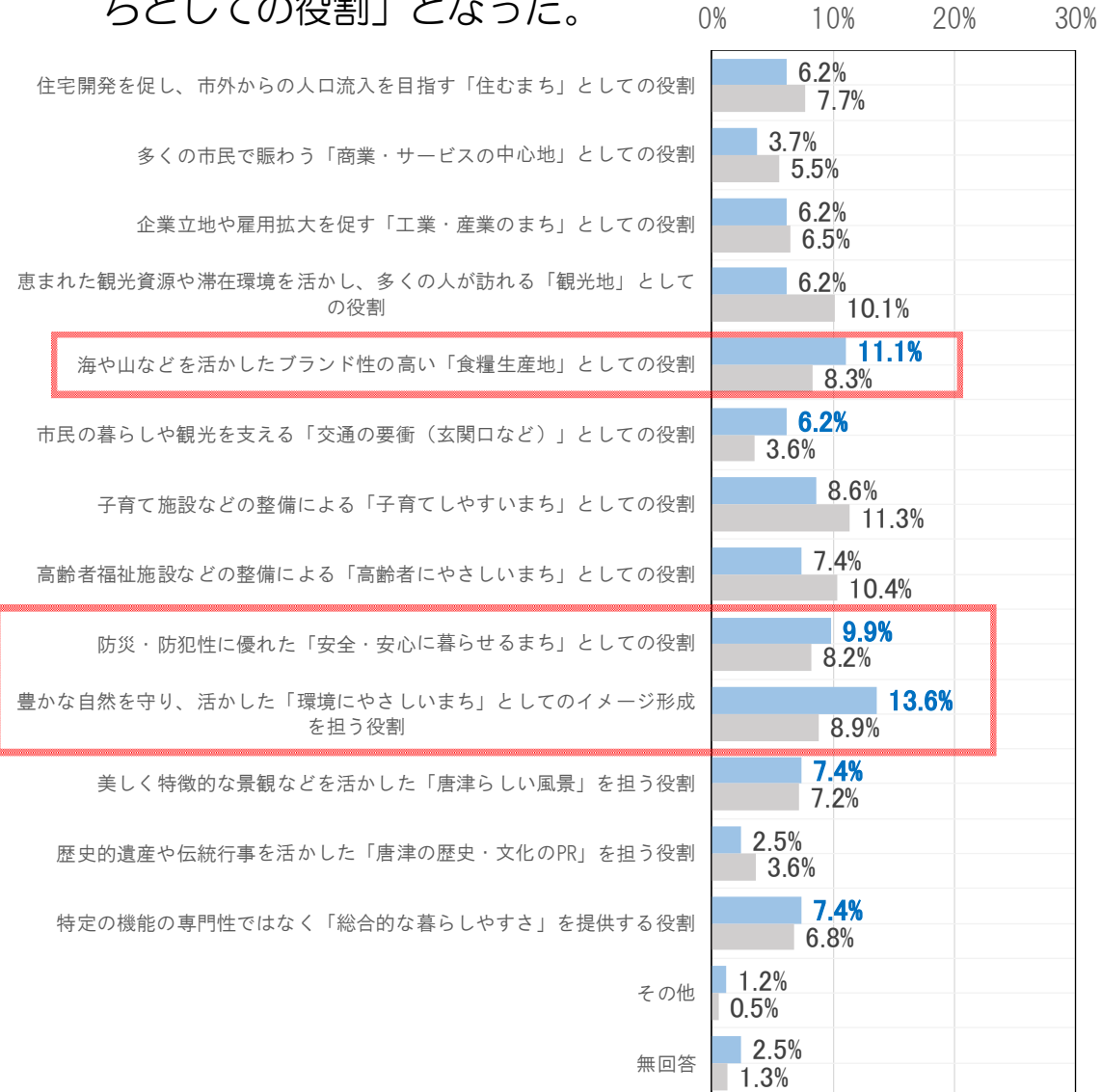


キーワード	内容 (抜粋)
自然・景観	—
歴史	—
伝統	—
公園	—
こども	○子育てがしやすい環境
お年寄り	—
文化・交流	—
交通	○路線バス
観光	—
住まい	—
農業・漁業	—
安心・安全	○大雨対策
その他	○日本唯一の警察神を祀っている増田神社

地域の役割

青字：市平均より高い割合

- 西部地域で求められる役割は、「環境にやさしいまちとしてのイメージ形成を担う役割」が最も高く、次いで「食糧生産地としての役割」「安全・安心に暮らせるまちとしての役割」となった。



(4) 西部地域 ～現行計画の進捗状況～

現行計画の進捗状況

●完了 ●実施中

➤ 現行の都市計画マスタープランの策定以降、地域別構想に示された「重点方針」や「土地利用、都市施設等の方針」に基づき、関係各課では以下の取り組みを実施しています。

※一部市の事業でないものも含む

現行計画の既往項目		具体的な取組内容（抜粋）
重点方針	①自然公園法・景観計画等の活用による玄海国立公園に指定された美しい景観の保全	<ul style="list-style-type: none"> ●広報誌等への啓発記事掲載 ●中山間直接支払事業・多面的機能支払事業等による農地の保全 ●景観街づくり推進委員の設置
	②いろは島、大浦の棚田、鷹島肥前大橋などの観光・交流資源と、佐賀牛や牡蠣などの食を活かした都市・農漁村交流促進による観光周遊ルートの確立	<ul style="list-style-type: none"> ●大浦の棚田展望台の整備 ●ふれあい自然塾ひぜんにおける自然体験型観光の推進 ●遊歩道の整備などの維持管理 ●にいこぼ204、夢美咲等による産直販売の実施
	③生活の中心となる地域生活拠点の維持・再生と、道路改良や生活排水対策など、安全・安心・快適に生活できる生活環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ●新木場地区における一部改良 ●佐賀県による万賀里川八折栄間の歩道の設置 ●高串地区漁業集落排水事業への着手 ●地域の要望に基づき急傾斜地崩壊防止事業実施 ●離島航路の運航事業者への補助
土地利用 都市施設等の方針	土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ●市内一軒家を対象とした空家等実態調査の実施 ●空き家の活用を希望する所有者を対象とした空き家バンクの登録案内の実施
	都市施設 (道路・公園等)	<ul style="list-style-type: none"> ●水道未普及地区改修事業による肥前町の未普及地区の解消 ●地域の要望箇所の中から危険性の高い個所を対象に市道を整備・補修 ●中央公園など既存公園の点検・修繕 ●いろは島の「花と冒険の島」の遊歩道の整備
	市街地・集落地整備	<ul style="list-style-type: none"> ●切木小（H24）、納所小（H25）、肥前中（H27）の耐震化
	景観・環境・その他	<ul style="list-style-type: none"> ●ふるさと美化活動 ●遊休市有地を太陽光発電事業者へ貸付 ●鷹島肥前大橋展望広場に電気自動車の充電施設を設置 ●肥前町産業祭への唐津市地域交流イベント活動促進事業補助金の交付

現行計画の位置図

▶ 西部地域で実施されている主な事業の位置は下記のとおりである。



ふれあい自然塾ひぜん (自然体験型観光拠点施設)

美しい景観を活かした自然体験ハウスやコテージ、キャンプサイト、シーカヤックなどが利用でき、海・山・川の自然をフィールドとした体験型観光の拠点施設となっている。



出典：ふれあい自然塾ひぜん公式HP

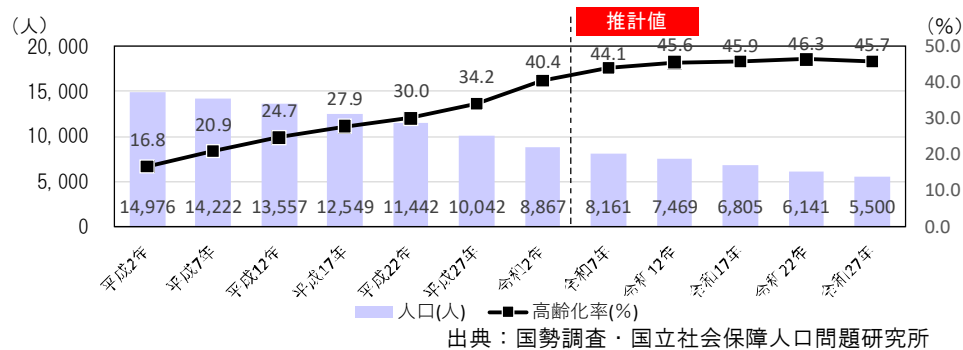
※一部市の事業でないものも含む。また、一部都市計画マスタープランの計画期間外の取り組み・事業を含む。

(5) 北部地域 ～地域の現状～

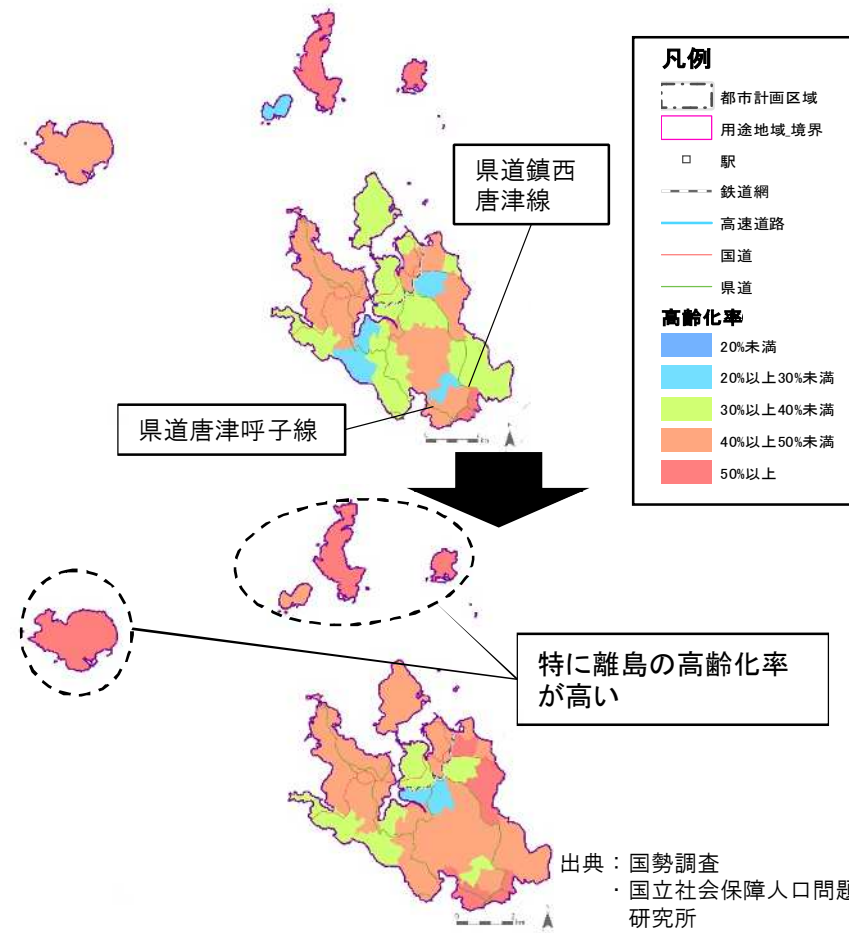
人口推移・高齢化率

- 令和2年の人口は8,867人（平成22年比で77.5%）であり、今後も人口減少が見込まれる。また、令和2年の高齢化率は40.4%（平成22年比で10.4ポイント増）であり、高齢化が進行している。
- 人口分布をみると、各市民センター周辺に人口が多く分布しており、令和12年も同様の分布がみられる。
- 高齢化率の分布をみると、特に離島で高齢化率が高く、50%以上のエリアもみられる。また、令和12年には、地域のほとんどが高齢化率40%以上となる。

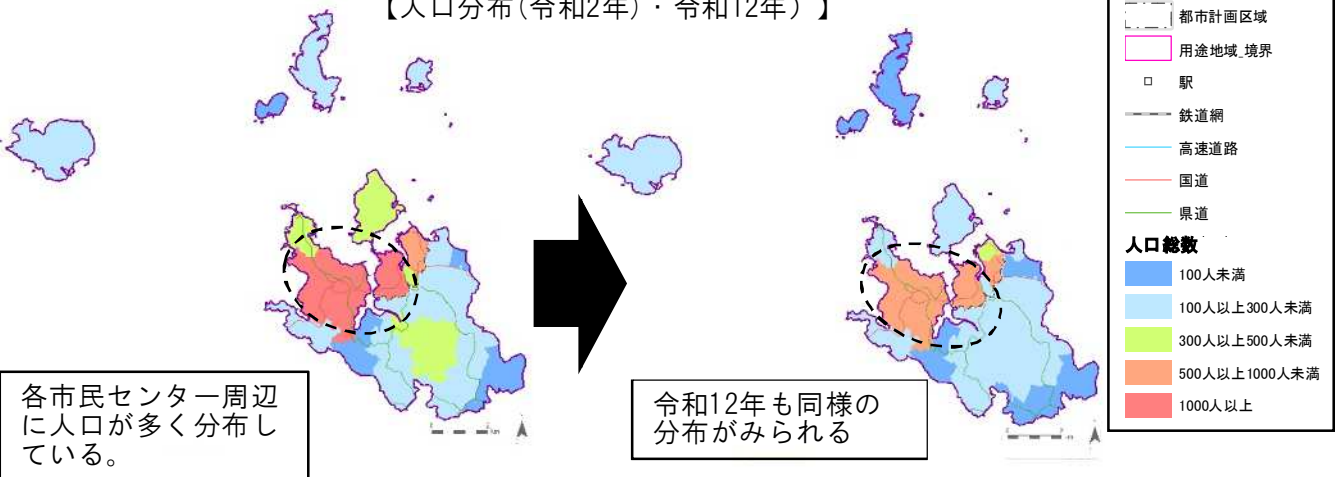
【地域別の人口及び高齢化率の推移】



【町丁目別の高齢化率の分布（平成27年・令和12年）】



【人口分布（令和2年）・令和12年）】



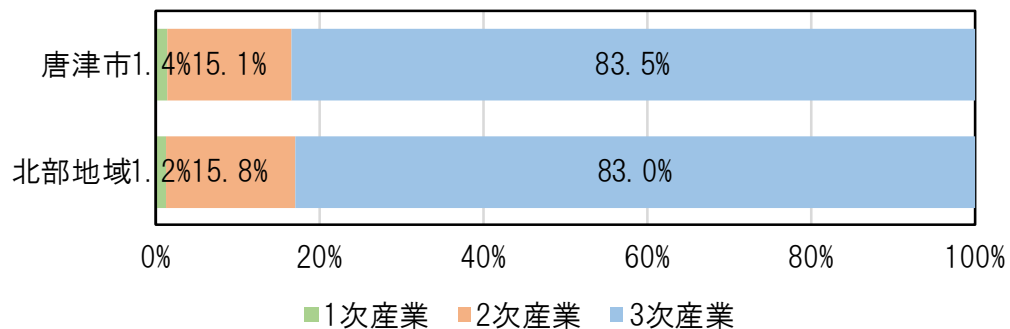
各市民センター周辺に人口が多く分布している。

令和12年も同様の分布がみられる

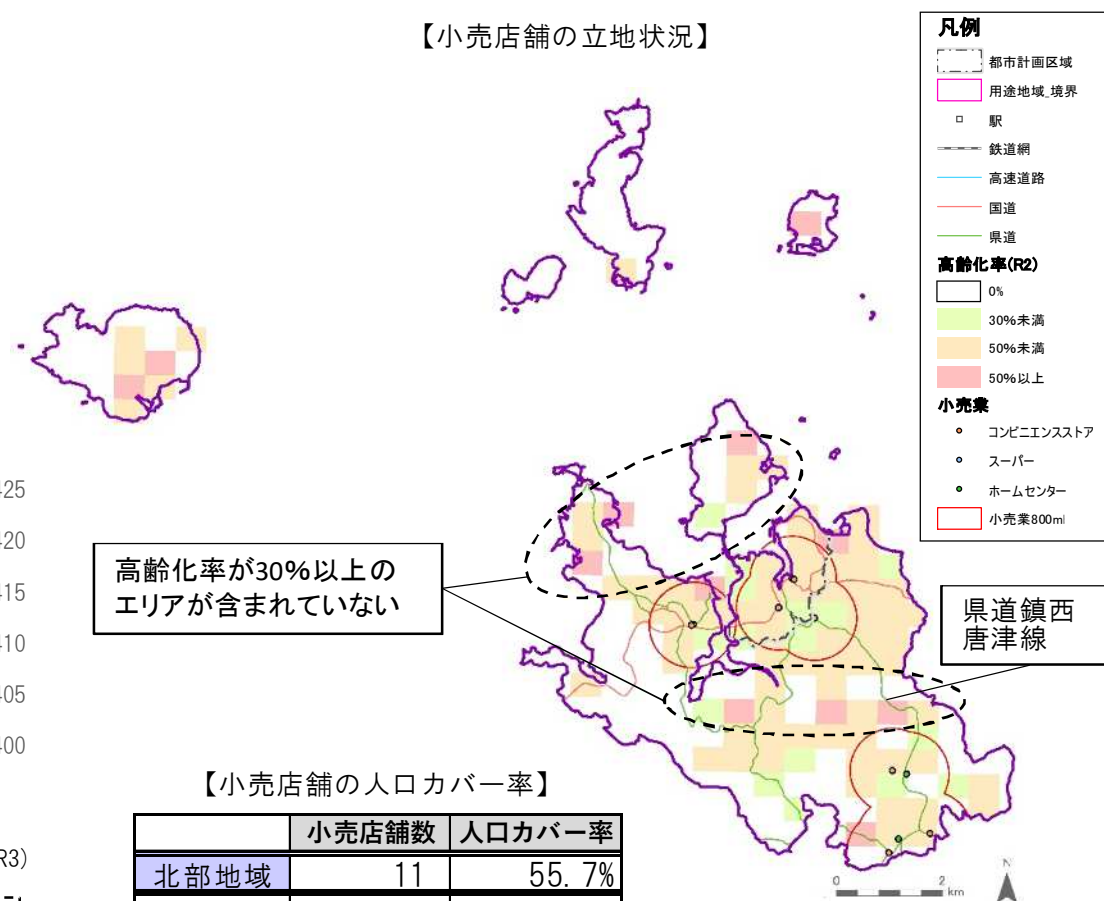
産業・商業

- 事務所の産業別割合をみると、市全体と概ね同じ割合となっている。
- 小売店舗は11店舗あり、人口カバー率は55.5%と市平均（73.5%）よりも低い。
- 都市計画区域内や県道鎮西唐津線などの沿道に小売店舗が立地していることから、**山間部などの高齢化率が高いエリアがカバー圏域に含まれず、日常の買い物が不便なエリアとなっている。**

【事業所の産業別割合】



【小売店舗の立地状況】



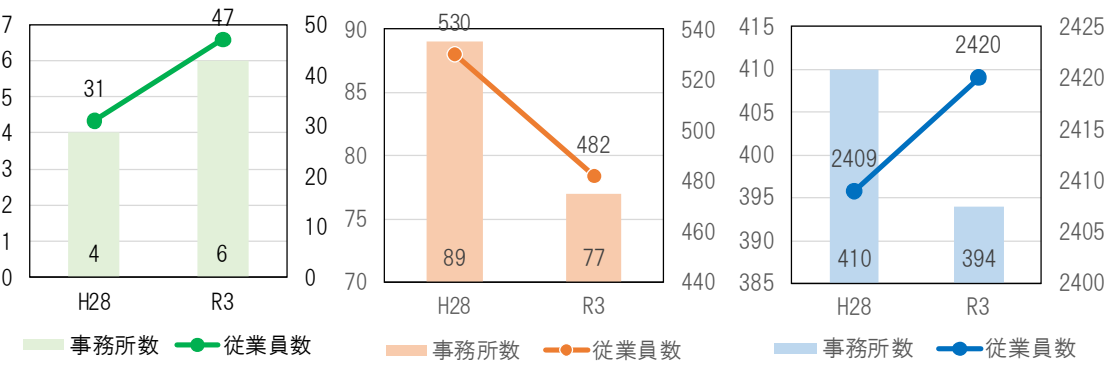
高齢化率が30%以上のエリアが含まれていない

県道鎮西唐津線

【小売店舗の人口カバー率】

	小売店舗数	人口カバー率
北部地域	11	55.7%
唐津市	92	73.5%

出典：基礎調査データ（H29年度）



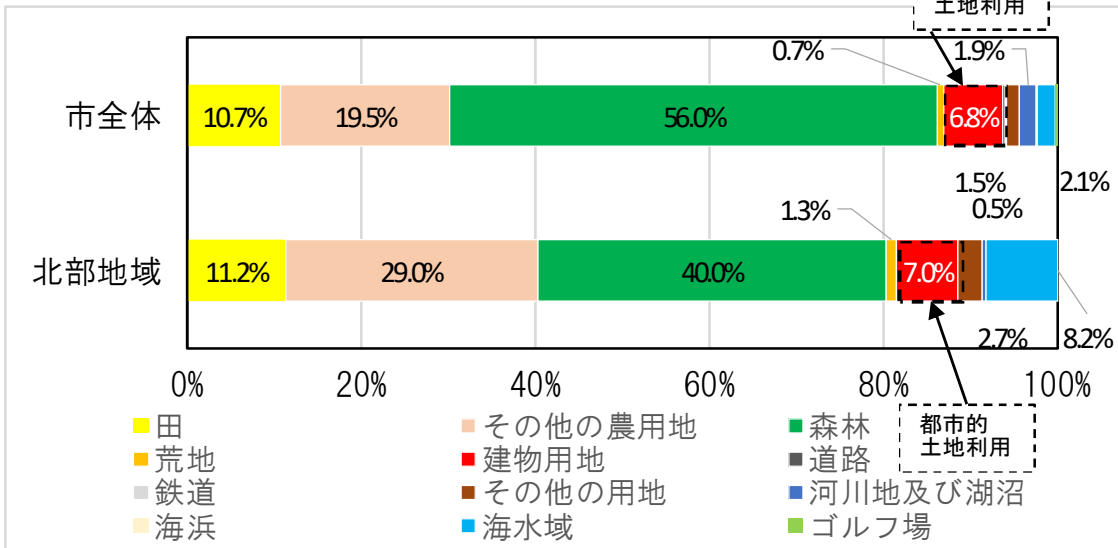
出典：経済センサス (H28・R3)

H28と比較すると、第2次産業、第3次産業ともに事業所数は減少している。また、従業員数をみると、第2次産業が減少している。

土地利用動向

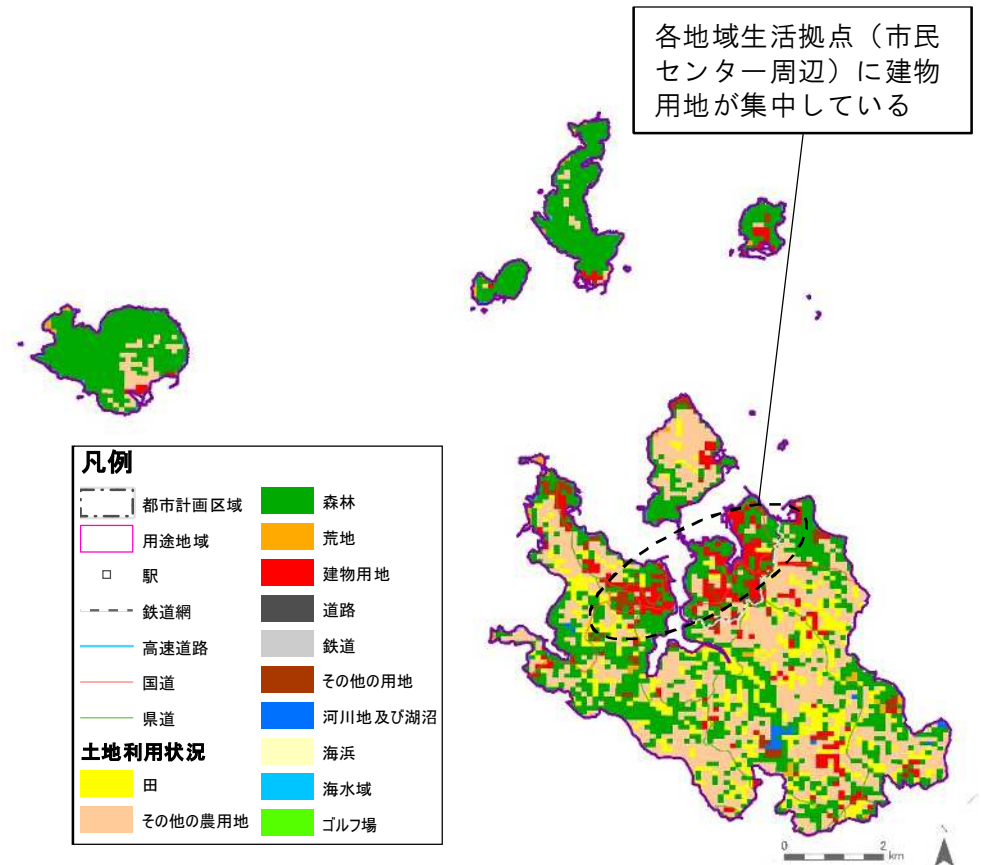
- ▶ 北部地域の土地利用をみると、建物用地の割合が7.0%となっており、都市的土地利用の占める割合をみると、市全体と比較してわずかに高い。
- ▶ 各地域生活拠点（市民センター周辺）に建物用地が集中しており、コンパクトな都市構造となっている。
- ▶ また、農地が占める割合が40.2%と、市平均（30.2%）と比較して高い。

【市全体と地域全体の土地利用状況】



出典：国土数値情報データ

【地域全体の土地利用状況】



出典：国土数値情報データ

【都市計画区域内における土地利用状況】

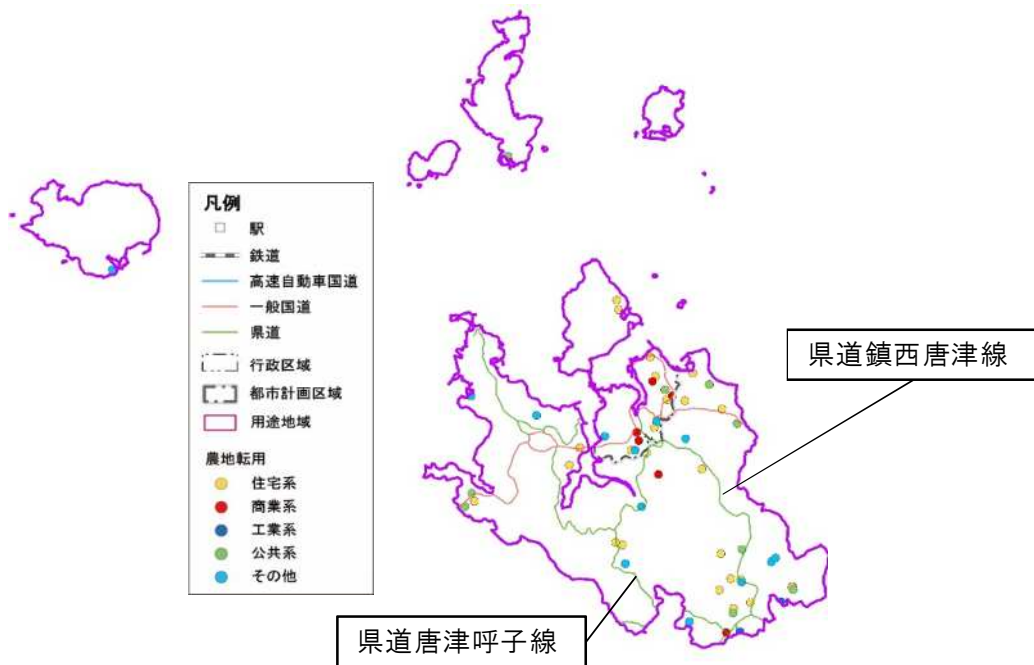
北部地域	平成18年	平成29年		平成18年	平成29年
農地	22.1%	22.0%	農林漁業施設用地	0.0%	0.4%
山林	24.4%	23.9%	公益施設用地	5.7%	6.1%
水面	0.7%	0.7%	道路用地	8.1%	8.5%
その他の自然地	11.2%	11.1%	交通施設用地	0.1%	0.2%
住宅用地	20.6%	19.7%	公共空地	1.3%	1.2%
商業用地	1.8%	2.1%	その他の自然地公的施設用地	0.0%	0.0%
工業用地	1.6%	1.7%	その他の空地	2.5%	2.5%

出典：都市計画基礎調査(H29)

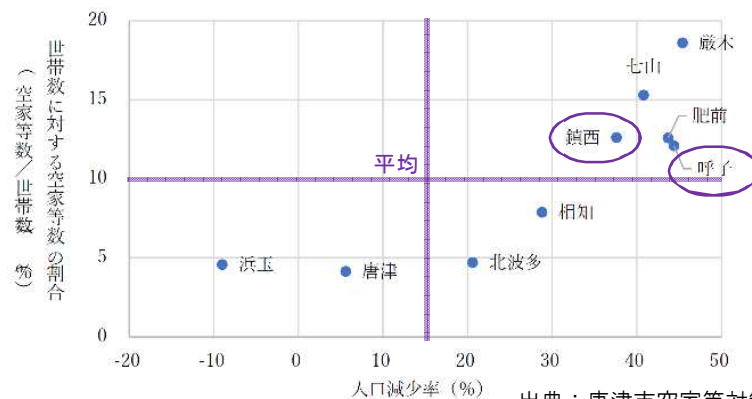
開発状況・空き家の状況

- 農地転用の状況を見ると、主に住居系への転用が多い。
- 空き家件数は486件と市全体の15.7%を占めている。世帯数に対する空き家等の割合が鎮西・呼子ともに10%を超え、他地域と比較して高い。
- 空き家等の不良度ランクでは、C・Dランクの空き家は26.6%と、市平均（21.0%）より上回っている。

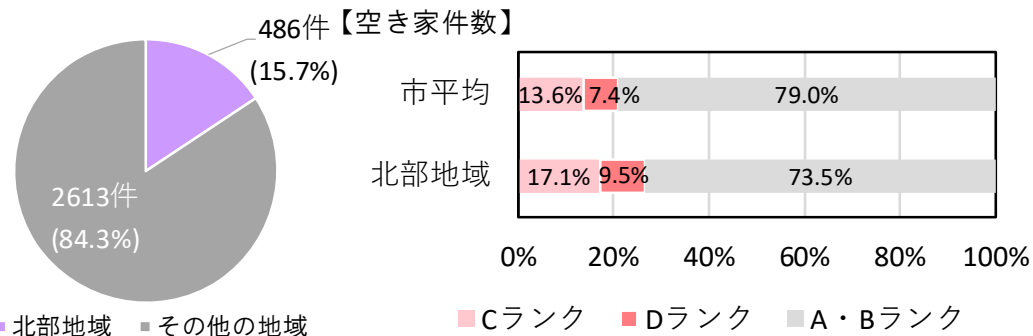
【農地転用の状況】



【人口減少率と世帯に対する空き家等の数の割合】



出典：唐津市空家等対策計画 (R4. 3月)



【開発許可・新築・農地転用状況】

		住居系	商業系	工業系	公共系	その他	計
開発許可	件数	1	0	0	0	0	1
	面積 (ha)	1.54	0.00	0.00	0.00	0.00	1.54
農地転用	件数	26	6	2	9	13	56
	面積 (ha)	1.08	0.80	0.28	1.86	1.23	5.25
新築建物	件数	72	9	1	3	2	87
	面積 (ha)	1.0172	0.1393	0.0045	0.0552	0.0174	1.2335

出典：都市計画基礎調査 (H29)

出典：唐津市空家等対策計画 (R4. 3月)

公共公益施設・都市公園

- 公共公益施設をみると、行政施設が2箇所、学校が10箇所、文化・交流施設が2箇所立地している。
- 子育て支援施設（6箇所）の0～4歳の人口カバー率が45.1%と市平均より高く、人口分布状況から、適切に配置されている。一方、病院・診療所（10箇所）の高齢者カバー率が38.2%と市平均より低い。
- 都市公園が2箇所あるほか、子供の遊び場や児童遊園などが20箇所整備されている。公園・緑地整備に関するニーズでは、**豊かな自然・史跡などの地域の特性を活かした公園整備が求められている。**

【公共公益施設・都市公園の立地数】

行政施設	学校		子育て支援施設				文化・交流施設	病院・診療所	都市公園	
	小学校	中学校	保育園	幼稚園	子育て支援施設					
2	10	6	4	6	5	1	0	2	10	2

【カバー圏域】

	子育て支援施設(800m圏内) 0～4歳の人口カバー率	病院・診療所(500m圏内) 高齢者カバー率	公園(住区基幹公園) 公園圏域内の人口カバー率
北部地域	45.1%	38.2%	16.5%
唐津市	67.7%	45.0%	14.9%

児童数の増減

H29	509人
R05	362人
H29-R05の増減率	0.71

平成29年～令和5年にかけて、減少している。

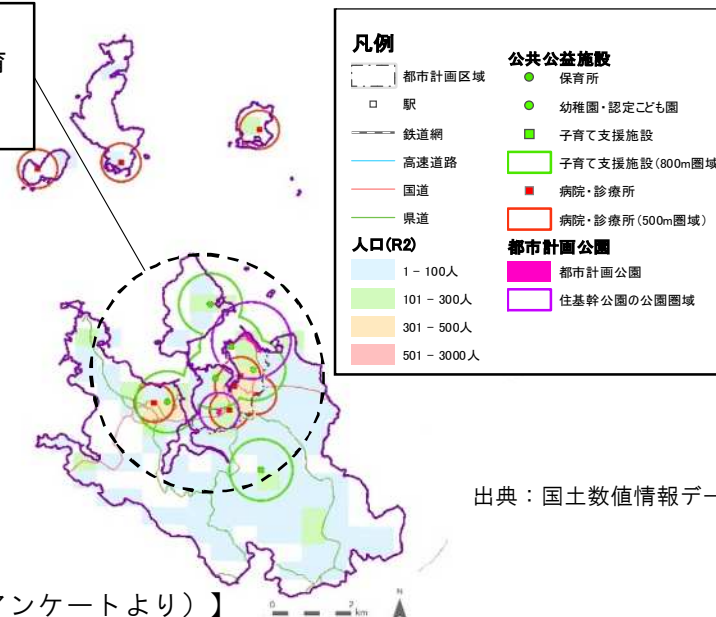
【公共公益施設・都市公園の分布図】



各地域生活拠点を中心に公共公益施設が立地している

出典：国土数値情報データ

各地域生活拠点周辺の人口が集中しているエリアが、子育て支援施設や病院・診療所の圏域内に含まれている



出典：国土数値情報データ

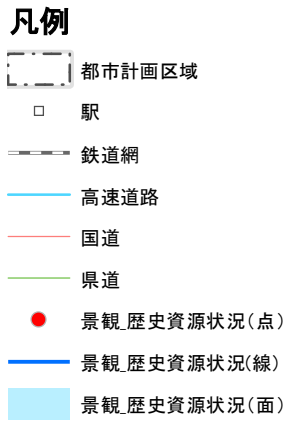
【公園ニーズ（アンケートより）】

公園・緑地整備に対するニーズでは、「**豊かな自然・史跡などの地域特性を活かした公園の整備(46.3%/市平均:39.2)**」が最も高かった。

観光・地域資源

- 名護屋城跡や呼子の朝市、鯨組主中尾家屋敷など、歴史や文化、食を活かした観光・地域資源が、沿岸部を中心に分布している。

【観光・地域資源の分布図】



出典：都市計画基礎調査(H29)・唐津観光協会HP

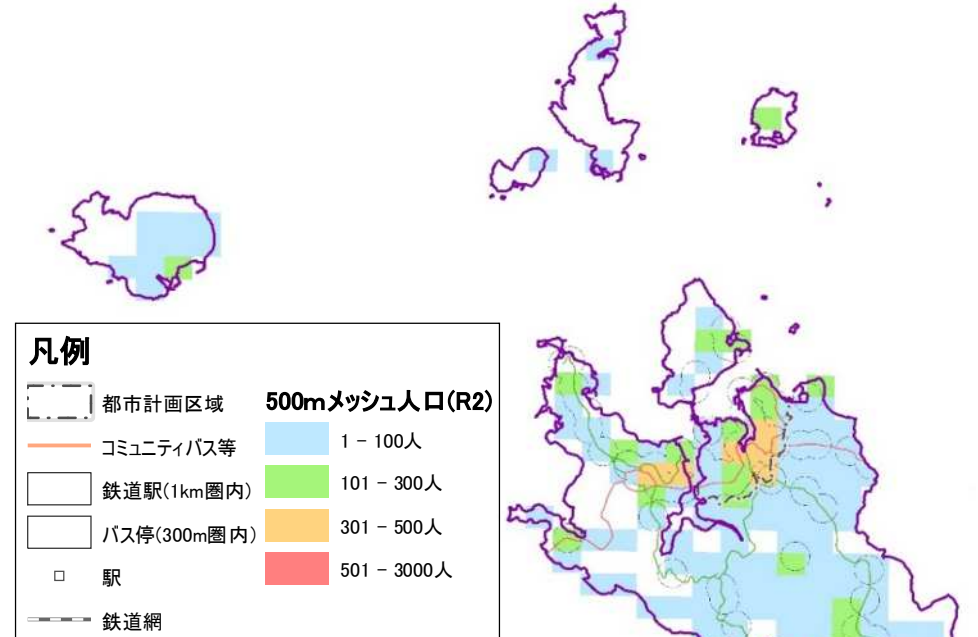
交通状況

- 公共交通はバス路線が運行しており、**カバー人口率が61.0%と市平均より低い**。また、地域内の4島の離島については、離島航路が維持されている。

【鉄道およびバスによるカバー人口率】

	カバー人口	カバー人口率	カバー人口率(バス)	カバー人口率(鉄道)
北部	5,018	61.0%	61.0%	0.0%
唐津市	84,798	73.0%	65.7%	44.9%

【鉄道およびバスによるカバー圏域】



出典：唐津地域公共交通計画(R4.3)

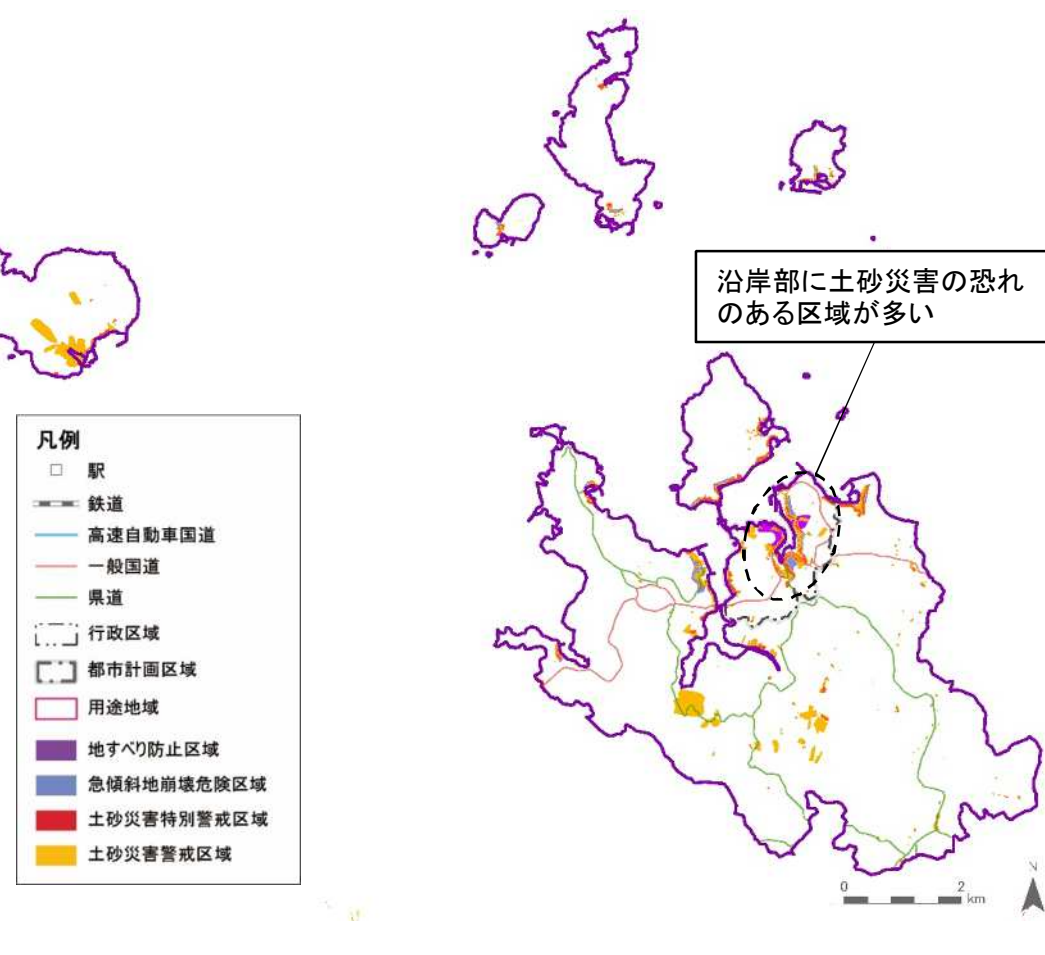
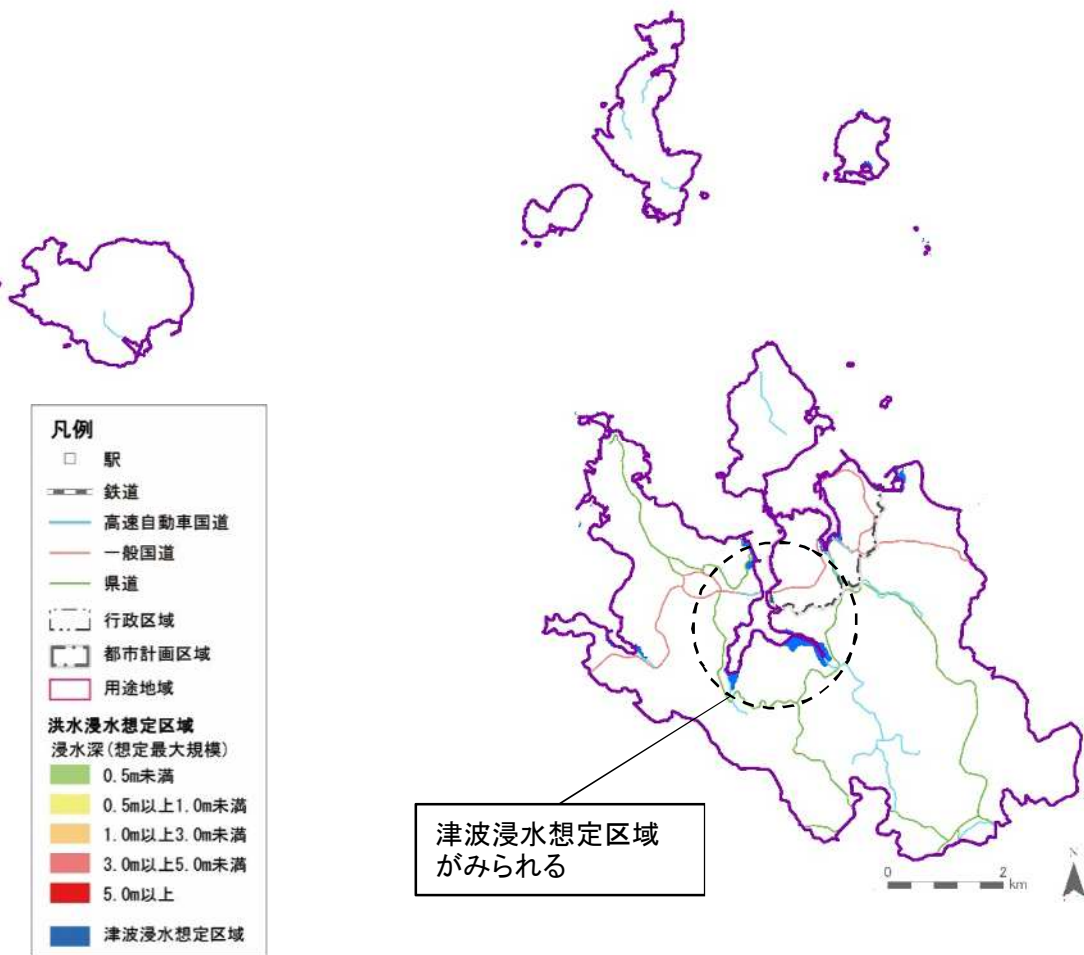
アンケートでは、乗り合いタクシーなどの地域の实情に応じた交通手段の確保・強化(34.3%/市平均:29.7%)や市街地・集落内における狭い道路の改善(20.9%/市平均:22.3%)が求められている。

都市防災

- 沿岸部に位置するエリアであることから、津波浸水想定区域が一部みられる。
- 土砂災害特別警戒区域や急傾斜地崩壊危険区域、地すべり防止区域など、土砂災害の恐れのある区域が、沿岸部に多い。

【浸水想定区域の指定状況】

【土砂災害警戒区域等の指定状況】

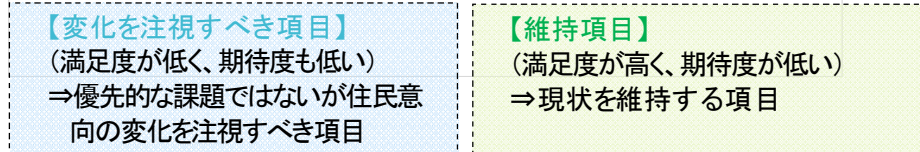
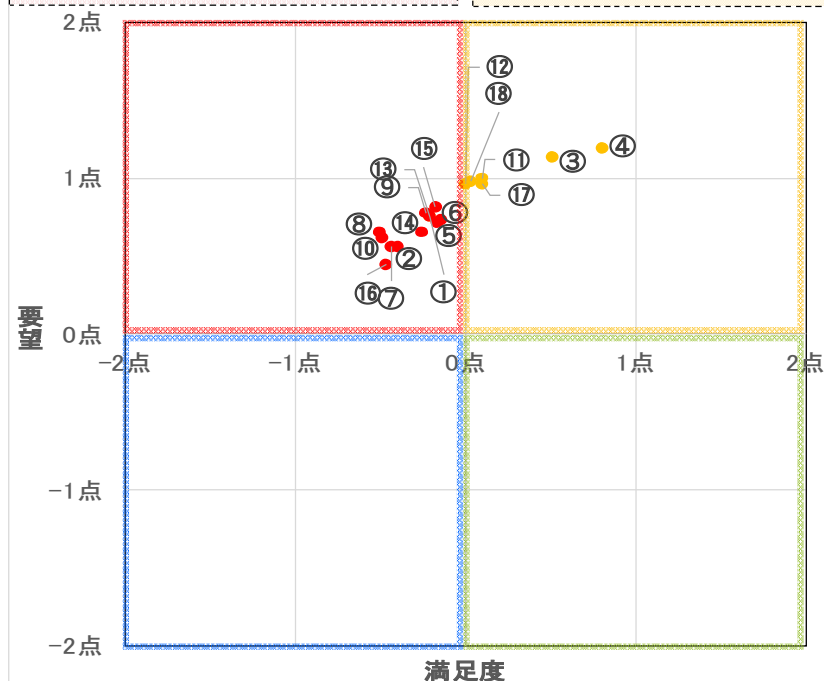


(5) 北部地域 ～住民ニーズの方向性～

住環境への満足度・要望

▶ 住環境にかかる項目（18項目）のうち、12項目が「重点的な改善が必要な項目」となった。特に「⑧鉄道・バスなどの公共交通の利便性」「⑨駅や公共公益施設のバリアフリー」「⑩子供の遊び場や公園の充実度」「⑬暮らしを支える公共公益施設の充実度」については重点的な改善が求められている。

【住環境の現況への満足度・要望度】

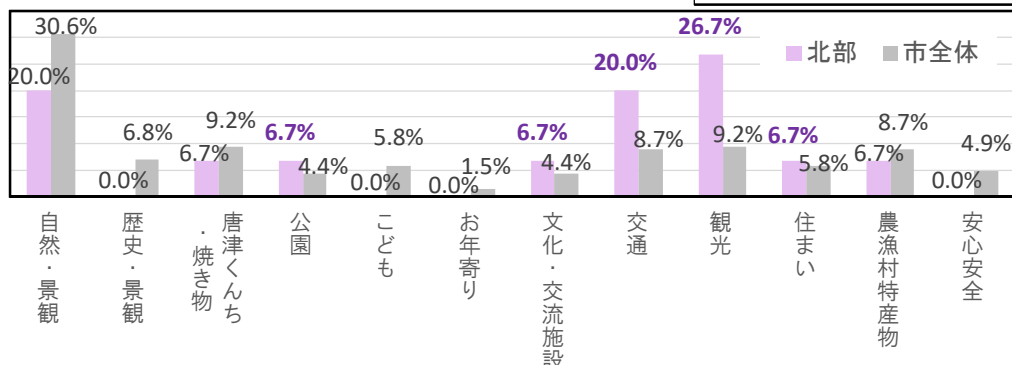


- ① 日常の買い物の利便性について
- ② 働く場、就業機会の充実について
- ③ 住宅地としての静けさ、雰囲気について
- ④ 自然・緑の豊かさ、美しさについて
- ⑤ 国道・県道などの地域間を結ぶ道路の走りやすさについて
- ⑥ 市街地・集落内の道路の走りやすさについて
- ⑦ 歩道の有無やバリアフリーなど、歩行環境の充実度について
- ⑧ 鉄道・バスなどの公共交通の利便性について
- ⑨ 暮らしを支える駅や公共施設のバリアフリーについて
- ⑩ 子どもの遊び場や公園の充実度について
- ⑪ 生活排水対策について（公共下水道・浄化槽等）
- ⑫ 河川・海岸の安全性や親しみやすさについて
- ⑬ コミュニティ施設、文化施設、官公庁施設など暮らしを支える公共施設の充実度について
- ⑭ 地震・津波や豪雨などの自然災害に対する安全性について
- ⑮ 火災・延焼などの社会災害に対する安全性について
- ⑯ 街路灯の数・夜道の安全性について
- ⑰ 騒音や悪臭などの公害の無さについて
- ⑱ 総合的な暮らしやすさについて

重点的に活用すべき資源

- 重点的に活用すべき資源として、地域の観光資源や自然、海といった「観光」「自然・景観」や、離島航路などの「交通」に関する回答が多かった。
- 空き家活用や農漁村環境に関する回答もあった。

紫色字：市平均より高い割合

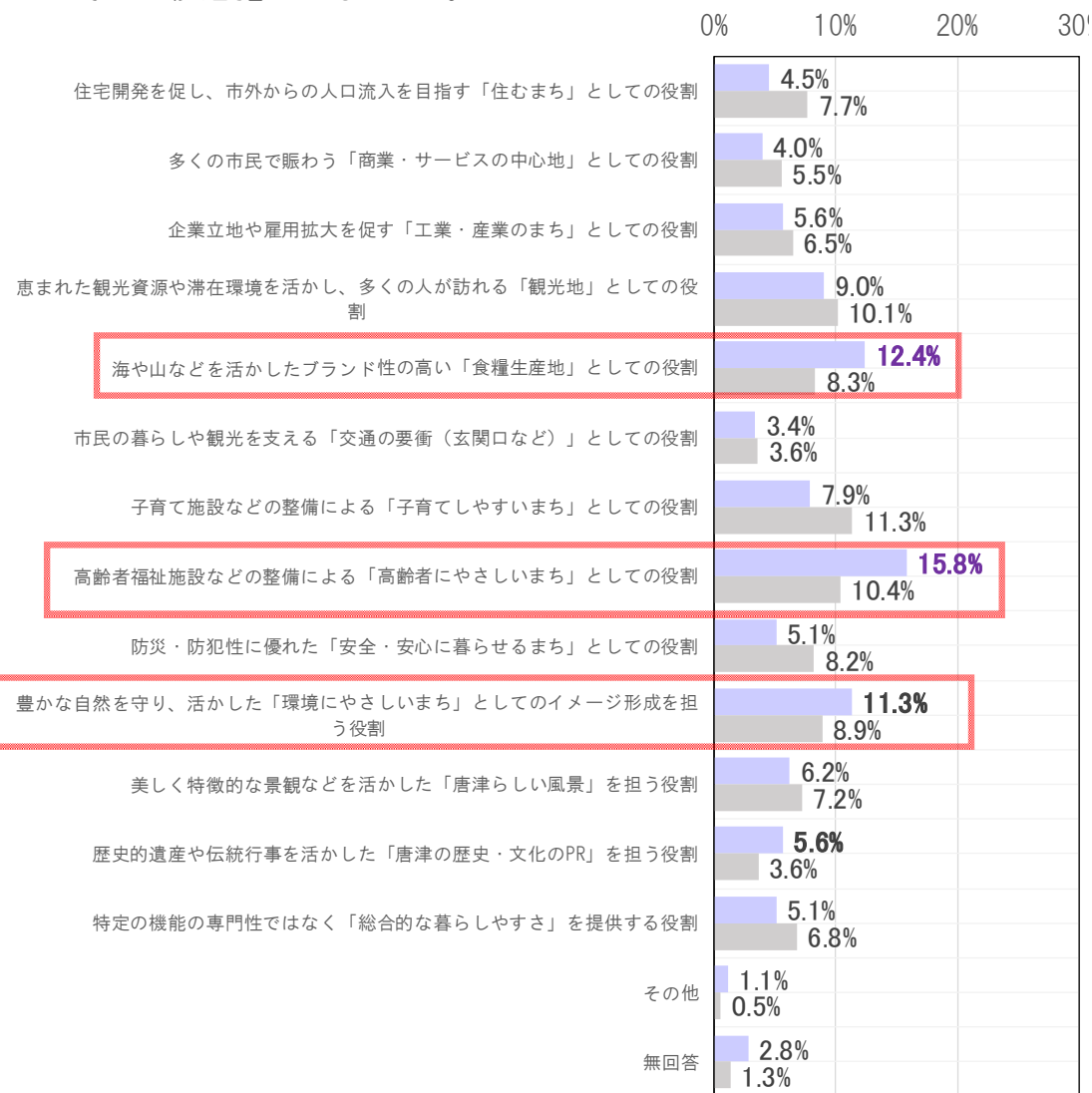


キーワード	内容（抜粋）
自然・景観	○地域の自然 ○きれいな海
歴史	—
伝統	○呼子大綱引きなどの伝統行事
公園	○公園
こども	—
お年寄り	—
文化・交流	○薪能などの文化
交通	○各年代が利用しやすい公共交通機関 ○コミュニティバス ○離島航路
観光	○歴史や食を活かした観光資源
住まい	○時代とともに空き家がみられる
農業・漁業	○農漁村の環境
安心・安全	—
その他	○地域連携

地域の役割

紫色字：市平均より高い割合

- 北部地域で求められる役割は、「高齢者にやさしいまちとしての役割」が最も高く、次いで「食糧生産地としての役割」「環境にやさしいまちとしてのイメージ形成を担う役割」となった。



(5) 北部地域 ～現行計画の進捗状況～

現行計画の進捗状況

●完了 ●実施中

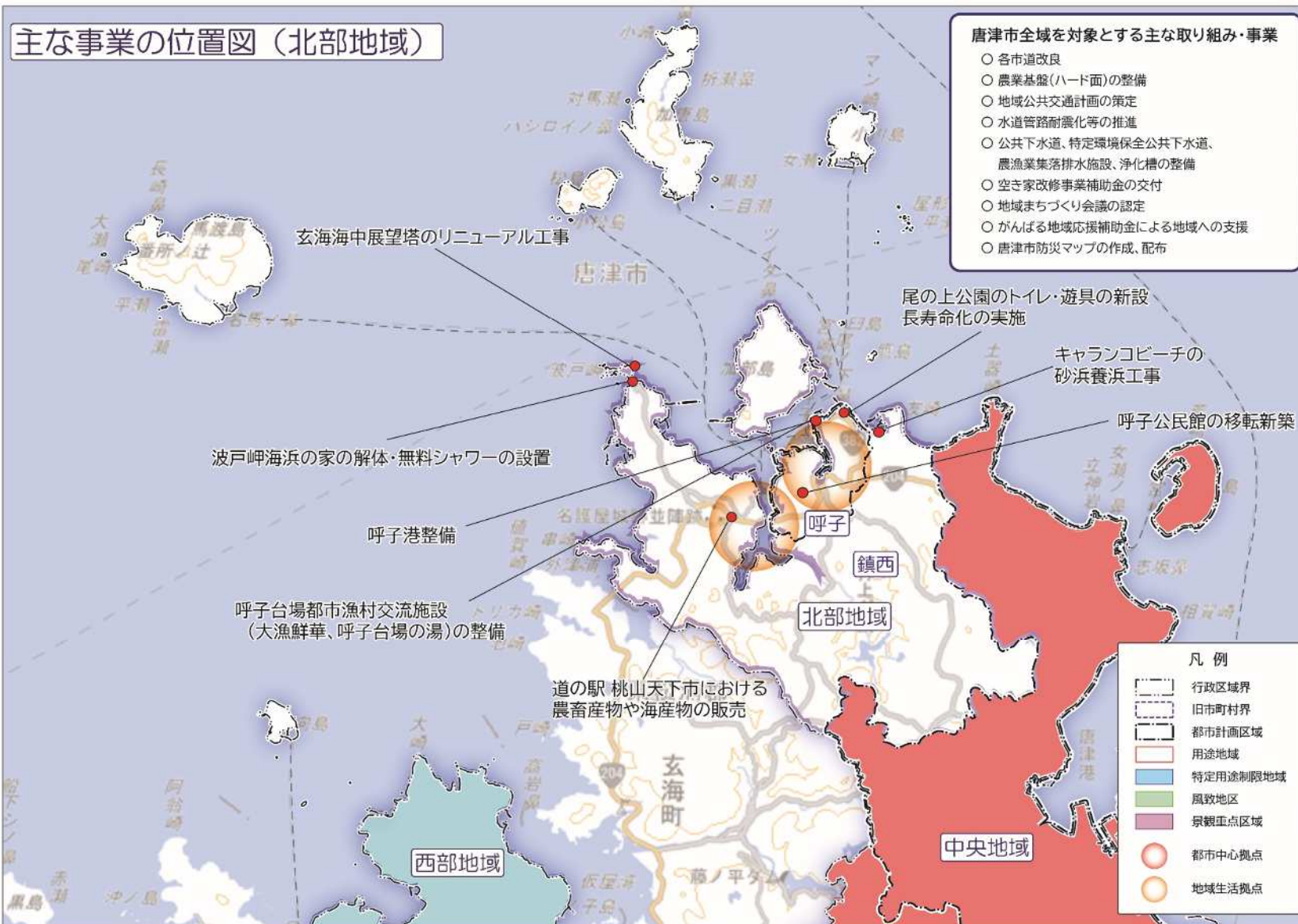
➤ 現行の都市計画マスタープランの策定以降、地域別構想に示された「重点方針」や「土地利用、都市施設等の方針」に基づき、関係各課では以下の取り組みを実施しています。

※一部市の事業でないものも含む

現行計画の既往項目		具体的な取組内容（抜粋）
重点方針	①自然公園法・景観計画等の活用による玄海国定公園に指定された美しい自然環境・景観の保全・活用	<ul style="list-style-type: none"> ●波戸岬海浜の家の解体及び無料シャワールの設置 ●キャランビーチの砂浜養浜工事 ●波戸岬海水浴場及び周辺公園の整備事業実施 ●玄海海中展望塔のリニューアル工事（R6. 4. 1オープン予定） ●呼子町並み保存対策調査の実施
	②呼子のイカ、佐賀牛などの食と、「名護屋城跡並びに陣跡」などの歴史・文化の連携により、観光・交流拠点としてのさらなる強化	<ul style="list-style-type: none"> ●呼子台場都市漁村交流施設（特産品等展示販売館「大漁鮮華」および交流館「台場の湯」）の整備 ●「大漁鮮華」や「道の駅桃山天下市」における上場台地の農畜産物や沿岸部の海産物の販売 ●観光ボランティアガイド「さるき案内人」の活動 ●名護屋城歴史ツーリズム協議会の発足
	③生活の中心となる地域生活拠点の維持・再生と、防災道路や離島航路の充実、生活排水対策など、安全・安心・快適な住環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ●簡易水道再編推進事業の実施 ●老朽化に伴う呼子公民館の移転新築 ●跡地の観光駐車場としての利用 ●唐津・呼子みなとまちづくり懇話会の開催 ●航路事業者への補助
土地利用、都市施設等の方針	土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ●自然公園法、風致地区、佐賀県屋外広告物条例の運用
	都市施設（道路・公園等）	<ul style="list-style-type: none"> ●尾の上公園のトイレや遊具を新設及び長寿命化の実施（平成29～30年度） ●防犯灯設置に対する補助 ●視覚障がい者誘導用ブロック設置及び段差解消の歩道整備
	市街地・集落地整備	<ul style="list-style-type: none"> ●公共建築物の耐震診断、補強計画の策定、耐震改修工事の実施 ●水道管路耐震化等推進事業の実施 ●唐津市情報化基盤光ケーブル推進事業による情報推進基盤の強化・充実
	景観・環境・その他	<ul style="list-style-type: none"> ●年1～2回の「波戸岬ビーチクリーンアップ」を通じた環境学習等の実施

主な事業の位置図

▶ 北部地域で実施されている主な事業の位置は下記のとおりである。



呼子台場都市漁村交流施設の整備

水産物をはじめとする特産品の展示販売施設(大漁鮮華)と、交流館(台場の湯)を併設した施設整備により、都市と漁村の交流拡大に寄与している。



出典：大漁鮮華公式HP

道の駅 桃山天下市における農畜産物や海産物の販売

名護屋城址や波戸岬、玄海中展望塔などへの玄関口に位置し、地域でとれた新鮮な農産物や海産物等を豊富に揃えるなど、観光交流や地域振興に寄与している。



※一部市の事業でないものも含む。また、一部都市計画マスタープランの計画期間外の取り組み・事業を含む。

(1) 中央地域

A 現行の都市マス策定当時(平成22年)の課題

■ 中心市街地の再生に寄与する地域づくりが必要

- 再開発事業の促進やまちなか居住の推進、観光・交流資源の活用等による中心市街地の再生
- 市民協働のまちづくり活動団体への継続的な支援・育成による求心力向上

■ 中心部と唐津港との連携強化と、海(水辺)を身近に感じられる空間づくりが必要

- 産業拠点および観光・交流拠点としての唐津港の機能強化
- 暮らしの中で海(水辺)を身近に感じ利用できる空間づくりの促進

■ 広域交通網の早期整備と各拠点の魅力向上により、観光・産業の振興を図る地域づくりが必要

- 西九州自動車道および佐賀唐津道路の2つの高速交通体系の早期整備の促進
- 複数のICを介した各拠点の魅力向上および連携強化による観光客等の流入促進

■ 地域固有の良好な自然環境や景観と調和した土地利用が必要

- 美しい自然環境や地域固有の景観の保全・活用
- 都市計画制度等の活用や市民協働の取り組みによる調和のとれた土地利用の促進

■ 生活を支える地域生活拠点の維持・再生と、歩行空間や公共交通の充実、浸水対策など安全・快適な生活空間づくりが必要

- 住み慣れた地域で永続的に生活していくための環境づくり(暮らしの安全の確保、生活の質の向上)
- 各地域生活拠点(浜玉・北波多)の特性を踏まえた地域再生

B 課題の再検討(「地域の現状」、「住民ニーズの方向性」、「現行計画の進捗状況」の分析・考察)

<中心市街地の空洞化>

- 人口減少・高齢化の進行等により、**空き家・空き店舗等が増加**し、賑わいが失われている。
- 郊外型大型店舗の立地により、**中心市街地の空洞化が進み、居住環境の悪化や災害リスクの拡大が懸念**されている。
- 近年は大手口センタービル(市民交流プラザほか)や複合商業施設KARAEの開業などにより、中心市街地における賑わいの創出につながっている。

<土地利用の変化>

- 西九州自動車道のIC周辺および国道202号沿道における開発の進行により、**特に用途地域外縁部において、土地利用に大きな変化が生じている。**
- 市街地周辺部では、虫食いの農地の宅地開発による非効率な市街化が進行している。

<広域交通網の整備促進>

- 西九州自動車道および佐賀唐津道路の一部区間は開通しているが、地域間交流の拡大や産業振興を図るべく、引き続き整備を促進していく必要がある。

<日常生活を支える公共交通の整備が不十分>

- 地域住民の足となる**公共交通の利便性に関する満足度が低い。**

<都市施設の老朽化・市民のニーズの不一致>

- 駅や公共施設のバリアフリー対策が十分でない。
- 子育て世帯が増えている一部地域などでは、**子供の遊び場や公園が十分に確保できていない。**

<地域の生活を支える地域生活拠点の活力低下>

- **子育て世帯や高齢者にやさしいまちとしての役割が求められている。**
- 働く場の確保や移住者の増加に向けた取り組みが求められている。

<自然環境や歴史・文化遺産の保全と活用>

- 市民生活の中において海(水辺)を身近に感じる事が少ない。
- 観光・交流資源などの更新や老朽化に伴う撤去等により、**一部で不調和な町並みが見られる。**
- 地域の魅力である自然・景観・伝統の活用が求められている。

<災害リスクの高まり>

- 松浦川沿川などの浸水想定区域や、地域内に土砂災害警戒区域等が点在しており、**近年頻発する集中豪雨等による災害発生の危険性が高い。**

C 次期都市計画マスタープランで整理すべき課題（上記Bの内容を踏まえて再設定した現在の課題）

課題1 都市中心拠点（中心市街地）における求心力の向上

- ① 都市機能および居住の誘導による都市中心拠点の機能強化
- ② 中心市街地の再生による賑わいの創出（空き店舗などの低未利用地の解消、空き家の有効活用によるまちなか居住の推進および居住環境の悪化防止 など）
- ③ 民間のまちづくり活動・団体等への継続的な支援・育成や、公民連携の取組促進

課題2 観光・交流拠点および産業拠点の機能強化

- ① 佐賀唐津道路等の地域間交流を促進する交通網の整備促進による産業振興、観光交流の拡大
- ② 複数のICを介した地域内の各拠点の魅力向上と連携強化による観光客等の流入促進
- ③ 歴史・文化的価値のある観光・交流資源の連携・活用
- ④ 産業拠点および観光客船の寄港誘致等による観光・交流拠点としての唐津港の機能強化

課題3 地域固有の自然環境や景観と調和した土地利用

- ① 美しい自然環境や地域固有の景観の保全・活用
- ② 都市計画制度等の活用や市民協働の取り組みによる調和のとれた土地利用の推進（市街地外縁部の土地利用のコントロール など）
- ③ 暮らしの中で海（水辺）を身近に感じ、利用できる空間づくり

課題4 誰もが快適で安心・安全に暮らし続けることができる環境づくり

- ① 地域生活拠点における生活利便機能の維持・集約
- ② 地域の実情に応じた公共交通手段の確保（公共交通の利便性向上・利用促進、安全な歩行空間の確保 など）
- ③ 離島における生活利便性の確保と離島航路の維持
- ④ 高齢者や子育て世代のニーズに応じた暮らしやすい環境づくり（公共施設のバリアフリー化、通学路の安全性確保、子どもの遊び場や公園の適正配置 など）
- ⑤ 災害リスクに応じたハード・ソフト両面からの防災・減災対策

<次回の策定委員会（第6回）で提示予定>

■まちづくりの目標

■まちづくりの重点方針

- ▶ 中央地域におけるまちづくりの目標を設定し、左記で整理した課題に取り組んでいくための具体的な方法（重点方針）をとりまとめる。

地域別ワークショップの結果を反映予定 ※全5地域の各会場をオンラインでつなぎ、50人規模（公募）で実施（全2回）

第1回（11/1開催） テーマ：地域の魅力（特色・資源）や、地域が抱える課題（改善点）は何ですか

第2回（11/22開催） テーマ：地域が抱える課題（改善点）の解決後は、どのような地域になっていますか

目指すべき地域の姿の実現に向け、どのような取り組みが必要ですか

(2) 東部地域

A 現行の都市マス策定当時(平成22年)の課題

■ 多面的機能を有する森林環境の保全やレクリエーション資源として活用できる環境づくりが必要

- 多面的機能を有する森林環境の保全
- 所有者だけでなく地域全体で森林を支えるという住民意識の醸成
- トレッキングや森林浴など、レクリエーション資源としても活用できる環境づくり

■ 「山里」の資源を活かした都市・農山村交流のさらなる発展に向けた取り組みが必要

- 都市・農山村交流の維持・発展のための年間を通じた来訪者獲得の取組促進
- 「ななやまブランド」を活用した都市・農山村交流の継続に向けた農林業従事者の高齢化・後継者不足の対策検討

■ 南部地域方面等との観光・交流軸となる道路網の強化や、回遊性向上を促す案内標示の充実が必要

- 観光・交流軸となる国県市道の改良によるアクセシビリティの向上(都市・農山村交流の促進による地域活力の向上)
- 案内標示の充実やデザイン統一等による他地域への回遊性を向上させるような仕掛けづくり

■ 生活の中心となる地域生活拠点の維持・再生と、防災対策や道路網、公共交通充実など、安全・安心・快適な生活空間整備が必要

- 地域生活拠点における商業機能などの地域住民の日常サービスに対応できる機能の維持・再生(買い物、公共交通、自然災害への対応など)
- 基幹産業である農林業環境の整備による雇用の場の維持
- 高齢社会を見据え、地域全体で暮らしているという安心感のある地域コミュニティづくり

B 課題の再検討(「地域の現状」、「住民ニーズの方向性」、「現行計画の進捗状況」の分析・考察)

<地域の生活を支える地域生活拠点の活力低下>

- 地域内に小売店舗が少なく、また、高齢化率の高いエリアをカバーできていないため、日常の買い物の利便性に関する満足度が低い。
- 人口減少、高齢化等に伴う不良空き家の増加により、居住環境が悪化している。
- 子育て世帯や高齢者にやさしいまちとしての役割が求められている。

<豊かな自然環境の保全>

- 農林業従事者の高齢化や後継者不足等により、荒廃林や耕作放棄地の増加など、環境の悪化が懸念されている。
- 美しい自然、緑の豊かさに関しては、満足度、期待度ともに高く、引き続き維持・充実が求められる。
- 食糧生産地や環境に優しいまちとしてのイメージ形成を担う役割が求められている。

<地域の移動や生活を支える公共交通の改善>

- 地域住民の足となる公共交通に関する満足度は低いが、予約型乗合タクシーの運行開始等により、対策が進められている。

<公共施設などの老朽化・市民のニーズに合わない施設などの増加>

- 公共施設のバリアフリー対策が十分でない。
- 身近で日常的に利用できる小さな公園・広場の整備や、河川沿いなどのゆっくり歩ける散策道の整備に関するニーズが高い。

<災害リスクの高まり>

- 地域内に土砂災害の恐れのある区域が多数点在しており、近年頻発する集中豪雨等による災害発生の危険性が高い。

C 次期都市計画マスタープランで整理すべき課題（上記Bの内容を踏まえて再設定した現在の課題）

課題1 継続的な都市・農山村交流による地域振興

- ① 七山の豊かな自然や、その中で育まれた農産物、これらを体験できる観光・交流資源を活用した都市・農山村交流の継続による地域振興

課題2 多面的機能を有する自然環境の保全・活用

- ① 農林業従事者の高齢化や後継者不足への対策
- ② 所有者だけでなく地域全体で森林を支えるという住民意識の醸成
- ③ レクリエーション資源としての森林の積極的な活用
- ④ 持続的な生産確保に向けた農地の保全と、耕作放棄地の未然防止および再生

課題3 道路網の整備等による観光・交流軸の強化と回遊性の向上

- ① 福岡都市圏、佐賀都市圏および南部地域方面からの観光・交流軸となる国県市道の改良によるアクセス性の向上（都市・農山村交流による地域活力の向上）
- ② 周辺観光資源の紹介などの案内標示の充実やデザインの統一、屋外広告物規制などによる他地域への回遊性を向上させるような仕掛けづくり

課題4 誰もが快適で安心・安全に暮らし続けることができる環境づくり

- ① 地域生活拠点における生活利便機能の維持・集約
- ② 地域の実情に応じた公共交通手段の確保（公共交通の利便性向上・利用促進、安全な歩行空間の確保 など）
- ③ 高齢者や子育て世代のニーズに応じた暮らしやすい環境づくり（公共施設のバリアフリー化、通学路の安全性確保 など）
- ④ 災害リスクに応じたハード・ソフト両面からの防災・減災対策

<次回の策定委員会（第6回）で提示予定>

■まちづくりの目標

■まちづくりの重点方針

- ▶ 東部地域におけるまちづくりの目標を設定し、左記で整理した課題に取り組んでいくための具体的な方法（重点方針）をとりまとめる。

地域別ワークショップの結果を反映予定 ※全5地域の各会場をオンラインでつなぎ、50人規模（公募）で実施（全2回）

第1回（11/1開催） テーマ：地域の魅力（特色・資源）や、地域が抱える課題（改善点）は何ですか

第2回（11/22開催） テーマ：地域が抱える課題（改善点）の解決後は、どのような地域になっていますか

目指すべき地域の姿の実現に向け、どのような取り組みが必要ですか

(3) 南部地域

A 現行の都市マス策定当時(平成22年)の課題

- **水源かん養など多様な機能を持つ森林環境の保全・活用が必要**
 - 水源かん養や土砂災害防止のほか、紅葉を楽しむ癒しの場やグリーンツーリズムの場としても期待される森林の保全・活用
 - 所有者だけでなく地域住民も参加した森林再生の取組促進(森林が有する多面的機能の維持)

- **都市骨格周辺をはじめ景観に配慮した空間づくりが必要**
 - 松浦川、厳木川沿川における良好な景観形成に配慮した公共施設整備
 - 市民協働による景観づくりの継続的な取り組みと、他地域への展開

- **広域交通網の早期整備および連携した産業拠点づくりが必要**
 - 厳木工業団地の整備に伴う企業誘致の推進
 - 高速交通体系の早期整備促進による新たな産業拠点づくり(新規就業者の居住環境の確保など)

- **観光・交流資源の連携・活用による地域振興を促す取り組みが必要**
 - 地域内の観光・交流資源の周遊および他地域への観光周遊の促進による地域活力の向上
 - 観光・交流資源としての「蕨野の棚田」を活用した都市・農山村交流および市民協働による地域(景観)づくりの継続

- **生活の中心となる地域生活拠点の維持・再生と、生活排水対策、浸水対策、公共交通充実など、安全・安心・快適な生活空間整備が必要**
 - 住み慣れた地域で永続的に暮らしていける快適な環境づくり(生活排水対策、浸水対策、公共交通対策など)
 - 各地域生活拠点(厳木・相知)の特性を踏まえた地域再生(安全な歩行空間づくり、既存商店の維持・再生、利用しやすいバス路線の検討など)

B 課題の再検討(「地域の現状」、「住民ニーズの方向性」、「現行計画の進捗状況」の分析・考察)

<アクセス性に優れた立地条件を有する工業団地の活用が不十分>

- 新産業集積エリアとして整備された厳木工業団地について、佐賀・長崎方面や福岡都市圏へのアクセス性に優れた立地条件を有しているが、企業誘致が実現できていない。
- 工業・産業のまちとしての役割が求められている。
- 佐賀唐津道路の早期整備が求められている。

<地域の移動や生活を支える公共交通の改善>

- 地域住民の足となる公共交通に関する満足度は低いが、デマンドタクシーの運行等により、対策が進められている。

<地域の生活を支える地域生活拠点の活力低下>

- 高齢化率が高く、限界集落に近い集落もみられる。
- 人口減少、高齢化等に伴う不良空き家の増加により、居住環境の悪化が懸念される。
- 子育て世帯や高齢者にやさしいまちとしての役割が求められている。

<自然環境や歴史・文化の保全と活用>

- 松浦川や厳木川沿川における環境・景観に配慮した公共空間づくりが求められている。
- 農林業従事者の高齢化や後継者不足による荒廃林や耕作放棄地の増加など、農林地の環境悪化が懸念されている。
- 地域の魅力である自然・景観・伝統の活用が求められている。
- 観光・交流資源や伝統芸能・文化を有しているが、来訪者の立ち寄りが少ない。

<災害リスクの高まり>

- 松浦川や厳木川沿川などの浸水想定区域や、地域内に土砂災害警戒区域等が点在しており、近年頻発する集中豪雨等による災害発生の危険性が高い。

C 次期都市計画マスタープランで整理すべき課題（上記Bの内容を踏まえて再設定した現在の課題）

課題1 多様な機能を有する森林環境や農地の保全・活用

- ① 水源かん養や土砂災害防止のほか、紅葉を楽しむ癒しの場やグリーンツーリズムの場としても期待される森林の保全・活用
- ② 所有者だけでなく地域全体で森林を支えるという住民意識の醸成
- ③ 持続的な生産確保に向けた農地の保全と、耕作放棄地の未然防止および再生

課題2 景観に配慮した空間づくりや観光・交流資源の連携・活用による地域振興

- ① 松浦川、厳木川沿川における良好な景観形成に配慮した公共施設等の整備
- ② 自然・景観や伝統芸能・文化などの資源の活用による地域振興
- ③ 地域内の観光・交流資源の周遊および他地域への観光周遊の促進による地域活力の向上
- ④ 観光・交流資源としての「**蕨野の棚田**」を活用した都市・農山村交流および市民協働による地域（景観）づくりの継続

課題3 アクセス性に優れた立地条件を活かした産業拠点の機能強化

- ① 佐賀唐津道路の早期整備促進による産業拠点の機能強化
- ② 新産業集積エリア唐津への企業誘致の推進と雇用機会の創出

課題4 誰もが快適で安心・安全に暮らし続けることができる環境づくり

- ① 地域生活拠点における生活利便機能の維持・集約
- ② 地域の実情に応じた公共交通手段の確保（公共交通の利便性向上・利用促進、安全な歩行空間の確保 など）
- ③ 高齢者や子育て世代のニーズに応じた暮らしやすい環境づくり（公共施設のバリアフリー化、通学路の安全性確保 など）
- ④ 災害リスクに応じたハード・ソフト両面からの防災・減災対策

<次回の策定委員会（第6回）で提示予定>

■まちづくりの目標

■まちづくりの重点方針

- ▶ 南部地域におけるまちづくりの目標を設定し、左記で整理した課題に取り組んでいくための具体的な方法（重点方針）をとりまとめる。

地域別ワークショップの結果を反映予定 ※全5地域の各会場をオンラインでつなぎ、50人規模（公募）で実施（全2回）

第1回（11/1開催） テーマ：地域の魅力（特色・資源）や、地域が抱える課題（改善点）は何ですか

第2回（11/22開催） テーマ：地域が抱える課題（改善点）の解決後は、どのような地域になっていますか

目指すべき地域の姿の実現に向け、どのような取り組みが必要ですか

(4) 西部地域

A 現行の都市マス策定当時(平成22年)の課題

■ 玄海国定公園に指定された沿岸部など美しい自然環境・景観の保全が必要

- 後世に残していくべき価値ある地域資源および観光客を流入させるための資源としての美しい自然環境・景観(いろは島、大浦の棚田など)の維持・保全

■ 既存の観光・交流資源・施設の活用、および農漁業との連携による地域振興が必要

- 観光・交流資源(いろは島、大浦の棚田、ふれあい自然塾ひぜんなど)と農漁業との連携による魅力発信と地域振興

■ 中央・北部地域方面等との観光・交流軸となる道路の整備や、回遊性を促す案内標示の充実が必要

- 美しい自然景観や周辺の観光・交流資源の魅力向上と、周遊を促す道路整備および案内表示の充実
- 地域内に点在する観光・交流資源までのアクセスルートとなる道路網の強化(他地域および県域を越えた観光交流の促進)

■ 生活を支える地域生活拠点の維持・再生と、道路改良や公共交通充実、上下水道整備など、安全・安心・快適な生活空間整備が必要

- 住み慣れた地域で永続的に暮らしていける快適な環境づくり(生活排水対策、集落内道路・歩行環境の整備など)
- 地域生活拠点における安定したサービスの提供

B 課題の再検討(「地域の現状」、「住民ニーズの方向性」、「現行計画の進捗状況」の分析・考察)

<地域の生活を支える地域生活拠点の活力低下>

- 人口減少、高齢化等に伴う不良空き家の増加により、居住環境の悪化が懸念される。
- 地域全域の高齢化率が40%を超え、高齢者の孤立化などのリスクがある。
- 小売店舗の人口カバー率が市内で最も低い地域であり、日常の買い物が不便である。

<豊かな自然環境の保全>

- 美しい自然環境に関しては、満足度、期待度ともに高く、引き続き維持・充実が求められる。
- 地域内の豊富な観光・交流資源の活用が求められている。
- 観光・交流資源や農漁業といった地域のポテンシャルはあるが、観光客が滞在していない。
- 食糧生産地や環境に優しいまちとしてのイメージ形成を担う役割が求められている。

<地域の移動や生活を支える公共交通の整備が不十分>

- 乗り合いタクシーなどの地域の実情に応じた交通手段の確保・強化が求められている。

<公共施設などの老朽化・市民のニーズに合わない施設などの増加>

- 通学路にもなっている国道204号について、歩道未設置箇所が多い。
- 公共施設などのバリアフリー対策が十分でない。
- 身近で日常的に利用できる小さな公園・広場の整備が求められている。

<災害リスクの高まり>

- 地域内に土砂災害の恐れのある区域が多数点在しており、近年頻発する集中豪雨等による災害発生の危険性が高い。

C 次期都市計画マスタープランで整理すべき課題（上記Bの内容を踏まえて再設定した現在の課題）

課題1 玄海国定公園に指定された沿岸部など美しい自然環境・景観の保全

- ① 自然公園法等の運用による自然環境の保全
- ② 地域固有の美しい自然景観の保全と、風力発電の風車などの人工景観との共存
- ③ 市民協働による棚田の保全と活用

課題2 観光・交流資源の活用と農漁業との連携による地域振興

- ① 豊富な観光・交流資源と、地域の基幹産業である農漁業との連携による都市・農漁村交流の促進
- ② 持続的な生産確保に向けた農地の保全と、耕作放棄地の未然防止および再生

課題3 他地域との観光交流を促す道路網の整備や、回遊性を高める案内表示の充実

- ① 美しい自然景観や周辺の観光・交流資源の魅力向上と、他地域との観光交流を促す道路整備および案内表示の充実
- ② アクセス性の向上による地域内の観光・交流資源までの回遊促進

課題4 誰もが快適で安心・安全に暮らし続けることができる環境づくり

- ① 地域生活拠点における生活利便機能の維持・集約
- ② 地域の実情に応じた公共交通手段の確保（公共交通の利便性向上・利用促進、安全な歩行空間の確保 など）
- ③ 離島における生活利便性の確保と離島航路の維持
- ④ 高齢者や子育て世代のニーズに応じた暮らしやすい環境づくり（公共施設のバリアフリー化、通学路の安全性確保 など）
- ⑤ 災害リスクに応じたハード・ソフト両面からの防災・減災対策

<次回の策定委員会（第6回）で提示予定>

■まちづくりの目標

■まちづくりの重点方針

- ▶ 西部地域におけるまちづくりの目標を設定し、左記で整理した課題に取り組んでいくための具体的な方法（重点方針）をとりまとめる。

地域別ワークショップの結果を反映予定 ※全5地域の各会場をオンラインでつなぎ、50人規模（公募）で実施（全2回）

- 第1回（11/1開催） テーマ：地域の魅力（特色・資源）や、地域が抱える課題（改善点）は何ですか
- 第2回（11/22開催） テーマ：地域が抱える課題（改善点）の解決後は、どのような地域になっていますか
目指すべき地域の姿の実現に向け、どのような取り組みが必要ですか

(5) 北部地域

A 現行の都市マス策定当時(平成22年)の課題

■ 玄海国定公園に指定された沿岸部、および上場台地の広がる内陸部の自然環境・景観の保全が必要

- 屋外広告物の規制など積極的な景観規制による沿岸域の良好な自然景観の保全
- 湾内水質環境改善のための土砂流出防止対策などの取り組み

■ 「陣跡」「波戸岬」「港町の町並み」などの観光・交流資源の磨き上げと地域内の資源や産業の連携強化が必要

- 観光・交流資源の磨き上げによる観光・交流拠点としての位置づけの強化
- 呼子、鎮西単独ではなく、各地区の観光・交流資源の連携と展開

■ 観光・交流軸となる道路網の強化や周辺地域との連携により、西回り方面の観光・周遊ルート強化が必要

- 本市全体の観光周遊ルートの確立に向けた玄界灘西回り方面の観光周遊ルートの強化

■ 生活の中心となる地域生活拠点の維持・再生と、生活排水対策や防災道路整備など、安全・安心・快適な生活空間整備が必要

- 安全・快適な暮らしのための対策(生活排水対策、急傾斜地等の危険区域、離島航路など)
- 各地域生活拠点(鎮西・呼子)の特性を踏まえた地域再生(臨港道路の整備、名護屋城跡並びに陣跡の活用など)

B 課題の再検討(「地域の現状」、「住民ニーズの方向性」、「現行計画の進捗状況」の分析・考察)

<地域の生活を支える地域生活拠点の活力低下>

- 人口減少、高齢化等に伴う不良空き家の増加により、居住環境の悪化が懸念される。
- 地域全域の高齢化率が40%を超え、高齢者の孤立化などのリスクがある。
- 小売店舗の人口カバー率が低く、日常の買い物が不便である。
- 急峻な地形のため、急傾斜地等の危険区域が点在している。
- 狭隘道路により住宅が密集している。

<豊かな自然環境と歴史的景観の保全>

- 美しい自然環境に関しては、満足度、期待度ともに高く、引き続き維持・充実が求められる。
- 地域内の豊富な観光・交流資源の活用が求められている。
- 唐津中心部方面からの観光客は多いものの、玄海町、西部(肥前)方面からの観光客は少ない。
- 営農者の高齢化と後継者不足から、管理されていない農地の増加が懸念されている。
- 降雨時の内陸部からの土砂流入により、湾内水質の悪化が懸念される。
- 食糧生産地や環境に優しいまちとしてのイメージ形成を担う役割が求められている。
- 港町に残る歴史的建造物等が空き家となったり、老朽化が進むことで、美しい町並みの景観が失われつつある。

<地域の移動や生活を支える公共交通の整備が不十分>

- 乗り合いタクシーなどの地域の実情に応じた交通手段の確保・強化が求められている。
- 集落内の狭い道路の改善が求められている。

<公共施設などの老朽化・市民のニーズに合わない施設などの増加>

- 公共施設のバリアフリー対策が十分でない。
- 沿岸部の豊かな自然・史跡などの地域特性を活かした公園の整備に関するニーズが高い。

<災害リスクの高まり>

- 地域内に土砂災害警戒区域等が点在しており、近年頻発する集中豪雨等による災害発生の危険性が高い。

C 次期都市計画マスタープランで整理すべき課題（上記Bの内容を踏まえて再設定した現在の課題）

課題1 沿岸部や上場台地の自然環境・景観の保全と活用による地域振興

- ① 玄海国定公園に指定された沿岸部の良好な自然景観の保全と、レクリエーション機能を有する観光・交流資源としての活用
- ② 持続的な生産確保に向けた農地の保全と、耕作放棄地の未然防止および再生

課題2 観光・交流資源の磨き上げと産業との連携強化

- ① 自然環境や歴史・文化、町並み景観など、地域の魅力ある観光・交流資源の磨き上げと農漁業との連携による観光・交流拠点としての機能強化

課題3 周辺地域との連携強化による広域的な観光・交流人口の拡大

- ① 中央地域、西部地域方面からのアクセス性の向上による観光周遊ルートの強化
- ② 呼子台場都市漁村交流施設（大漁鮮華、台場の湯）の活用や呼子朝市との連携による都市住民と地域との交流拡大

課題4 誰もが快適で安心・安全に暮らし続けることができる環境づくり

- ① 地域生活拠点における生活利便機能の維持・集約
- ② 地域の実情に応じた公共交通手段の確保（公共交通の利便性向上・利用促進、安全な歩行空間の確保 など）
- ③ 離島における生活利便性の確保と離島航路の維持
- ④ 高齢者や子育て世代のニーズに応じた暮らしやすい環境づくり（公共施設のバリアフリー化、通学路の安全性確保 など）
- ⑤ 災害リスクに応じたハード・ソフト両面からの防災・減災対策
- ⑥ 歴史的建造物の保全による町並み環境の整備

<次回の策定委員会（第6回）で提示予定>

■まちづくりの目標

■まちづくりの重点方針

- ▶ 北部地域におけるまちづくりの目標を設定し、左記で整理した課題に取り組んでいくための具体的な方法（重点方針）をとりまとめる。

地域別ワークショップの結果を反映予定

※全5地域の各会場をオンラインでつなぎ、50人規模（公募）で実施（全2回）

第1回（11/1開催） テーマ：地域の魅力（特色・資源）や、地域が抱える課題（改善点）は何ですか

第2回（11/22開催） テーマ：地域が抱える課題（改善点）の解決後は、どのような地域になっていますか

目指すべき地域の姿の実現に向け、どのような取り組みが必要ですか